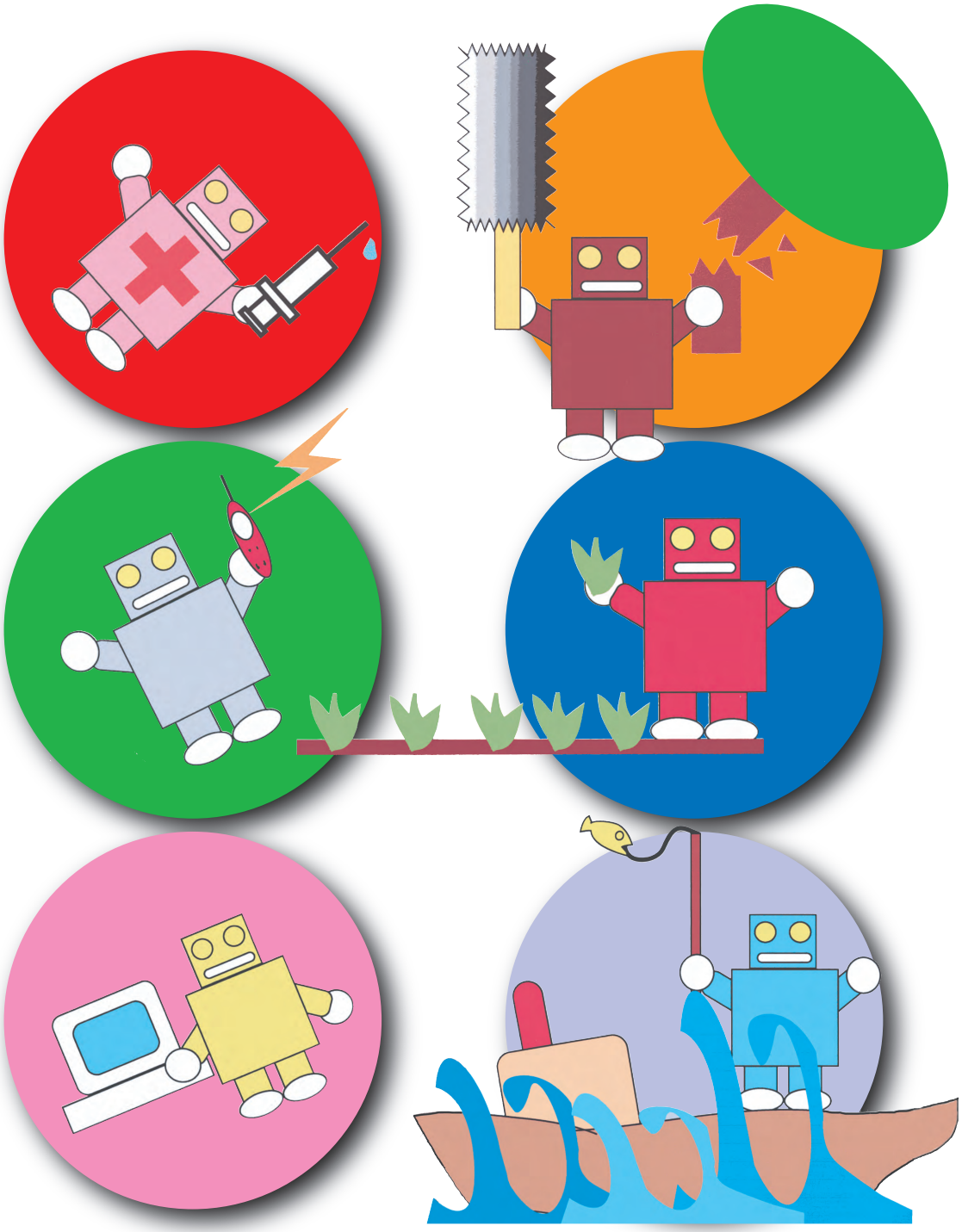
東京の産業教育

特集　企業や地域と連携した学校の取組



平成21年度　47号

東京都産業教育振興会

東京の産業教育　特集　企業や地域と連携した学校の取組　平成21年度第四十七号　東京都産業教育振興会

東京の産業教育　第 47 号　目次

巻頭のことば

「専門高校の今後」　東京都産業教育振興会副会長　本　多　吉　則・・・1
（東京都立芝商業高等学校長）

特集　企業や地域と連携した学校の取組

1　東京都内の酪農家と連携した学校の取組
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事　平　柳　伸　幸・・・ 2

2　地域密着型の学校教育活動
東京都立葛西工業高等学校長　平　林　　博・・・4

3　商店との連携
東京都立第四商業高等学校副校長　島　村　英　一・・・6

4　ＩＳＯ１４００１を取り入れた環境教育の実践
東京都立つばさ総合高等学校主任教諭　田　村　祥　子・・・8

5　都立大島海洋国際高校における企業・大学・地域との連携に支えられた教育活動
東京都立大島海洋国際高等学校長　橋　本　　昇・・ 10

6　総合学科高校における地域連携の意義
東京都立若葉総合高等学校主任教諭　北　山　富美江・・ 12

7　岩倉高等学校における鉄道企業との連携
－インターンシップ（就業体験）科目『鉄道実習』－
岩倉高等学校教務部長　志　賀　保　美・・ 14

8　キャリア教育としてのジュニアインターンシップの試み
－望ましい勤労観、職業観を育成するために－
京華商業高等学校教諭進路指導主任　曽　根　和　志・・ 16

9　食品安全教育とＩＳＯ２２０００導入の取組
東京誠心調理師専門学校教務部長　藤　木　隆　幸・・ 18

10　地域に根ざした農業体験（職業体験）
清瀬市立清瀬第五中学校長　千　野　和　子・・ 20

11　高専と小中一貫校との連携によるものづくり教育推進
東京都立産業技術高等専門学校教授　井　上　　徹・・ 22

12　地域と連携した大学の取組
東京家政大学短期大学部学長　木　元　幸　一・・ 24

東京の産業界

1　時代にチャレンジするクォリティーカンパニー
　―人財こそ企業の活力―
株式会社竹尾代表取締役社長　竹　尾　　稠・・ 27
2　わが社の「人づくり」「物づくり」
　―技術の融合で飛躍―
株式会社日本化薬東京代表取締役　近　藤　　始・・ 30

情報スクエア

1　第７回創造ものづくりフェア ｉｎＴＯＫＹＯ
東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長
目黒区立第九中学校長　情　野　政　彦・・ 32
2　東京都の農業系専門高等学校の展望
東京都立園芸高等学校長　千　谷　順一郎・・ 34
3　第１９回全国産業教育フェア（さんフェア）神奈川大会・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

報　　告

1　平成２１年度総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
2　平成２１年度東京都産業教育振興会教育功労者表彰・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
3　平成２１年度東京都産業教育振興会後援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
4　平成２１年度東京都産業教育振興会作文コンクール
　①　入選者一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
　②　最優秀作文　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
　③　応募校一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

本会の概要

1　平成２１年度事業経過報告（平成 22 年 2 月 22 日現在）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
2　平成２０年度決算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
3　平成２１年度予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
4　平成２１年度役員、委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
5　会員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
6　会　　則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74

編集後記・・ 76

巻頭のことば

「専 門 高 校 の 今 後」

東京都産業教育振興会副会長
（東京都立芝商業高等学校長）
本 多　吉 則

本会は、昭和30年に設立されて以来、半世紀以上にわたり産業界、教育界及び行政が相互に協力しながら、東京都での産業教育の改善と進歩とを図り、もって産業経済の発展に寄与してまいりました。これもひとえに、会員の皆様方の御尽力の賜物によるものと心から感謝申し上げます。

昨年度、中央教育審議会に対して「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の諮問がなされました。これを受け、中央教育審議会では総会直属の部会として「キャリア教育・職業教育特別部会」を設置しました。さらに、特別部会から審議経過の報告を受けております。

ここでは、これまで様々な形で語られてきましたキャリア教育と職業教育を峻別し、キャリア教育を「社会的・職業的自立に向け、必要な知識、技能、態度をはぐくむ教育」と位置付け、職業教育を「一定の又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、態度をはぐくむ教育」と位置付けております。また、さらに、キャリア教育を通じて、社会的・職業的自立を促すために、発達段階に応じて勤労観・職業観をはじめ必要な知識・技能・態度等をはぐくむことを求めております。

また、今後の方向性としてキャリア教育の充実、インターンシップの導入、進路指導の改善・充実、普通科での職業に関する教科・科目の充実、教員・保護者・地域の理解・支援を一層進めていかなければなりません。

さらに、キャリア教育と産業教育の関係では、産業教育は単なる専門的知識・技能の指導に終始しないよう、社会的・職業的自立を促すというキャリア教育の始点にたって行われるべきであります。さらに、一定の又は特定の職業に従事することを念頭に置かない職場見学や職業調べ学習を、将来の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育として位置付け充実を図っていかなければなりません。

このことからも、特に、専門高校は単にキャリア教育を推進するだけではなく、職業人として求められる知識・技能の高度化への対応を行うと同時に、キャリア形成を計画・実行できる力を育成していくことが強く求められております。このためにも、教員の指導力向上、実務経験を有する者の教員への登用の推進、施設・設備の改善・充実、さらには地域の産業・社会との連携・交流等が不可欠であります。

今日、東京やわが国の産業を支える人材を育成するために、産業界・教育界・行政が連携した産業教育の充実・発展がますます重要なものとなっております。これからも一層の御指導、御尽力をいただければ幸いでございます。

特　集　企業や地域と連携した学校の取組

東京都内の酪農家と連携した学校の取組

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
指導主事　平柳　伸幸

私が昨年度まで勤務していた都立瑞穂農芸高等学校における地域と連携した酪農教育の実践について紹介する。

1　東京都における酪農の現状

東京都には現在77戸の酪農家があり、2,130頭の乳牛を飼育して、毎日新鮮な牛乳を生産している（平成21年2月農林水産省調べ）。東京都内で牛が飼われていることを知らない方もいるが、東京都における酪農の歴史は古い。「江戸・東京暮らしを支えた動物たち」（JA東京中央会企画・発行）によれば、奈良時代から平安時代にかけ、すでに酪農が行われていたという記録がある。また、明治時代には東京都が酪農をはじめ全国の畜産技術の開発の中心地であり、現在でも明治時代より続いている酪農家も存在する。

大正10（1921）年には、八丈島で飼育されていた乳牛「エレン・ピーター・チェ・グランソン号」が7歳時に1日の乳量78.37キロという世界最高記録を打ち出している。近年では、住宅地と隣接しながら酪農を営む上での課題や飼料高騰など課題も多いが、酪農家直営のアイスクリームや多摩地域の牛乳だけで作る「東京牛乳」を販売するなど地産地消にも取り組み、都民に対して安全で安心してもらえる牛乳・乳製品の生産に努めている。さらに、小学校や中学校での「総合的な学習の時間」において、児童・生徒に酪農体験の場を提供して、命の大切さや勤労観などを育成する教育ファームとしての役割を担うなど、その存在意義は大きい。現在、都立の農業高校卒業生が酪農家として活躍していることは、とても喜ばしいことである。

2　都立瑞穂農芸高等学校の概要

都立瑞穂農芸高等学校は東京都の北西部に位置し、トトロの森で有名な狭山丘陵に囲まれた豊かな自然環境にある。また、設置学科は畜産科学科、園芸科学科、食品科、生活デザイン科の4科で、東京都において唯一畜産を学べる学校として、今年度で60年目を迎えた。

畜産科学科では2年次より「酪農類型」「養豚類型」「実用動物類型」の3つの類型を設け、それぞれ専門的な知識・技術の習得を目指した学習に取り組んでいる。特に、平成5年度にフェレットやリスザルなど家畜以外の多種多様な動物を飼育できる「実用動物類型」を設けたことにより、畜産分野以外の動物飼育についても学習できる学科となっている。

3　都立瑞穂農芸高等学校の酪農教育

畜産科学科の酪農類型では、平成21年度現在、3年生9名、2年生9名の18名の生徒が在籍し、12頭の乳牛を飼育している。在籍生徒のうち東京都内で酪農を営む後継者もいるが、多くの生徒は農家以外の出身で入学して初めて搾乳を経験する者がほとんどである。平日の搾乳管理は、午前

搾乳実習のようす

分娩実習のようす

9時と午後3時45分の2回、搾乳技術の習得を目的に2、3年生が輪番で行っている。

また、休日における搾乳管理や育成牛の飼養管理に関しては、生徒の自主的な実習（自主実習）として実施している。そのうえ、酪農類型の生徒は、自主実習として朝の7時から約1時間半、牛舎にて朝の管理実習も行っている。早朝からの自主実習のため、朝4時頃起床し、始発の電車に乗って登校してくる生徒もいるが、一つのことに夢中に取り組む生徒たちの姿は、とても輝いている。

4　地域の教育力を活かした取組

(1) 獣医師との連携

大動物への対応として、専門性をもつ獣医師に市民講師として授業を担当してもらっている。聴診器を使っての実習や牧場における手術見学など、その授業内容は多岐にわたっており、獣医師と連携した特色ある授業を展開している。

(2) 青梅畜産センターとの連携

安全な畜産物の安定生産技術の開発等を行う青梅畜産センターに生徒が行き、先端技術の学習や採卵実習などの実習を行っている。これにより学校では実施できない技術の習得が可能となっている。

(3) 日本獣医生命科学大学との連携

3年生の「課題研究」では、一人1テーマで乳牛の研究に取り組んでいる。研究を科学的に進めるため、日本獣医生命科学大学と連携し、大学の先生方から助言をもらっている。また、平成20年度には共同研究という形で関東畜産学会において発表も行っており、生徒たちの自信につながった。

(4) 東京都内の酪農家との連携

乳牛共進会（乳牛の美牛コンテスト）への参加は、学校だけで取り組める行事ではなく、大会前の練習期間中には多くの酪農家を本校に招き、牛の引き方などについてアドバイスをもらっている。また、夏季休業期間には、生徒が酪農家のもとで牧場実習を行っている。このような酪農家との交流から生徒たちは多くのことを学び、刺激を受け、酪農の魅力を感じるようになる。そして、将来酪農家になることを目指す生徒たちが徐々に増えている。

5　まとめ

今回は所属校の取組事例を紹介したが、都内の農業系高校では、同じように農家や地域、大学や小、中学校と連携した取組を積極的に行っている。また、農家などの専門家や大学等の上級学校と連携した取組は、生徒たちの知識・技術の向上につながる大切な経験であり、今後も農家や地域の教育力を活用した農業教育が必要不可欠である。さらに、幼稚園や小、中学校等との連携において、生徒たちが習得した知識・技術を活用して児童・生徒に農業体験を指導することは、豊かな心や協調性を育むとともに、自分たちの知識・技術を再確認することのできる貴重な機会にもなっている。また、東京都公立高等学校長協会農業部会において、平成17年に東京都公立農業高等学校改革プラン「アクティブ・アグリスクールプラン」を策定し、地域連携・地域貢献の推進を掲げたことは、強力な後押しとなっている。

以上のように、農業系高校では関係機関との連携を図り、興味・関心を高めるとともに専門性の高い農業教育を実践しているが、今後は一層の農業教育の充実を図るため、地域等との連携システムを構築していく必要がある。

乳牛共進会の1コマ

地域密着型の学校教育活動

東京都立葛西工業高等学校長　平林　　博

1. 学校の概要

本校は、昭和38年に創立された江戸川区内唯一の専門高校であり、機械科、電子科、建築科の3科を設置し、地域に根ざし、地域に密着した様々な形で、地域に貢献する専門高校を目指し、これまで様々な取組を行ってきました。

このような取組を通し、地域との一体感や生徒の学習意欲を高めることで帰属意識が高まり資格取得や部活動に励み、中退者が減少するなど大きく教育効果をあげてきました。同時に地域からの信頼を得て、幼稚園や小・中学校などから、本校の施設や設備を活用し「ものづくり教育」への参加も年々増えてきました。

2. 第7回　東小松川工場会見学会について

本校機械科では3年次に「課題研究」の授業の一貫として、東小松川工場会の協力を得て見学会を実施しております。この見学会は平成15年度より実施し、今年で7回目を重ねて15社以上の企業を見学させていただき、これまで30社以上の企業に御協力を頂きました。見学会の内容は、午前中に各グループが4社の企業を見学し、午後は講演会を実施していただいております。見学に際し事前指導として、挨拶の仕方、見学時の心構え、見学コース・質問事項の下調べなど機械科並びに担任から綿密に指導を行っています。当日の朝は点呼・注意後、課題研究のテーマ班ごとに分かれ見学先の企業へ向かいます。協力企業は中小企業が主であり、直接、生産現場の様子、職人の技術等を間近に見ることができます。普段、授業では見たことのない機械やその加工方法など、生徒達は驚きと感動の連続でした。見学時には企業の方から仕事の内容や就職する時の心構えなど、社会人としてのマナーなど貴重なお話を聞くこができ、いわゆる大企業の見学とは違い、生の生産現場を見てその場で質問するなど多くの事が学ぶことができる貴重な見学会でした。

企業現場での説明

午後は講演会場へ移動、講演会では工場会の企業主による講演や、特別講師によるコミュニケーション講座など、現在の社会情勢や企業の役割といったお話し、仕事に対する心構えなど、多岐にわたって企業主より貴重なお話しを聞くことができました。特に特別講師によるコミュニケーション講座では、実技を取り入れながらわかりやすくコミュニケーションの大切さについてお話しを頂きました。内容は、生徒が社会に出た時に役立つ実践的な内容であり、生徒達も非常に興味を持って見学会に参加しておりました。見学会終了後、生徒は報告書を書き、それを製本してご協力いただいた各企業へ配布し、ただ見せて終わりの一方通行の見学ではなく、その結果（感想文）をすぐ

マシニング機械の操作

に報告することができるので、企業の方からも、御高評をいただいています。

3. 課題研究での「製品製作」について

同じく機械科の課題研究では、企業の製品を受注して本校で加工するテーマを行っています。

これは「受注」→「試作品の製作」→「検査」→「受注品の製作」→「納品」を生徒自身が行う起業育成の授業です。受入企業は東小松川工場会の会員企業主に御協力をいただきました。

生徒は実習で使用している機械をリストアップし、企業に訪問して受注のお願いをします。企業はそれらの機械で加工可能な製品を選択し、生徒に発注します。その際、図面を見ながら加工方法の確認や材料の手配、納期などを打合せを行い、本校の工場で試作品の加工に入ります。必要な材料を切断し、CAD／CAM で図面作成・加工データの変換を行い、マシニングセンタ等の工作機械で加工し、完成した部品を組み立てた後、企業担当者の検査を受け、合格であれば受注した数の製品製作に入り、不合格の場合は改善を行い、再度検査を受けます。殆どの場合、合格することが難しいです。製品表面の傷、組立精度等、その厳しい検査に生徒達は驚き、学校と企業の現場との違いを大きく学び知ることとなります。また、この一連の流れの中で生徒は頻繁に企業担当者と打合せを行い、電話での応対や、訪問時の挨拶など、改めて社会的常識の必要性を感じることが出来ました。製品が完成して納品時には、ディスカッション形式で発表を行います。生徒は製作の感想や問題点などを発表し、その問題点について企業の方から改善する点や授業全般について講評を頂きます。生徒は完成までの苦労と同時に、製品をつくりあげた達成感を感じ、喜んでいる生徒が多いです。また、生徒の真面目に取り組んでいる様子を見て、企業の方からも良い評価を頂き今後も継続していきたいと考えています。

4. 地域密着型の学校づくりを目指して

本校は、地域に根ざし、地域に貢献する工業高校を目指して様々な取り組を行っています。

その内容は、江戸川区主催事業への参加や協力、江戸川区との共催事業、近隣の小・中学校との連携、幼稚園・保育園児への環境教育、商工会議所江戸川支部や地元中小企業との協力など地域への協力の形は様々です。

5. 江戸川区及び地域と主な連携事業

①一之江駅西口春祭り②一之江駅西口広場イルミネーション点灯式③江戸川区緑の花まつり④第33回緑のフェスティバル⑤環境フェア in 2009⑥金魚祭り⑦道の日キャンペーン⑧江戸川区民まつり⑨産業ときめきフェアなど特に工業高校ならではの特色のある活動として、手作りホバークラフトに子供を乗せたり、ミニ遊園地の展示、二足歩行ロボットのデモ、電気自動車の走行、マシンクラフト部の生徒が参加し、作品展示やペーパークラフト、ガラスコップへのサンドブラスト加工、LED の点滅回路やキーホルダーの制作などを行い、「ものづくりの楽しさ」を伝えてきました。

今後とも、専門高校の特色や教育活動を地域に大きく広報し、工業の良さを訴え「ものづくり教育」の楽しさを共有できる地域の拠点基地として努力していきたいと考えます。

商　店　と　の　連　携

東京都立第四商業高等学校副校長　島村　英一

はじめに

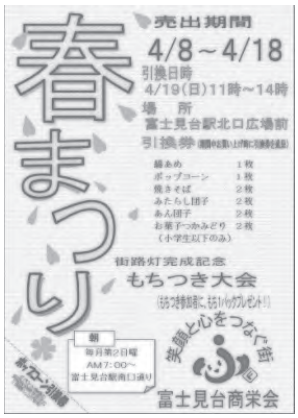
東京都立第四商業高等学校は、練馬区貫井の閑静な住宅街にあります。情報処理科のある商業高校であり、コンピュータの設備も充実しています。また、クラブ活動が盛んで東京都部活動推進指定校でもあり、商業高校ではめずらしい男女の割合が5：5と活気のある学校です。

平成20年度入学生から新しいカリキュラムを導入しました。それまでになかった、小学科でしか選択できないような選択科目を設け、それぞれの専門分野を発展的に学ぶことができるような教科から、コミュニケーション能力、ビジネスマナーなどを学ぶことができる教科まで幅広く網羅し、将来自分がどうなりたいか、そのためにはどのような学習をすべきかを考えたうえで受講させ、卒業後の進路で活かしてもらえるような環境作りに力を入れてきました。

1　「文書デザイン」による商店街との連携

新しいカリキュラムの中でも、この文書デザインは以前から2年、3年に設置されている科目でした。（2回は受講できず）しかし、今回の新カリキュラム導入に向け、更に実践的な経験をさせたいということで近くにある富士見台商栄会の協力を得て、飲食店のメニュー作成を行いました。また、この協力がきっかけとなり、年に4回行われるイベント、歳末大売り出し、春まつり、中元売り出し、秋まつりのポスター作成の依頼を受け、毎回優秀作品が店頭に貼られるとともに、新聞折込広告として活用されています。

さらに、商店街との連携が出来た中で、本校の吹奏楽部がイベントで演奏をするなど、より深いつながりもでき、今後も期待できます。



イベントのポスター

2　「課題研究」ホームページ作成による商店のサイト作成

昨年度は文書デザインと同じく、商店街の協力を得て10店舗のサイト作成を行いました。

・内容

1班4，5人のメンバーで構成し、担当店舗を割り当て、取材からCD－Rでのサイト納品を行いました。

・手順

①　取材に関する準備

あらかじめ聞く事柄、撮影道具の準備

②　取材

各店舗への取材を行いました。インタビュー、商品の写真撮影などです。

③　サイトの企画

レイアウト、内容のヒアリングを教員が行い、追加すべき内容などを提案。特にクライアント（店舗）からの要望を尊重したデザインなどを

確認し、班で共通理解が取れているかも確認します。

④　サイト作成の役割分担

サイトの作成にあたって、担当ページの確認、写真などの素材関連を担う者、別々に作成したページを誰が統括するかなどを班で話し合います。

⑤　サイトの作成

各班計画を基にページの作成にあたっているか、また、盛り込むべき内容を再度話し合いながら進めていきます。

⑥　サイトの確認

特にリンクが正確に張られているか、著作権など問題はないか等、閲覧する立場から改善すべき点を指摘し、調整を行います。

⑦　各店舗へ確認

ノートPCを持参し、追加すべき点や改善すべき点、その他指示を受けます。

⑧　微調整

指示を基に最終的なサイトの作成を行います。

⑨　サイトの最終確認

各店舗からの指示内容と一致しているかどうかを客観的な視点で判断し、改善調整を行います。

⑩　サイトの納品

CD－Rに、各店舗がリンクしてあるトップページから、各店舗へのサイトを閲覧することができるものを入れ、店舗に持っていきます。

生徒に対して直接お店の方から講評をいただきます。

3　反省点と今後について

①　クライアントのコミュニケーション

本来の目的である、クライアントの指示通りのサイト作成、更新を早めに行い、ビジネスライクでのコミュニケーションを取れるように工夫をします。また、担当教員自身もクライアントとのコミュニケーションを多くとり、多忙な中でも生徒にアドバイスや指摘をしていただくようにお願いします。

②　企業のホームページを作成するという認識

「生徒作品」という形で、インターネット上に実際にアップし、サイトを作成する責任感を持たせます。また、本年度は西武池袋線沿線に支店を構えるパン屋さんのサイトを作らせていただくので、原料・流通ルートなどのこだわりや経営理念についてお話いただく時間を設け、企業の一員という気持ちで作成に臨ませるよう指導していきます。

店の方からも架空のページでなく、本当に店の紹介をするページということでアドバイスや指示をいただけるという承諾を得ました。

おわりに

ビジネス教育の中で、コンピュータはもはや、使い方のスキルを身につけるだけでは意味がなくなってきています。そのスキルをどう活かすか、また、外部の方との接触によって、自己の作品にどのような課題があるのかを考えていくことで、いま最も必要とされる「コミュニケーション能力の育成」を図ることが期待できます。そして、生徒自身が自己の作品が役に立つことで自信を持ち、社会への責任感も生じ、進路活動への意識も高まると感じています。都立の商業高校は、地域連携や商品開発に力が入り、さまざまな工夫をしています。各科目にこそ「デザイン」や「ホームページ」という名前がついていますが、特に3年生においては、科目のスキルだけ切り離した考え方でなく、商業の基本科目である「簿記」や、「マーケティング」などの知識、その他商業全般の科目ともリンクした内容でなければならないと考えています。企業の方とのコミュニケーション能力の育成や、生徒一人ひとりが課題を見つけ、それを一つ一つ解決していくことに重点をおいた授業を今後も推進し、地域との連携をさらに強めて行きたいと思っております。

ISO 14001を取り入れた環境教育の実践

東京都立つばさ総合高等学校主任教諭　田村　祥子

はじめに

本校は、平成16年に国際標準化機構が定めた、環境マネジメントシステムに関する規格「ISO 14001」の認証を都立高校で初めて取得した。電気使用量やゴミの削減などを念頭に、様々な環境活動を生徒・教職員が協力して取組んでいる。

ここに、活動の一部を紹介する。

1　ISO レンジャーの活動

本校では毎年様々な地域での行事に、ボランティアとして参加しているが、中でも、「ポレポレエコ祭り」や「大田子どもガーデンパーティ」「大田フェスタ」などの地域行事において、生徒達が赤・青・白・緑・ピンクなどのマントに身を包んだ「ISO レンジャー」に扮し、手話の寸劇を行っている。地域の子ども達に環境の大切さを啓発する活動で、本校の体育祭や文化祭でもおなじみの光景である。あわせて行う地域行事でのワークショップでは、福祉や保育の授業で出たクラフト紙の切れ端を再利用し、クラフトパンチやギザ鋏などを活用し、オリジナルエコワッペンやミニカードなどを、生徒が先生になって子ども達に教えている。普段ではゴミになってしまうような紙の切れ端が､切ったり貼ったりを繰り返すことで、オリジナルの作品に仕上がることで、ものつくりの楽しさを知ると共に、作品に愛着を持つことにより「もったいない」の精神にも繋がっていく。

2　青空染色

青空染色では、熱を使わない、天然藍の染色指導を、生徒達が小学校や児童館等で行っている。着古したTシャツなどを、身近にある輪ゴムや割箸、ビー玉や石ころなどを使って絞り染めにし、オリジナルのTシャツができる。空気による酸化で、染液から引き上げたTシャツが緑色から藍色へ変化していく様子を、参加した児童達は興味深い様子で観察していた。シミが付いたTシャツも染め直すことで新たなシャツとしてよみがえることが出来、子ども達にも保護者の方にも好評な活動である。出前もするが、本校を会場に行う青空染色には、隣の小学校から多数の子ども達や保護者が体験に訪れている。

青空染色を終えて

3　スーパーエコタウン事業施設見学

スーパーエコタウンとは、東京都が循環型社会への変革を推進することを目的に、都有地を活用して、民間事業者が主体となって運営している廃棄物処理・リサイクル施設タウンのことである。

毎年、東京都が実施するスーパーエコタウン事業施設見学会に本校生徒が参加し、リサイクル施設を数カ所見学している。事業系のゴミの処理工場であるが、中には粉塵にいたるまで徹底されたリサイクルもなされており、生ゴミから家畜飼料の原料を製造する工程など、普段では目にすることの出来ない様子が学べている。東京都23区の埋め立て地は残り少なくなっており、家庭ゴミのリサイクルについても考えるきっかけとなっている。

4　綿から糸へ　そして布へ

様々な本校における教科「家庭」･「福祉」にお

ける教育内容で、特に力を入れているものに、「綿から糸へ・そして布へ」がある。校庭の片隅を耕し、綿の種をまき、育てた綿を用いて糸を紡ぎ、精錬して染め上げ機織り機で織り、布にするという取組である。本来花壇であった土地ではなく、瓦礫だらけの土地を「社会福祉演習」や福祉部の生徒達が掘り返し、「家庭」科目で出た調理実習の生ゴミなどを堆肥に、畑作りを進めてきた。都会育ちの生徒達にとっては、草むしりや様々な虫との遭遇、畑の主の土蛙との対面などなど、時に奇声が飛び交うこともあるが、合間あいまに草遊びをしたり、草むしりで摘み取ったヨモギを使ってヨモギ団子作りをしたり、空いたスペースで小松菜や芥子菜・蕪・ウコン・藍などを育てたりと、都会の中の小さな自然体験を楽しんでいる。

校庭の草遊び

農業体験とまでもいかない、小規模な活動ではあるが、将来保育や福祉に関わる進路を希望する生徒が多いことから、様々な経験をすることで、資質が高まると考えている。春に蒔いた綿は花を咲かせ、8月末から白や茶色・緑の綿をはじかせる。これらを「綿繰り機」で種を取り除き、カーディングをして、140～150年も昔の糸車を使って綿から糸を紡ぐのである。最初は「出来ない」「無理……」などの声が飛び交うが、そのうちに1時間もすると静かになり、手の中からスルスルと糸が紡ぎ出されていく。

紡いだ糸を使っての織物体験や、古着を裂いたものをヨコ糸代わりに織り上げる「裂き織り体験」などを通じ、ものを作り上げることの大変さを知ることで、改めて「ものの大切さ」について考えるきっかけに繋がる。

以前「私作る人あなた食べる人」というキャッチコピーが物議をかもし出したことがあったが、地産地消が叫ばれる今、食べ物に限らずすべてのものに、作り手がいて使い手がいるから社会が廻っている。作り手と使い手の関係がもっと素朴だった時代のほのぼのさや、誰かの為に何かを作る時の愛情を持った気持ちなど、あたりまえのようで忙しい生活の中で忘れてきてしまった何かについて、次代を担う子ども達が考えるきっかけにしてほしいものと考え取り組んでいる。

これらの活動は、毎年本校を会場に実施している「高校生環境サミット in Tokyo」においても、ワークショップの1つとして家庭クラブのコーナーで紹介しており、「綿繰り体験」「糸紡ぎ体験」「機織り体験」は毎年好評である。

高校生環境サミット in Tokyo 綿繰り体験

5　小学校の国語科の教材「狸の糸車」での実践

隣接する区立小学校の授業を本校で実施する時間を設けて頂き、小学校で育てた綿を使って児童達に本校生徒が糸紡ぎや機織りなどの指導に当たっている。1年生の児童達も狸のようにクルクルとした目で取り組むかわいいひとときである。

おわりに

生産者の見えにくい東京だからこそ、改めて『ものづくり』を通じ人と人との絆や社会のつながりについて考えていくことは、次代を担う若者達にとってとても大切なことと考えている。今後も、本校ISO活動を含め、環境に対し考えていける生徒の育成に努めていきたいと思っている。

都立大島海洋国際高校における企業・大学・地域との連携に支えられた教育活動

東京都立大島海洋国際高等学校長　橋本　　昇

1. はじめに

本校は、伊豆大島に位置し、全都から生徒を募集しているため、多くの生徒が寄宿舎生活をしながら学んでいる。また、前身を都立大島南高等学校海洋科・普通科校の併設校とし、平成18年度の新たな海洋教育を目指した学科改編により都立大島海洋国際高等学校となった。この春に第一期生を出したまだまだ若い学校である。

『海を通して世界を知る』新しいタイプの国際教育「海洋国際教育」を基本コンセプトに、

○　世界の中の日本人としてのアイデンティティを育み、国際人としての資質・能力を育成。

○　三年間を見通した系統的進路指導を通して進路・進学指導を重視。

○　産・学・公・地の連携と地域への貢献。

を基本方針として教育活動を行っている。

今回、本校が取り組んでいる企業・大学・地域との連携した教育活動について概要を報告させていただく。

2. 企業との連携（インターンシップ）

今日のキャリア教育を推進する上で、本校におけるインターンシップは重要な位置付けとなっている。特に自分の将来設計を苦手とする生徒が増えている今日、実際の職業現場を知ることは、自己の職業適性や人生設計を考え、さらには生きかたそのものを考える良い機会である。

具体的には、第2学年において「総合的な学習の時間」の授業の一環として、勤労観・職業観を深化させることを目的として実施している。また、実施時期は、他府県や都区内も含めた就業体験を行うため、長期休業期間（夏休み）を活用して8月に2日間実施している。

就業体験先は、本人の希望を第一とするため、北海道・新潟・埼玉県・千葉県など都内とは限らない。業種や体験内容は水族館や動物園での動物や海獣の世話や清掃、病院での看護師体験、船会社での乗船と接客業務、福祉施設での介護補助、保育園での子供の世話、美容室での補助業務、山小屋での清掃作業、入国管理局、すし店での接客業務、中には漁師体験等、生徒はさまざまな体験をしている。本校でのインターンシップは、前述したとおり、職業調べから希望先への電話での問い合わせ、その後の具体的スケジュール打合せは、本人にさせ、体験終了後の礼状、送付等一連の流れも含め基本的に生徒が主体的に行っている。（学校としては体験の確認の連絡と公文書の発送等打合せ。生徒に対しては事前ガイダンスと事後指導）

このように、生徒自らが興味・関心を持って調べ、自ら望んだ体験先であるので、インターンシップ終了後の企業等アンケートでは、「実習に取り組む姿勢はとても真面目で積極性もありました」「真剣に職場体験研修に取り組み、好感がもてました」「じっくりと物事に向かっていける人材は企業として一番必要とした人材です」と概ね生徒は好印象を与え、一方、「職業として意識の高い方でしたので、受け入れ側が、逆に良い刺激を与えていただきました」「都会の子どもという意味でもっとすれているかと思ったが、素直で、マンネリ化している職場に少しスパイスが入って良かったです」と職場にも影響を与えることができたようである。また、「社会というものをまだ知らない学生さんに対し、「働く」ということの

大変さを知ってもらうとても良い機会となったと思います。我々としても、意図的に大変な部分を多く見てもらうようにしましたので、学生さんの将来に役立てればと思いました」というアンケートの感想は、アルバイト感覚では得られない、生徒にとっては、本当の意味での「社会を知る」という良い経験になったと思っている。

インターンシップは、企業・学校・生徒それぞれのメリットや実施の目的がある。本校でのインターンシップは当初の目的を充分に果たしているが、これも、就業体験先として生徒を受け入れてくれる企業があってこそ実現できるものである。感想のひとつに「貴校の生徒さんは始業前、退社時きちんと挨拶ができて気持ちがいいいですよ」というものもあった。コミュニケーションの最も基本である。ここから人との関わりが始まる。これらが何気なくできる生徒を育てながら、今後も企業との連携を推進し、協力をお願いしたい。

3. 大学との連携（高大連携）

東京海洋大学、東海大学海洋学部、首都大学東京と教育交流に関する覚書等に基づいて、大学主催の海洋に関する特別プログラムへの参加、大学の先生による出張講義などの高大連携事業を推進している。島しょにあるため、平日や土日で開催される講義には出席できないが、夏季休業日中に開催される集中講義には、積極的に参加している。特に東海大学の集中講義受講者は「大学等における学習」1単位として学校での単位認定も行っている。首都大学東京都市教養学部とは本校の施設と寄宿舎を活用した実習実施、参加生徒への教授による講義等をお願いし、また、平成17年には同大学を中心とした「海の恵み～豊かな藻場の回復を目指して～」大島シンポジウムに本校生がアントクメプロジェクトチームを編成し、実習で習得したダイビング技術を活用して、伊豆大島周辺におけるアントクメの生息域調査を行い発表した。さらに、国際教育の一環として、本校の実習船大島丸で大韓民国に寄港し、姉妹校の提携校である国立釜山海技高等学校や釜慶大学校での交流会などを通し、国際教育も実施している。国内での高大連携での生徒の進路意識の高まりや進学意欲の向上、進学先として選択していること。また、海外での交流を通して日本人としての自分を知り、日本を知る。異文化を理解し、それを尊重することなど国際感覚も育っていることなどにより、高大連携の成果は大いに上がっている。

4. 地域との連携（「奉仕体験活動」と「ボランティア活動」）

「地域社会、または国や社会という広い社会に貢献する活動」を実践する場として、教科「奉仕」の体験活動として、学校周辺地域、普段実習等を行っている波浮港や海岸、また、都区内への帰省時にお世話になる出帆港での清掃活動等を行っている。この活動は部活動単位で自発的にも行われるようになった。その他には、寄宿舎生が土日の休みの日に地域で行われる行事（福祉まつり・地域の草刈・盆踊りなど）へ積極的に参加している。また、島の移動図書館（自動車）での読書活動へのお手伝い参加。さらには、本校ボランティア部の16年間に渡るアルミ缶回収活動（地域の方が持ち寄っていただいたものがほとんどであるが）とその売却金で、毎年車椅子を購入し、島の福祉協議会を通して、老人ホーム等へ寄贈している。今年は50台目の車椅子を寄贈することができた。

これらの活動は地域から高い評価をいただいている。

最後に

以上のように、本校では様々な形で企業・大学・地域と連携している。この4月に本校に着任して数ヶ月経つが、本当に企業・大学・地域等に支えられている学校だと感じている。特に地域の皆さまには厳しくも温かい目で見守っていただいていると痛感している。

学科改編後4年目でまだまだ試行錯誤の面もあるが、企業・大学・地域との連携を今以上に深め、信頼を得ながら次代を担う人材を育てていきたい。

総合学科高校における地域連携の意義

東京都立若葉総合高等学校主任教諭　北山　富美江

はじめに

東京都立若葉総合高等学校は多摩地区初、都立で4校目の総合学科高等学校として、平成17年4月に開校した。

文部科学省は高等学校教育の改革推進について第四次報告の中で、総合学科における教育の特色として、次の2点をあげている。

- 将来の職業選択を視野に入れた進路に対する自覚を高めさせる学習を重視すること。
- 生徒の個性をいかした主体的な学習を通して学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習を可能にすること。

これらの特色をふまえた学習活動を展開するために、総合選択と自由選択科目を合わせて、4系列14分野で120余りの講座を設置している。

地域との連携について、人間探究系列「看護・福祉」分野の実践を報告する。

1　「産業社会と人間」から選択科目へ

総合学科高等学校の必履修科目である「産業社会と人間」を1年次に履修させる。自己啓発的な体験学習や討論、職業研究などを通して、自己を探究させ、2年次以降の選択科目を考えさせている。この「産業社会と人間」の「マイライフプラン」は、職業人や企業OBの方に話をうかがったり、進路先を見学したり等の学習を通して、自分の夢や将来を模索、検討し、プレゼンテーションをするものである。

この授業を通し、生徒は多数ある選択科目の中から自分の進路に応じた科目を4系列14分野の中から系統的に履修していく。

総合学科においては、この科目選択が非常に重要であるが、これを「産業社会と人間」が支えており、さらにこの授業の展開においては、地域の職業人や、企業・大学等の人々の協力が不可欠なものになっている。

2　選択科目　人間探究系列「看護・福祉」分野

(1)「看護・福祉」分野の科目

2年次に「社会福祉基礎」、「基礎看護・介護」3年次に「社会福祉実習」、「看護・福祉・医療」の4科目を設置している。開校準備時の教育課程編成の段階からホームヘルパー等の資格取得が可能な科目の設置についての検討がなされたが、専門学科とは異なる、総合学科の選択科目としての「看護・福祉」の科目であることを尊重し、授業内での資格取得は行わない方針で開校当初から教育内容の構築に努めてきた。

(2) 科目のねらいと他教科との関連性

看護や福祉に関する基礎的な知識と技術の習得を中心に福祉の理念を理解させるとともに、自己理解や職業理解を深めることにより自己実現につなげていくことをねらいの柱にしている。

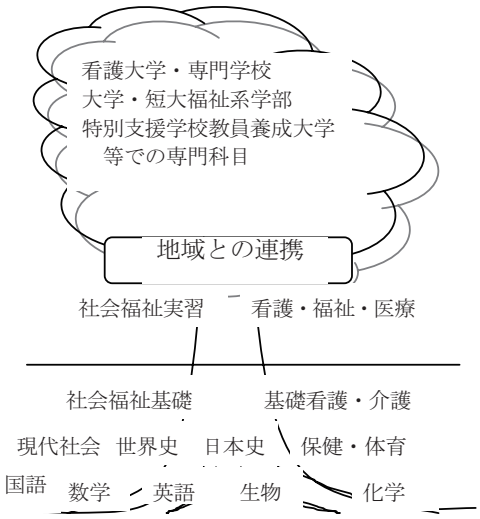


図1

看護や福祉分野の進学先は、資格取得を目指すカリキュラム内容であることが多く、就業まで考えた進路選択が必要とされる。したがって、しっかりとした職業観を形成させておくことが非常に重要である。

図1は「看護・福祉」分野の科目と他の科目等との関連を示したものである。必修科目をはじめとする各科目と2年次の選択科目が将来の進路を支える「根」になり、その上に3年次の選択科目が「幹」となって伸びていくのであるが、その「幹」を太く、しっかりとしたものにしていくために「地域との連携」が重要であると考える。

3　地域との連携

(1) 地域の人材活用

「基礎看護・介護」「看護・福祉・医療」の授業については、臨床経験の豊富な看護師の市民講師による基礎的な看護技術や医療関係職業倫理等の講義を中心に授業を組み立てている。さらに、特別養護老人ホームに勤務されている介護福祉士による介護技術指導等の実習を通して、看護と介護との違いを学び、職業人としての経験談を聞くことにより、職業理解を深めることができている。

また、聴覚障害や視覚障害のあるかたを講師として障害の特性に応じた生活の工夫やガイドヘルプ、手話を学習する授業も実施した。障害者と交流することで、障害に対しての理解が深まり、自分達にできることが明確になった。

視覚障害とガイドヘルプ体験

視覚障害と音声パソコンの体験

視覚障害者との授業風景

(2) 高齢者施設との連携

徒歩10分弱のところに地域サービス福祉センターの機能を果たす高齢者施設がある。高齢者福祉に関することはこの施設に全面的な協力を得ている。施設を訪問させていただいたりして、介護職員や専門学校や大学からの実習生を指導する職員から指導をうけている。

(3) 障害者施設との連携

学校から徒歩圏内に知的障害者の施設がある。この施設は、成人の入所施設をはじめ、知的障害児の就学前指導や就労支援事業等、知的障害者の地域における福祉サービスの大半を担っている施設である。これらの施設の見学を始め、知的障害者との交流を通して、障害の正しい理解につなげている。また、幼児から成人までを対象とした施設であるので、年齢に応じたサービスの必要性を理解することもできる。

(4) 病院との連携

授業時間内の見学等は困難であったが、長期休業日を中心に、病院でボランティア形式で看護師等の手伝いをさせてもらっている。3日間以上連続して参加することを条件にしているが、生徒が希望する職種に応じて、リハビリ室や病棟など配置を配慮してもらっている。医療・介護系の進学を考えている生徒にとっては、この経験が進路先を決定する大きな手がかりになっている。

まとめ

以上が「看護・福祉」分野の科目における地域連携の実践報告である。しっかりとした職業観を育て、職業人としての理想の姿を形成させることが、進路実現につながっていると考える。地域との連携の中で、生徒は多くの人と出会い、様々な人々の生き方を知ることができる。そして、その中で自分を見つめ直し、自分の生き方を考える。専門的な知識や技術の習得に向けて、しっかりとした土台づくりを行うために地域との連携は不可欠であると考える。

岩倉高等学校における鉄道企業との連携

―インターンシップ（就業体験）科目『鉄道実習』―

岩倉高等学校教務部長　志賀　保美

1. はじめに

本校は明治30年6月5日に、日本初の鉄道学校として創立し、その後、岩倉鉄道学校から現在の岩倉高等学校へと名称を変え、今年度で創立113周年を迎える高等学校である。機械科・運輸科・商業科という専門課程3科に、普通科を併設した4つの科と7つのコースを持つ総合高校であり、運輸科を中心とする鉄道及び鉄道関連企業への就職を目指している生徒達は、その目標達成のため日々努力し、充実した生活を送っている。本稿では、鉄道企業との関わりを、『鉄道実習』というインターンシップ科目を中心に、どのように連携しているかを報告する。

2. カリキュラム上の扱い

ここ数年、インターンシップ（就業体験）と呼ばれる企業との連携は、大学のみならず高等学校においても重要視され、実施校の数も専門課程を持つ高校を中心に増加している。高校におけるインターンシップの位置付けは、カリキュラム上で単位認定されているか、されていないか。また、卒業単位として含まれるか、含まれないかという部分で学校により様々である。本校の場合、創立当初の目的が、鉄道員の養成ということもあり、就業体験授業は、『鉄道実習』という希望選択科目として、古くから単位認定した上で実施していた。その後、近年のインターンシップの重要性に鑑みて、平成18年度から卒業単位に含まれる希望選択科目『鉄道実習』として再出発した。なお、その他詳細は次の通りである。

	H17まで	H18から
実施学年	1年生	2年生
実施時期	7月下旬～8月中旬	
実施期間	10日～14日間	4日～10日間
実習時間	9:00～17:30	9:00～17:30
単位数	1単位	1～2単位
単位認定	する 卒業含まず	する 卒業含む
生徒人数	200～300名	150～200名

1単位認定の根拠としては、35単位時間（50分×35＝1,750分）は、次の計算により、十分クリアできる。

校内での事前・事後指導　計5回

50分×5回＝250分

実習期間は休憩を除いた7h/日として

最低の4日間を例にとると

7h×60分×4日間＝1,680分

よって250分＋1,680分＝合計1,930分

3. 企業連携の取組、実績及び成果

本校において企業連携という名称で協力していただいているのは、東海旅客鉄道株式会社（JR東海）と、東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）である。なお、JR東日本においては、東京支社・八王子支社・大宮支社・千葉支社と横浜支社の5つの支社に協力いただいていて実習駅の総数は35～40駅となる。鉄道企業への実習参加は、一般のお客様への接客が中心で、責任を持った説明と対応が必要である。お客様は実習生だからといって間違った案内を許してはくれない。それどころかその不満は、JR各企業支社への苦情と

なってしまう。鉄道会社の現場（各駅）においても、「参加期間は社員同様の扱いをするので責任感を持って勤務して欲しい」とのリクエストがあり、それを受けて学校内でも事前授業を実施している。なお、校内における事前授業5日間の内容については下の表を参照

鉄道実習　校内履修計画

		項　目	内　　容
5	30	第1回 ガイダンス	詳細説明・履修再確認 ○実習駅・期間・評価等
7	13	事前授業 1日目	「実習中の注意事項」 ○勤務態度のポイント
	14	事前授業 2日目	「挨拶について」 ○挨拶・言葉づかい
	16	事前授業 3日目	「事前学習・身だしなみ」 ○予習事項確認・服装説明
	17	実習前最終 ガイダンス	○頭髪・服装・持ち物確認 ○時間・集合場所再確認他

つぎに、実習中（午前・午後）のスケジュールは、次の通りである。

JR東日本　横浜支社横浜駅の場合

1日目	午前：オリエンテーション・駅構内見学 午後：駅周辺施設覚え・お客様案内
2日目	午前：ホーム見学・券売機前お客様案内 午後：改札前お客様案内・駅設備見学
3日目	午前：駅設備見学・お客様案内 午後：案内・人身事故時の対応学習
4日目	午前：改札事務所内で案内 午後：自動券売機前でのお客様案内
5日目	1日：横浜トレーニングセンター マルス端末操作・安全について 運転士の仕事・非常停止ボタン取扱 グループ発表など
6日目	午前：タウン誌の取材・お客様案内 午後：お客様案内・日誌作成・反省

JR東日本　品川駅　　接客時の様子

最終的な評価は、出欠席・実習日誌に加え複数の教員による駅巡回チェックと企業側担当者のコメントにより、年度末に5段階評定をつけている。

4. おわりに

本校で実施している『鉄道実習』について企業の捉え方は様々で、そのいくつかを紹介する。

①「移動手段が多岐にわたる現在、高校生対象のインターンシップを通して、鉄道全般のファンではなく、この会社のファンとなって欲しい」

②「短い実習期間ではあるが、単に鉄道が好きだからではなく、この会社が取組んでいるブランド力向上を、強く意識し理解して欲しい」等、授業の一環としての就業体験の中に、今後も鉄道をたくさん利用して欲しいといったお客様としてのものと、将来鉄道マンになる可能性が高い生徒達への期待といった、先を見据えた考えとなっている。最後になるが、生徒たちが提出する実習ノート（レポート）の感想欄には、実際の接客案内業務を経験したことによる初日の緊張感やお客様に説明することの難しさ・責任や働くことの重要性が皆同様に記入されている。この経験が、翌年の進路先決定に際して大きな意味を持つということが感じられる。

キャリア教育としてのジュニアインターンシップの試み

―望ましい勤労観、職業観を育成するために―

京華商業高等学校進路指導主任　曽根　和志

はじめに

本校は明治34年に設立され、以来百余年にわたって実学教育を実践し、産業社会の発展に寄与してきた。従来の「商業高校」自体が組織改組を進め、その学校数も減少傾向にある近年、首都圏では唯一の私立共学商業高校として、これまでの歴史と伝統を継承しつつ、21世紀の時代と社会に有用な人材の育成に主眼を置いた商業教育を展開している。

本校の進路状況は大学・短大進学約50％、専修・専門学校進学約30％、就職約20％という割合で推移しており、商業高校＝就職という認識はもはや過去の見解といわざるを得ない。しかし、進学にしても即就職にしても近い将来社会の一員として貢献していくことに変わりない以上、高校時のキャリア教育は今後ますます重要視されるものと考えられる。以下、本校でキャリア教育の一環として取り組んでいるジュニアインターンシップ（就業体験）について報告する。

ジュニアインターンシップの意義

近年、産業構造の変化や雇用の多様化等により若者の進路の環境は大きく変化している。同時に、社会人となるにあたっての規範意識の希薄化、早期離職率、フリーター・ニートの顕在化等も社会的な問題として浮き彫りになっている。とりわけ、新規高卒就職者の入社後3年以内の離職率は平成12年に初めて50％を超えて以来、ほぼ横ばい傾向が今日まで続き、明確な改善が見られているわけではない。また、フリーター・ニートに関しても政府の施策「『若者の自立・挑戦アクションプラン』の強化（改訂）」に基づく各学校の様々な取組によって数こそ減少傾向にあるものの非正規雇用社員のリスクを生徒がどれだけ理解しているかについては疑問の余地が残る。

早期に離職する理由として上位に挙げられるのは、「仕事があわない」、「家庭の事情」、「就労意欲が乏しい」で、これら3つの理由での離職が離職者全体の半数を占めていることを考えると「家庭の事情」を除き、いかに本人の勤労観、職業観が希薄になっているかがわかる。ジュニアインターンシップは実際に企業の仕事を体験し、異世代の人と接することによって勤労観、職業観を育成するきっかけとなるものであり、また、早期に実社会の一端に触れ、職業人としての自分を設計する動機付けとなる意味合いでも意義のある良策の一つとして位置付けられる。

本校での取組

(1) ジュニアインターンシップの目的

本校では平成15年から、「ジュニアインターンシップ（就業体験）を通して、生徒の的確かつ実践的な職業理解を深めるとともに望ましい勤労観、職業観を育み、将来に向けて自己の適性に基づく職業選択能力の育成を図る」という目的を掲げ、キャリア教育の一環として導入してきた。

(2) 対象生徒・就業期間及び協力企業

当初は進路希望予備調査の結果を踏まえて、2年生の就職希望者のみを対象とし、そこからジュニアインターンシップ希望者を集ったが、現在は進路希望にかかわらず、2年生全員を希望に応じて対象としている。就業期間は5日間を原則とし

て、企業の設定日数にあわせている。

（H15 ～ H21 の協力企業　順不同）

㈱不二家、伊東酒販㈱、東京アート㈱、サクシード㈱、ニチベイサービス㈱、㈱ぬ利彦、㈱長崎屋、㈱ワシントン犬店、社会福祉法人養浩荘、㈱アマイ、丹平中田㈱、㈱パレモ、いずみこども園、神田保育園、西神田保育園、奥山管材機器㈱、㈱グランブルー、㈱クサマ、㈱ビック・ムーン、㈲ドクターフット、まどか幼稚園、松竹㈱、東一の江幼稚園、㈱ルサックアダム、㈱アソシエ・インターナショナル、東洋証券㈱、三省堂書店㈱、モロタ防災㈱、本郷高齢者在宅サービスセンター、山﨑伊久江美容室、㈱山の上ホテル、㈱赤坂維新號、㈱機山館、エイチ・エム・ヴィ・ジャパン㈱、㈱ヴィクトリア、㈱ジュンク堂書店、㈱コジマ、三原堂製菓㈱

（H15 ～ H21 の企業数と参加人数）

H15：10 社 17 名	H19：7 社 9 名
H16：18 社 34 名	H20：6 社 6 名
H17：10 社 18 名	H21：7 社 9 名
H18：　4 社　6 名	

（3）実施の流れ

実施にあたっては「ハローワーク飯田橋」との協力連携を結び、本校の指導計画に基づいて行っている。

1 年次 3 学期　参加希望予備調査

2 年次 4 月～ 5 月　参加希望本調査（企業選択）、希望企業への受入依頼、実施計画書の提出（職安）、損害・傷害保険の加入（職安）、細菌検査実施（保育園希望者のみ）

2 年次 6 月上旬　受入企業事前訪問打合せ（教員＋生徒）、事前指導①（就業マナー等）

2 年次 6 月中旬　事前指導②（実習日誌の書き方、就業の心構え、期間中の諸注意等）、ジュニアインターンシップ実施（5 日間）

2 年次 6 月下旬～ 7 月　受入企業事後訪問お礼（教員）、事後指導①（実習日誌の完成等）、事後指導②（お礼状の書き方等）

ジュニアインターンシップの成果

インターネット等の普及によって容易かつ瞬時に情報収集が可能になった反面、実体験に乏しくなった最近の生徒にとって、企業の仕事の一端を実際に経験することは就労意欲の喚起と啓発につながる極めて貴重なものとなった。また、友人を中心とする横の人間関係から異世代の人を中心とする縦の人間関係への環境変化は若者に不足しているとされるコミュニケーション能力の育成にも非常に効果的であった。

参加した生徒の職種は左記の協力企業を見ても多岐にわたるが、実習を終えての感想等を見ると共通して、社会の現状、仕事の厳しさ、社内外の人間関係の重要性、社会に対する貢献度等を少ない日数ながらも明確に学び取り、日常の学校生活とは性質を異にする感動や達成感、充実感を味わっている。さらに、この経験を契機に高校卒業後の進路の方向性が明確になった者、就職希望に自信をつけた者、職業適性について考えるようになった者、勤労の貴さを学んだ者等、「働く」ことの意義を見出すことができたことはジュニアインターンシップならではの成果といえる。

今後の課題

高校生のキャリア教育を考える場合、高校卒業時の進路選択が自分の将来像を設計する起点になることをいかに早期に意識付けさせるかが重要になる。ジュニアインターンシップも単発的な学校行事の一つとしての扱いではなく、3 年間の系統的なキャリア教育の通過点としての位置付けにならなければ生徒自身の将来設計の意識（職業と自分との結びつき）は芽生えにくい。望ましい勤労観、職業観を育成するためには、1 年次から段階的により多くの「実社会の実体験」をキャリア教育の中に盛り込むことが効果的であり、ジュニアインターンシップをはじめ、奉仕活動、地域活動への参加について、地域と企業により一層の協力を求めていくことが今後の課題となる。

食品安全教育とISO22000導入の取組

東京誠心調理師専門学校教務部長　藤木　隆幸

1. 食品安全の取組

我が国の食品産業界では、食のグローバル化、食品サプライチェーンの普及など多様化するなかで、食品の安全性は従来の安全確保の概念、枠組みだけでは限界があり、これまでに食品製造過程における、高度衛生管理技術の導入が推進されてきた。具体的には1995年（平成8）の食品衛生法改正では、1960年代に米国で開発された危害分析重要管理点方式（以下HACCP）による衛生管理の概念を導入した「総合衛生管理製造過程の承認制度」が発足、これまでに食品製造業を中心に導入されてきた。一方、フードサービスにおいても取組が始まり、地方自治体を中心としたHACCPの概念に沿ったガイドラインも示され導入が推進されている。

2. 調理師専門学校での食品安全教育

厚生労働大臣の認可をされた調理師専門学校では、調理師法の下で調理実技をはじめ所定の教育課程が定められており、所定の教科にある「食品衛生学」で食品安全に関わる専門教育が行われている。この「食品衛生学」では、食品による健康危害の病因物質、食品添加物、器具容器、食品安全対策などの内容が網羅され、講義と実験を通じて授業が展開される。将来、調理師を目指す学生たちは、大多数が卒業しフードサービスに就職することから、調理技術の養成はもとより、こうした食品安全に関わる教育は、前述にある業界の食品安全への取組を踏まえ、その重要度は高まりを増している。しかし調理師養成の現場では、調理の技術教育に偏重する観もあり、とかく高度技術の付与に偏る恐れもあり、調理技術とHACCPなど食品安全の教育が一体となった教育効果の実現が求められる。

3. 東京誠心調理師専門学校の教育環境

本校では2007年（平成19）8月に新校舎を竣工し教育環境の整備に取組んだ。より業界のニーズに沿った人材育成に必要なハードを構築するため、設計段階から理事長自ら先端の食品製造施設やホテル・レストランなどへのインタビュー、製造ラインや食品安全システムの視察に取組新校舎の随所にそのノウハウを注入した。

特に重点課題としたのは、業界の求める調理技術と食品安全管理スキルを兼ね備えた専門職の育成とし、その必要な教育プランとハードの実現であった。そのため、従来からある調理技術教育施設（以下調理実習室）をはじめ、供給する原材料の管理施設、原材料の搬送設備、フードサービス全般に関わるオペレーション実習施設を配置し、その全施設に関わる衛生レイアウトを計画した。

そのベースは、HACCPの前提となる施設設備にあり、衛生管理の基本となる前提条件プログラム（以下PRP）に沿った内容とした。

具体的には、原材料の受入から調理実習室への搬送、搬入までの交差汚染を防止するワンウェイの導線を確保し、学生が調理実習を通じてPRPを体感できるレイアウトとした。更に、調理実習室、オペレーション実習施設では、清潔作業区域（真空充填ライン・盛付・提供ライン）、準清潔作業区域（加熱ライン）、汚染作業区域（原材料検収・食品保管エリア・下処理ライン・洗浄ライン、調

理実習室前室・調理実習室ホールエリア）の作業区画に配し、学生が床面防水タイルのカラーで区域を識別できるようにしている。尚、施設計画に関する妥当性の確認は業界関係者と連携のもと検証されたものである。こうして、教育理念と業界ニーズが融合し本校の目指す調理師育成の教育環境が整備された。

4. 食品安全教育プログラムと FSMS

教育環境の整備においては、同時に教育プログラムの計画も取組んできた。本校の掲げた重点課題を実現するためには、いうまでもなくハードとソフトの確立と、その運営に対する妥当性、有効性の確認、検証及び改善が必要となる。先の新校舎によりハード面が確立され、その環境を活用する教育プログラムがソフト面であり、その具体的活動が運用面となる。教育プログラムについては既存の資源が存在するため、特に食品安全教育面での強化を目的に検討した。ここではやはり業界における先進の食品安全の状況を参考に、関係者からのインタビュー、助言も考慮した。その結果、本校の目指す教育プログラムには、その支援となるマネジメントシステムが機能することで、一定の教育効果が得られることの結論に至り、本校が着目したのは食品製造業で導入の進む FSMS である。

FSMS とは食品安全マネジメントシステム（Food safety management systems）の略称でこの規格が、国際標準化機構（International Organization for Standardization）の発行する国際規格、ISO22000：2005 である。食品安全を実現するための要求事項で構成されるこの規格では、トップマネジメントを含めた組織全体の総合的な取組が要求されること、食品安全方針・目標に始まり、PRP 計画、ハザード分析、HACCP プラン、妥当性の確認、検証及び改善、マネジメントレビューなどが要求されている。

このマネジメントシステムを本校の教育プログラムのベースとし、規格の要求事項と食品安全教育を連動することで、学校全体でシステム的に高い教育効果が期待できる。また、規格は要員の力量についても要求しており、学校の教職員自ら教育力向上も求められ研鑽の機会ともなる。なによりも規格は、計画の妥当性について検証改善を継続することを要求しており、システム的に食品安全教育の妥当性、検証、改善が継続されることで、本校の教育内容の品質維持向上も期待できる。

こうした ISO22000：2005 のマネジメントシステムの踏まえたインストラクションマニュアルの構築と教育の実践により、本校の目指す調理技術と食品安全管理スキルを兼ね備えた専門職の育成を目的に本年 2009 年（平成 21）1 月プロジェクト編成、導入のための準備作業を開始した。

5. 現在までの進捗状況

現在、本年度内の導入を目標に食品安全チーム構成、食品安全方針・目標周知、PRP 確立、ハザード分析、HACCP プランなどの作業が進行しているが、部分的には PRP マニュアルに沿った実践指導が導入され学生指導に反映している。

調理実習

基本的な手洗・消毒、調理実習室入室点検、必要に応じた手袋着用、加熱温度測定作業など、やるべき作業として学生にも習慣として定着してきた。更に指導教員側もこれまで以上に食品安全への意識向上が図れるなど、実際の実務に沿った内容とその根拠がシステムとして示せる利点はここにある。しかし、これらは学校だけの独自性だけでは構築できない。リアルな業界との連携による成果であると改めて実感した。

地域に根ざした農業体験（職場体験）

清瀬市立清瀬第五中学校長　千野　和子

1　地域の農業を知る

東京の多摩地区にある清瀬市は、武蔵野台地の東北に位置し、柳瀬川、空堀川が流れ、緑と林、畑の多い地域です。

工業地域や商業地域とは違い、にんじんの産地でもある清瀬市は、畑が多く秋になるとにんじんの葉の緑で覆われます。夏にはひまわりの花が咲き、とうもろこしの実がたわわになります。学校給食には、その畑から取れる作物を、地域の産物として食事をすることができます。

学校の教育の中に「食育」が進められ、食材や人が食することについて、世の中の興味関心が高まる中、本校では農業の職場体験を始めました。

2　本校の農業体験

最近の生徒の中では、その地域に住んでいても、土に親しんだり、作物を育てたりすることが少なく、土や草の香りを意識して嗅ぐ時間が少なくなっていると感じます。しかし周囲の風景には実際の生活にもある野菜を育てていることを生徒が知り、その土にさわることも自分が育った地域を知ることや地域の愛着にもつながると考えます。

本校の職場体験は、その地域性を生かして、自然に親しみ、食の視点を取り入れて、平成19年度から農業体験を実施しています。自分の住む地域を実際に歩き、作物にふれること、働く人々の姿を見たり、聞いたりし、更に自分自身もその中で働くことにより、自分が住んでいる地域の再認識と「働く」ことの大切さ、喜び、苦労をしていることなどを知るように、設定しています。

そのために、農家の方々との連絡、連携をはじめて、徐々に職業体験としての広がりをもってきました。

清瀬市は学校が5校ある中、本校のみの体験にはできないことから、市の農業委員会も立ち上がり、市と協同して行うことができるようになりました。その市との連携を深めていくことも、生徒にとって地域を知り、人の動きを知ることにつながっていくひとつの学ぶ機会にもなっています。

3　本校の3年間の計画と流れ

1年　職場訪問　市役所、消防署等の官庁関係、病院、医院、工務店関係、飲食店関係、その他
校内の農園での作業の実施
（ジャガイモ、小松菜、かぶ、大根、さつま芋等を作る）

2年　職場体験（農業体験）
市内の農家に行き、農業体験を実施する。農業を通して地域を知り、働くことのすばらしさ、責任、やりぬく努力をすることを学ぶ。

3年
- 食についてのまとめ、あらゆる視点をもって総合的な学習の時間による発表を行う。
- 発表を通して、プレゼンテーション能力をつけ、3年間にわたる食に関する高い意識を養う。冊子にまとめる。

本校で農業体験を実施していく過程には、さまざまな試行錯誤があり、模索してきました。

最初は、学校に土地を提供していただき、そこに農園を作った時期から、徐々に教職員の作物に対する興味関心が高まりました。実った作物を給食で調理してもらったり、生徒が持ち帰り、自宅で調理したりすることから農業体験に対する意欲

が増してきたと感じられる経緯があります。

市の農業委員会の存在は、市と協同して行うことや地域との連携を深めること、地域そのものや市として人の動きを知ることができ、生徒にとっての学ぶひとつの機会になっています。

農業実習体験

4　具体的動きについて

二年生の農業体験による具体的な作業内容は、種まき、草むしり、芋ほり、ほうれん草、小松菜、キャベツ、サトイモ、にんじん、ごぼう等の収穫、ハウスの張替え、花の植え替え、酪農関係、販売、袋詰め、出荷などがあり、生徒にとっては、ひとつの畑から、さまざまな体験を通して学びます。

農業実習体験

写真のように作物を実際にさわり、食することから、食に対する意識を高めています。

三年生でのまとめでは、「自分の身体のこと」「日本や世界の食糧事情」「受験に負けない食べ物について」など、食材、病気予防等視野を広くもち、自分自身のことから周囲の環境、ひいては世界の環境問題にまで考えを広げ、各学級でまとめた冊子は見ごたえあるものに仕上げました。

サービス産業に気持を傾けがちな中学生にとって、農業は食の要に目を向けることであると思います。作物を作ることは時間がかかるものであること、手間隙かけなければ、よい作物を得ることができないこと、太陽の光や雨など自然の恵みを受けなければ美味しく食べることができないことを理解し、自分の口に入るまでの過程を知ることができる体験、学びであると確信しています。

職場体験で大事なことは、教職員の意識がどのように生徒に向くかで変わることが大きく響くことであると思います。農業に対する理解をまず教職員が行い、地域を知ることから始まります。また、中学生を受け容れていただくためには、農家の方々の深い理解を必要とします。生活を支えている商品を、生徒が出荷したりまとめたりするため、中学生の動きがどのようになるのか心配なこともあったと思います。今は、3年目を迎え、農業委員会を通じて御理解を得ながら、進めています。

5　今後の課題

2年生の学年全体で実施できた農業体験は、農家の方々の御厚意があればこそのものです。1週間でも長い期間ぜひ行ってほしいというご意見もあれば、2日間ならば引き受けることができるなどのことばもあり、今後も同じ状況のまま依頼していくことは課題と考えています。教職員は転出入があり、農業に対する理解を毎年継続していくことが必要であり、校内全体、各教科にその体験をいかに活かし、理解を深めることができるかも現在の課題です。農家の方々からのよりよい感想が今後も続くように学校として事前・事後指導にも充実を図り、よりよい特色ある職場体験として継続させ、生徒にものをつくる、育てる学びを深めたいと思います。

高専と小中一貫校との連携によるものづくり教育推進

東京都立産業技術高等専門学校
ものづくり工学科長　教授　井上　　徹

1. 高専のものづくり教育

わが国の産業界は 21 世紀を迎えて、大量生産方式を支えた中堅技術者から、付加価値の高い製品を企画・開発できる高度な専門性を有する実践的技術者を期待している。さらに少子化による若年人口の減少及び団塊世代の退職等により、企業での技術・技能の継承と若者技術者の育成が急務の課題となってきた。このような社会状況の中で、東京都立産業技術高等専門学校（本校）は平成 18 年 4 月に都立の 2 高専が統合して発足し、同時に高度な開発型技術者を養成する専攻科が開設された[1)]。また、平成 20 年 4 月には東京都教育委員会から公立大学法人首都大学東京に移管され、産業技術大学院との連携で 9 年間一貫の実践的技術者育成が可能となった。

これまで本高専は 5 年間一貫教育により、15 歳からの若い感性に実験・実習を通して自然や工学の原理・原則に関する知的刺激を与える早期体験型教育を実施してきた。この実績を基に、都市型高専の特色を生かし「首都東京のものづくり教育の中核」として 21 世紀のものづくりを発展させるべく、地域との様々な連携を推進してきた[2)]。

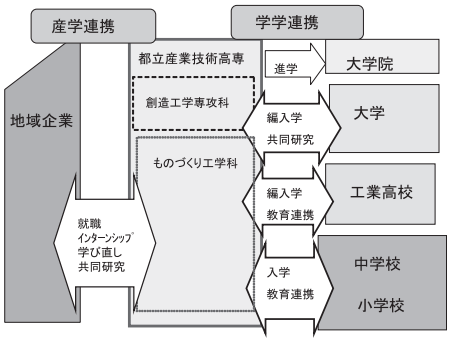


図 1　都立産業技術高専の連携活動

2. 小中一貫ものづくり教育の支援

わが国は少子化に伴う大学全入時代を迎えている中で、初等基盤教育において質的な転換を迫られている。即ち、児童個々の能力を最大限発揮させる教育が求められている。これを受けて品川区教育委員会では、総合的な教育改革「プラン 21」を策定した[3)]。

平成 19 年 3 月に東京都教育委員会と品川区教育委員会は、本校と品川区立八潮地区一貫校（八潮学園）との連携によるものづくり教育推進事業に関する基本協定を締結し、ものづくり教育プログラムを開発・実施することになった。

両校によるカリキュラム検討部会を立ち上げ、教育コンセプト及びカリキュラムを検討した。初等基盤教育からのものづくり教育とは、ものづくりに関わる知識や技能の習得を図るとともに、ものづくりへの意欲を高める教育であり、その発達段階を通じて身体的な機能や能力の向上を促し、豊かな人間性と創造性を養成するものである。

それ故、小中一貫の 9 年間の早期ものづくり教育においては、知識で理解してからものづくりを

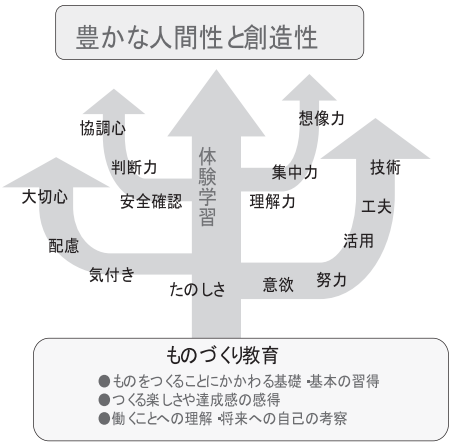


図 2　早期ものづくり教育の概念図

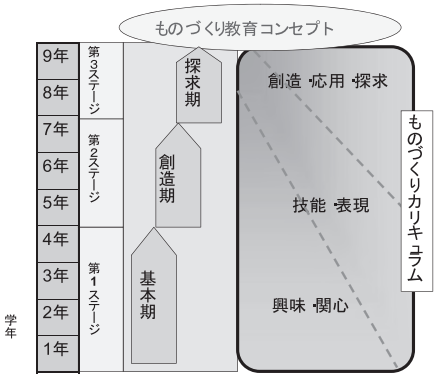


図3　ものづくりカリキュラムの概念

図4　ボートの製作と試乗操作

表1　平成20年度のものづくりテーマ

学年	体験テーマ	体　験　概　要
1	つくってあそぼう	種の模型の落ち方（注：「種の模型」…落ちる際，プロペラのように回転しながら落ちてくる植物の種を模した模型）
2	風をかんじて	かざぐるまづくり
		ウィンドカーの仕組み
3	磁石の不思議を調べよう	磁石の性質を用いたおもちゃ
		製作したおもちゃへのアドバイス
4	とじこめた空気や水をおしてみよう	空気のちからとはどういうものか（多様な長さのパイプから流れる水の勢いについて）
		ペットボトルロケット製作（よく飛ぶロケットの秘密について）
5	てことつりあい	てことつりあいを生かしたおもちゃ製作（モビールなど，てこをつかったおもちゃづくりのヒント）
6	電磁石の性質	電磁石を生かした作品の製作（電磁力の発生や強度の原理，鉄心などの心材の材質とその効果）
7	ものづくり	自律型ロボットの製作およびライントレース実習
8	ものづくり	自律型ロボットの製作およびライントレース実習
		船の製作
		電気回路製作
9	ものづくり	C++言語によるプログラム製作
		歯車の製作および理論
		テルミンの製作（電子回路実習）

習得するのではなく、作ってみて不思議さや意外性を体験することに優先性を置く。事実から理屈を理解し工夫する。つまり、感性、思考、知識の融合した創発的ものづくり学習を目指している。また、カリキュラムの編成にあたり、図3に示すように9年間がステップアップの3ステージに分けられた。すなわち、興味・関心を引き出す基本期、技能・表現の力を出させる創造期、応用・探求に挑戦する探求期の各ステージに相応しいものづくりテーマを編成することとした。

3. ものづくり授業の実施

小中一貫校の品川区立八潮学園と本高専の連携により、平成20年度から本格的にものづくり授業がスタートすることになった。高専は実習テーマに応じて指導講師を派遣して授業を実施した。

高専からの派遣講師はそれぞれの専門工学分野の教授や名誉教授であり、第1ステージの生徒達も夢中で製作し、実演や成果の説明について熱心に聴いていた。高専の講師陣は初年度のこともあり手探りでスタートしたが、すべての学年のテーマにおいて生徒諸君の積極的な取り組のお陰で、計画していたすべての実習が達成できた。

図4には8年生のボート製作の様子を示す。生徒諸君が協力してものづくりに挑戦し、勝島運河倶楽部の協力で進水式と試乗操船を行った。

4. 早期ものづくり教育の普及

受け身のものづくり学習から挑戦するものづくり学習を目指してものづくり教育を実施している。これまでの実習については、講師陣による丁寧でやさしい指導に対して八潮学園の生徒と先生から高い評価を頂いている。今後も両校の担当者がより密接に意見交換をするとともに、生徒の意見も反映させた教育プログラムを開発していく。さらに、ものづくり教育に関する研修会を実施して多くの初等教育の現場に導入できるよう展開していきたい。

参考文献

1）http://www.metro-cit.ac.jp/infomation/
2）井上徹、「産業人財論」高専教育（2009）.
3）http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/

地域と連携した大学の取組

東京家政大学短期大学部学長　木元　幸一

1. 生活科学研究所の取組

本学園は、明治 14 年（1881）創立以来、128 年になる。校祖渡辺辰五郎以来、建学の精神として「自主自律」が、また、大学開学時の青木誠四郎学長以来、生活信条として「愛情・勤勉・聡明」が校風の中に今も代々受け継がれている。豊かな生活技術の確立が社会と女性を幸せにするという理想の中で、人々の生活の質的向上をめざして、実践的な研究・教育を心がけ、力を注いできた。その実践の場として生活科学研究所を設置し、地域社会や家庭生活の充実に役立つ知恵と技術を社会に提供してきた。

研究所内に、産学官連携プロジェクトを平成 17 年（2005）に立ち上げ、大学・短大と産業界、自治体、非営利団体などとの連携し、地域の創生に寄与する数多くの実績をあげてきた。

「東京家政大学を核とした北区・板橋区の快適な生活空間を支援するための実践的研究―先進事例を参考とした地域連携・産学連携プロジェクトの試み」の中で、両区にとって現在から将来にわたり必要とされる生活空間（福祉・文化・自然・育児）における快適さの向上をめざし、両区の実践事例に関する現状把握とともに国内外での先進事例を参考とした地域連携の研究を行った。自然環境を担当した児童保育科・大澤教授、造形表現学科・中村教授と手嶋准教授、生活科学研究所・越尾講師らは、短大の授業の一環として、自然環境ネットワークの活用に関する基礎調査、最寄り駅のある十条いちょう通り商店街とのアクションリサーチ、両区の歴史・文化などの資源調査を行いデータベース化して周辺マップを作成した。食育部門を担当した栄養科・中村教授と生活科学研究所の越尾講師は、短大生らを指導し、NPO 法人食育推進協会、日本食育推進活動支援機構の後援を得て「食リンピック」(三者での商標登録済み）を本学で開催した。食リンピックとは、幼児から小中学生の親子をメインとする参加者に食育を浸透させる目的で、食育のオリンピックを掲げ、食文化の知識を競い、五感をフルに使ったゲーム、箸などの持ち方を正しく指導し親子で楽しめるゲームを通じて食を親子で考えて欲しいと願う啓蒙活動である。中村教授らは、栄養科中心の学生を主体とする実行委員会を指導し、多数の短大生が参加した。近隣の商店や企業からも多数スポンサーとして協力をいただいている。今年度は第 4 回の食リンピックを本学構内において、11 月 22 日（日）に開催した。

また、新潟県内の米穀販売会社エコ・ライス新潟と産学連携を結び、新潟の酒造会社上原酒造とともに、江戸時代の幻の酒米を復活させる「白藤プロジェクト」を立ち上げた。学生が新潟で白藤米の栽培、白藤米を使った醸造、更には商品企画

食リンピック

も行った。このプロジェクトの成果は、日本橋三越前のニコプラザで『お米の収穫祭』や『白藤郷のお披露目』で発表し19年10月には「いたばし産業見本市」で市場調査をかねた販売を行った。このプロジェクトは農林水産業の先進的な取り組を行う団体などを政府が選定する2008年度「立ち上がる農山漁村」に選ばれた。「白藤プロジェクト」の学生が新潟に行ったときに目にした中越地震の惨状を目の当たりにし、学生が学内で募金活動し山古志村に届けたり、同じく中越地震の震央地川口町のお母さん方と、山菜料理を習ったり、学生の若い感性を生かした料理を作るという、台所交流も行われた。これがきっかけで川口町から、山菜を利用した町興しの依頼を受け、現在受託研究を依頼されて、商品開発を行っている。学生も白藤チームと山菜チームにわかれ、それぞれを中心に地域との交流は多年度にわたって継続している。農業との関わりを望む学生や、出身地の学生を中心に、町おこしに興味のある学生が自主的にボランティアで参加し、大学生と共に短大在学中の二年間を、実践を通して有意義に過ごしている。

2. ヒューマンライフ支援センターの取組

東京家政大学は、長年にわたり人々の生活にかかわる事柄を中心として教育・研究を行い、今では博士課程までを擁している。このような発展の一方で、その研究課題は細分化され、狭く深く進む傾向となってきた。元来、生活というのは、細切れに存在するものを繋ぎ合わせたものでは無く、もっと連続し、境界の不明瞭なトータルなものとして捉えていくことに、その視点と意義がある。そこで新たな21世紀を迎えるのを契機として、細分化しつつある分野を、改めて横断的かつ融合的に組み合わせることにより、本学がここまで培ってきた知的資源を再発見・再構築し、現代の諸問題に挑もうとするために設置された試みがこのヒューマンライフ支援センターである。対象は学生や卒業生に留まらず、地域社会への交流と貢献を通して、我が国におけるこれからの教育と社会の理想的関係を築いていこうとするものである。

白藤プロジェクト　川口町にて

ヒューマンライフ支援センターは、Human Life Plazaの頭文字をとって、通称Hulip（ヒューリップ）と呼称されている。地域からのボランティア情報は、センター内の掲示及び必要に応じてメール等で学生に直接配信している。また、学生自身が活動したい内容について企画書を提出し、内容がヒューリップ運営委員会において承認された場合、企画実現のための指導やサポートを受けることができる。主な活動例は以下のとおりである。

①　地域の子育て支援活動

平成16年から、3歳未満の乳幼児をもつ家族を対象とした子育てサロン「ヒューリップすくすくサロン」を開設した。ヒューリップすくすくサロンは、「であい・ふれあい・学びあい・育てあい・思索・対話の場」をキーワードに、地域住民と学生、大学教職員とが異世代コミュニケーションを通じて、大学が地域の子育てパートナーとなると同時に、学生や教職員が子育ての実践に参加できる機会としている。保育科の学生が制作したオリジナルのおもちゃや絵本の発表の場であったり、栄養科の学生が幼児向けのレシピを考案して紹介したり、育児を応援する各種専門の先生・スタッフ・学生との出会いの中で、様々な交流と学びが展開されている。学生にとっては、貴重な社会勉強の機会であり、地域の親子にとって

は、子育てについて考え、楽しむ場となっている。

②　東武百貨店スパイスレストランにおけるメニュー開発

平成17年から年に2回のペースで、東武百貨店スパイスレストラン約50店舗と栄養学を学ぶ本学学生が共同して、新規メニューの開発事業に取り組んでいる。学生の参加者は、1回につき50～70名程度であり、半数が短期大学部となっている。

③　学生を主体とした食育レストランの開業と運営

学生の「やりたい」「やってみたい」を形にする支援として、特別講座「企画の教室」を企画し、実施したところ、参加した学生が、コミュニティレストランを創造するという企画が提示された。大学が所在する板橋区より、商店街の空き店舗を紹介され、板橋区にぎわいのあるまちづくり事業の補助を受けて、平成18年に実際に商店街に食を中心としたコミュニティカフェ「インターハート Tokyo-Kasei　茶の間」を開店し、食育講座や学生作品の展示等、大学の情報発信の拠点とした。商学公の取組として、「東京都商店街グランプリ」で準グランプリを受賞。平成21年度からは、家政大生がレシピ協力するレストランとして、場所を北区十条に移した。

④　食育フリーペーパーの企画頁

食育フリーペーパー誌（mulajin）との共同企画として、平成18年から毎号、「女子学生が考えた家族団欒のメニュー」の提案を実施している。家族のストーリーを想定し、季節や行事に合わせたメニューを考案、調理、レイアウトまですべて学生が担当している。

⑤　地域商店街とのコラボレーションメニューの開発

板橋区にある遊座大山商店街の3店舗について、学生が健康メニューを開発し商品化した。次いで板橋区いなり商店街の8店舗を対象に「元気健康メニュー」を開発、現在販売されている。

⑥　その他

農林水産省や都からの食育事業の受託及び、おもちゃ会社や食品会社等からの受託研究等の窓口となって短大生・大学生が幅広く参加している。

⑦　「商×学×公」連携事業
板橋のいっぴんカタログの制作

商学公の連携事業として「区民が選んだ板橋のいっぴん」カタログを制作した。学生33名が商店街の75店舗を取材し、店主へのインタビューや商品の試食を行って記事を作成した。学生にとっては商品づくりの苦労話をきいたり、商売の現場を知る実学を学ぶ機会となり、商店側としては、若い感性や意見を感じ取れる貴重な機会となり、双方にとってお互いを高めあう新たな連携が実現した。

また、カタログのロゴマークとキャラクターを造形表現学科の学生がデザインした。「板橋」の「い」と「いっぴん」の「い」をイメージした耳を持つ「キュートな妖精」のキャラクターが考案され、子供からお年寄りまで、誰からも愛されるキャラクターとして、板橋区民にお披露目された。

「区民が選んだ板橋のいっぴん」カタログ

東京の産業界

時代にチャレンジするクォリティーカンパニー

—人財こそ企業の活力—

株式会社竹尾　代表取締役社長　竹尾　　稠

1：《相手の立場に立って》

夏が過ぎ、学期も後半の中頃になるある日の午後、都下の美術系専門大学の教壇に立ち、3年生の教科「デザインと紙」の講義を約200人の学生さんに向けて2時間30分行いました。とても良い経験をさせて貰いました。約35年前の事です。しかし、どれだけの学生さんに、どれ程の興味と期待を持って聴いて頂いたのかの感触を残念ながら得られないまま、反省しきりで帰途に着きました。

この時に周到な事前準備をして話をする事と、聞いて下さる人が理解を得て楽しく自分のものにして頂く事とは、次元が違う事だと身を持って体験しました。幸いに、翌年も同じ場で名誉挽回の機会を与えて頂きましたので、今度は聴講する学生さんの立場に立って、授業に何を期待しているのか、雰囲気がどうしたら盛り上がるのか、楽しく明快に記憶に残してもらうためにはどうしたらよいか等々を思い巡らせて準備を致しました。

結果は首尾上々で、教壇の上からも学生さんの眼が生き生きとしているのがはっきりと見えました。講義が終了してからも多くの質問があり、明るい雰囲気で時間が足りないぐらいでした。

今の経営トップの立場でも同じ事です。相手の立場、社員の側に立って如何に腑に落ちるように話をするかがポイントと、日々努力しているのが現状です。やらされ感ではなく達成感をモチベーションに、自らが積極的に学ぶ心境に社内環境を作れば企業のグループパワーに拍車がかかると思います。

当社は「紙」を基軸にした専門商社です。今年で45回となる年一回の展示会「竹尾ペーパーショウ」には毎年約2,000人位のデザインを勉強している大学、専門学校の学生さんが来場します。業界顧客の来場者の間をぬって熱心にメモを取り、展示物の妙味に興奮し感激して、紙のチカラを体験して貰っています。学校によってはレポートを提出する課外授業の一環にもなっており、嬉しく思っています。将来、立派な紙の使い手になって頂く事を期待しています。

竹尾ペーパーショウ

インターンシップは学生さん、教師の方々にご参加願い、東京本店営業部での受注業務、ショップでの紙販売他で実体験して頂いております。竹尾は社会で経験して頂く場を喜んでお引き受けしております。これまで19人の方々にご参加頂きました。

2：《紙に携わって110年》

当社は1899年（明治32年）に東京・京橋で紙卸商として初代竹尾栄一（祖父）が創業。数年後に文教の地・神田に移転し今年で110年の節目を

迎えました。土地柄、大学教育関連の出版社が多く、製本業、印刷業の会社からのご注文は出版本文用紙に加え、装丁用紙が大半を占めておりました。ここに㈱竹尾の特化された商品群があり、現在の大きな特徴の一つになっております。当時の記録には、すでに舶来品、クロスと輸入紙の銘柄が収録されております。書籍の表紙・見返し用途に使用され、趣向をこらしたクロス・色紙・模様紙などが主なものでした。製紙会社が日本で最初に設立したのは明治5年でした。特殊印刷用紙（工業用途、各種機能紙、高級印刷ファインペーパーなど）が国産化されたのは昭和初期からです。

特に大正 15 年に㈱特種製紙の創業により多くの商品が開発され、国内の製紙技術力の発展に大きく貢献しました。その頃から竹尾は㈱特種製紙と共同で商品開発に傾注しました。この時が高級印刷用紙ファインペーパーの原点となっております。

1929 年に出された総合見本帳「popular cover paper」が最初の本格的なものです。海外との直接の接点は 1950 年代後半からでイギリス、フランス、アメリカからのもので、輸入が盛んになったのは 1970 年代からですが、勿論、国産が主力です。1947 年に㈱日清紡績の製紙部門（現 日清紡ペーパープロダクツ）が加わり、竹尾は専属代理店になり国内外に販売を展開しております。更に、海外との交流で幅広く紙文化に接し、今では東アジアの 6 都市に現地法人営業拠点を、さらに欧米へ日本の紙文化を広げるべく計画を進行中です。

販促ツール：ミニサンプル

3：《ブランドに挑戦》

前述したペーパーショウは 1964 年に銀座松屋デパートで第 1 回目が開催されました。10 年を一区切りで今年で 5 世代目になっています。毎年 4 月中旬に 3 ～ 4 日間の期間、ここ数年は丸の内・丸ビルホールで催され、18 千人近くの方々に展示会へ来場を頂いております。「紙とデザインとテクノロジー」、紙にこだわる方の年中行事といっても良い程、認知されております。紙の将来性と可能性、そして感性価値を見て頂きます。高級印刷用紙ファインペーパー約 500 銘柄の中から、デザインの力、紙の力を結集させ、エンドユーザーと共にその付加価値、商品価値を高めております。販売促進活動の一環ですが、一見の価値があり、紙への認識が大きく変わって来ます。美がそこにあり夢が出てきます。是非ご覧ください。

100 周年を記念して竹尾賞を創設しました。デザインを中心にヴィジュアルコミュニケーションの発展に寄与する書籍を奨励するもので、第 8 回は 2010 年 4 月ペーパーショウ初日に表彰されます。ご期待下さい。

青山見本帖、見本帖本店、大阪見本帖が開設され、それぞれに特徴を持って紙、製品が展示され、素晴らしい商品企画のご相談窓口となっています。動かない見本帳ですのでお出かけ願います。

見本帖本店

湾岸物流センター

竹尾が取扱う約9,000アイテムの紙を管理する物流センターに力を入れて、40年の歴史となります。東京3か所の他に仙台・名古屋・大阪・福岡の営業拠点にダイフク製立体自動倉庫を隣接し、竹尾独自のウエアーハウスシステムを駆使して素早いサービスをモットーにして紙をお届けしています。

4：《人財こそ企業の活力》

―時代にチャレンジするクォリティーカンパニー―

これは竹尾の経営理念の骨格をなす大事なところです。ヒト・モノ・チエ・カネがクォリティーカンパニーの大事な要素です。会社は何といってもヒト、社員です。社員は礼儀、挨拶に始まり、明るく大きな声で笑顔。これがトップをはじめ全社員が行なわなければならない基本中の基本です。

また、会社説明会の時に、就職活動の学生に「当たり前の事を当たりまえの様にこなし、そのレベルを上げる事」について話しております。自信がつけば大きな声で人前でも笑顔で、真剣に話が出来ます。更に、会社に一歩入られれば皆さんがお客さんです。竹尾のお客さんの定義は、「仕事の前と後がお客さん」と話しております。一年かけて自分に信頼を寄せてくれるどれだけのお客さんが増えましたかと、社員に問いかけています。

この春からグループ380人の全社員に向けて、次の百年に向かうため、先ず10年先の夢を、20年先から考える語らいを、社長と社員との間で続けています。社長にとってはとても良い勉強になります。

また、社員から大きな刺激を受け、翻訳して社員のモチベーションを上げる仕掛け作りの良いヒントになっております。細やかな情感を伝えるのが人であり、その伝達手段をファインペーパーという信念で「紙創り」に励んでいます。

社会のお役に立っていますか？が大きな目的となり、社員一人一人の喜びがあってこそ実現できる事と思って、毎日、笑顔で接するように心がけています。

****

株式会社　竹　尾

創業　1899年（明治32年）11月23日

設立　1937年（昭和12年）2月11日

事 業 所

本　　社	東京都千代田区神田錦町3-12-6 TEL　03-3292-3611（大代表）
大 阪 支 店	東大阪市高井田中1-1-3 TEL　06-6785-2221（代表）
名古屋支店	名古屋市北区瑠璃光町1-7 TEL　052-911-3151（代表）
仙 台 支 店	仙台市若林区六丁の目西町7-31 TEL　022-288-1108（代表）
福 岡 支 店	福岡市博多区豊1-9-20 TEL　092-411-4531（代表）
札幌営業所	札幌市中央区北2条西2丁目 TEL　011-221-4691
見本帖本店	東京都千代田区神田錦町3-18-3 TEL　03-3292-3669（2F） TEL　03-3292-3631（1Fショップ）
青山見本帖	東京都渋谷区神宮前5-46-10 TEL　03-3409-8931
大阪見本帖	東大阪市高井田中1-1-3 TEL　06-6785-2224
海　　外	香港・上海・クアラルンプール・バンコク

****

わが社の「人づくり」「物づくり」

―技術の融合で飛躍―

株式会社日本化薬東京代表取締役　近藤　　始

1. 歴史的背景

当社は、日本化薬グループ子会社36社の一員として合成色素・合成染料を製造受託している会社であります。親会社の日本化薬株式会社について若干触れておきますと、日本化薬株式会社は大正5年（1916年）に広島県福山市で合成染料を製造したのが発祥であり（国産化の始まり）、今日まで綿々と合成染料を製造し続けてきました。

明治の少し前（1856年）に英国で発明された合成染料はドイツ、スイスで開花し、欧州の化学産業を支えてきました。所謂ビッグカンパニーと呼ばれる化学会社はすべて合成染料を製造していました。わが国では、明治時代を含めた前後50年間は輸入品に100％依存していた歴史があります。この50年間は、文明開化の機運に燃えた時代であり、わが国の化学産業を大きく生長させました。合成染料のみならず、多くの化学工業製品の国産化が進んだ時代であります。日本は麻（植物繊維）の宝庫であり、また絹（動物繊維）の宝庫でしたので、合成染料の開発もこの分野に使用されるものが急務でありました。前述の福山市の工場では地域の特産物である備後おもて（畳のうすべり）に使用される染料（硫化染料）を開発し、国産化に成功しました。今日でも、用途は異なりますがジーンズ用に製造されている銘柄があります。

一方、東京都足立区の現立地においては、絹の紋付に使用される染料を昭和4年に製造開始したのが始まりです。時代の流れにつれて合成染料の物理・化学的性質、発色メカニズムさらには合成技術が進化し、合成染料は戦前戦後にかけてファインケミカルの代表的存在でありました。

染料が使用される対象は繊維及び紙パルプが主体ですが、戦前のレーヨン（スフやベンベルグと俗称された）やアセテートの開発、さらには純粋な合成繊維であるナイロン、ポリエステル、アクリク繊維などが順次発明されるにつれて、新規の合成染料が目白押しに開発されました。

2. 時代の変遷

大正～昭和の戦前までは合成染料の黎明期といえます。わが国の化学会社が輸入品の国産化をめざし、構造分析に明け暮れ、また合成技術についてはPBレポート（化学物質の製造技術が記載されている）という化学者のバイブルを紐解き、製造技術の向上を競い合いました。

戦後の約30年間は染料工業の隆盛期でありました。前述のように新素材開発が進み、それと相まって飛躍的に合成染料の銘柄数や生産量が伸長しました。開発当初の合成染料は貴重品であり、現在の貨幣価値に換算すると1kgで月給に相当する位であったといわれています。今では時効になりましたが、従業員が昼飯の弁当箱に染料を詰めて持ち帰り、小遣い稼ぎをした（？）という逸話が残っています。それぐらい合成染料は高価で貴重なものだったということでしょう。

昭和50年代は安定需要期に入りましたが、60年代に東南アジア諸国の染色加工業が台頭するにつれて、わが国の合成染料の需要は減衰してきました。

昭和40年代～50年代は、第一次、第二次オイルショックの経済変動があり、また化学業界にお

いては環境汚染問題や化学物質の人体に対する有害性が社会問題となり、各業界こぞってそれらの対応に追われた時代でもありました。今日では僅かでも安全性に懸念がある物質は淘汰されてきており、安全な化学物質（合成染料）が生き残っております。

3. 染料工業の特徴

合成染料は複雑な化学構造を有し、それらを合成するためにはかなり高度な技術を要求されます。合成染料は、ベンゼン、ナフタレンあるいはアンスラキノンと呼ばれる原料から派生した中間物を使用するため、反応機構上、異性体と呼ばれる物質を副生しやすいからであります。

（注：異性体とは分子量は同じであるが、分子構造がネジレを生じたりして物理的・化学的性質が異なる物質のこと）

製造技術とは反応条件を微妙にコントロールして副生物の生成を抑えるのがノウハウであります。わが社は、親会社の80年に及ぶ蓄積されたノウハウを継承し、10年目を迎えます。染料工業とは、そのような意味では「人」のセンスにたよって「物」を造る会社であるといえます。

4. 設備的な特徴

合成染料の製造設備及び製造プロセスは酒造りと類似しています。大きな槽に原料を仕込み、反応条件を設定して目的物を製造します。合成染料は複雑な構造ですので、一次反応を完結させ、次いで二次、三次・・・と順次反応を完結させていきます。また、染料は銘柄ごとに化学構造がまったく違いますので、使用する原料も異なり、また反応条件も異なります。1つの反応槽で最終目的物まで完結させる所謂バッチ生産システムの典型であります。わが社の生産銘柄は200種を超え、同一銘柄でも粉状品と液状品を形状別にカウントすれば300種を超えます。需要家の使用方法や使用目的によって差別化しております。

染料工業はバッチ生産システムですので、連続化やオートメーション化がしにくいのも特徴です。設備的には旧態依然とした型ですが、製造するものは時代の最先端を行く高機能・高品質の製品群であります。

工場のレイアウトとしては石化工業のような大型コンビナートは無用であり、また家電や自動車産業のような平面的・直線的な設備レイアウトも必要ありません。比較的狭い土地に立体的に設備を格納するのが一般的であり、効率的です。設備投資も比較的軽微ですが、環境に配慮した設計であることが要求されます。

また、バッチ生産の効率を高めるためには、単に大型化することが必ずしも効率化につながりません。化学反応工程では、生産スケールと反応効率に限界があるからです。大型設備は反応条件を設定するにも時間を要し、この時間的な冗長さが副生物を生成する要因になります。バッチ生産での効率化は設備洗浄による時間のロスを最小にすることと1槽あたりの生産量を多くすることがポイントになります。これまでの経験から、わが社では最大20m^3程度の容量が最適としています。

5. 今後の展開

わが社は、染料合成の技術をコアとして、インクジェットプリンター用色素およびインク製造に展開しました。「人」が物造りをする会社ですので、「人」の能力を最大限に活用し、あらゆる技術を融合し、事業展開に努めた結果であると思います。今後も事業を発展継続していくため、次世代を担う若手を毎年4名採用しております。また、化学工場の実態を認識してもらうため、インターンシップで数校とお付き合いさせてもらっています。都会地の化学工場が少なくなりましたが、環境に配慮した高機能・都市型工場をめざし、確固たる生産基盤を確立するよう努めてまいります。

情報スクエア

第7回創造ものづくりフェアin TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長
目黒区立第九中学校長　　情野　政彦

創造ものづくりフェアin TOKYOは、東京都内の中学校に通う生徒が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、ものづくりの意義を理解するとともに、互いの創造性を伸ばす場として開催している。その概要は、以下の通りである。

1. 主　　催　東京都中学校技術・家庭科研究会

2. 後　　援　東京都教育委員会
東京都産業教育振興会
東京都中学校長会
毎日新聞社

3. 日　　時　平成21年11月14日（土）
平成21年11月21日（土）食部門

4. 場　　所　東京都立工芸高等学校
女子栄養大学（食部門）

5. 対 象 者　都内中学校に通学する中学生

6. 内　　容

(1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト東京地区予選（授業内部門・応用部門）
(2) めざせ！！「木工の技」チャンピオン東京地区予選
(3)「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選
(4)「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選
(5) 生徒作品コンクール東京地区予選
(6) 東京都ロボットコンテスト（K－1・スプリンター・スラローム）
(7) 東京都ホームソーイングチャンピオン

7. 開催へ向けて

今年度から東京都立工芸高校の多大な御協力により開催会場としてお借りすることができた。会場の下見や機材の搬入等の打ち合わせに工芸高校の校長先生をはじめ諸先生方の多大な御尽力をいただきながら開催へ向けての準備を進めた。しかし、関東甲信越大会の開催の都合で食部門の「おべんとうコンクール」と同日開催ができなかった。

昨年、「ホームソーイングチャンピオン」と「アイデアハーフパンツ」の大会は、申込者が少なく実施できなかったことから、再度、開催を広めて申し込み状況で様子を見ることにした。

工業高校との連携については、工芸高校の協力により各高等学校へ参加を呼びかけていただくことになった。大幅な前進である。

開催のためのスタッフは、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部員を中心に工芸高等学校で34名、女子栄養大学会場で26名の体制で準備を進めた。

全国ロボットコンテスト東京地区予選会場

8. 開催結果

参加生徒は毎年増加し、見学生徒、保護者も含めると1,250名を超えている。その内訳については次の通りである。

＜関東甲信越大会に向けての予選＞

「創造アイディアロボットコンテスト」の授業内部門は、17.5時間程度の技術・家庭科の授業での取組を想定して、モーター3個まで使用したロボットでゴミをかき集める早さを競う1対1の競技で90名の生徒が参加。応用部門は、モーター4個まで使用した大型のロボットで、垂直の壁に打ち込んだピンの間にピンポン玉を置く高さと早さを競う1対1の競技で79名が参加。ビデオでダンスや動きを紹介する部門は参加者なし。

決められた木工具を正しく使用し、寸法通り正確に作品を製作する「木工の技チャンピオン」には30名。「生徒作品コンクール」には、技術分野が53作品。家庭分野が58作品の出品があった。

「あなたのためのおべんとうコンクール」は、レポートと写真の審査応募が239チーム598名。当日の参加は19チーム54名。「とっておきのアイディアハーフパンツ」部門は2名であった。

「おべんとうコンクール」東京地区予選（女子栄養大）

＜東京都独自のコンテスト＞

東京都独自として実施したロボットコンテストは、製作の簡単なロボットが主流になっている。2足ロボットによるスタートからゴールまで1.2 mの距離をどれだけ速く通過できるかを競う「スプリンター」部門に7名。迷路をスタートからゴールまでどれだけ速く通過できるかを競う「スラローム」部門には8名が参加した。重量別に2足歩行ロボット同士が格闘競技を行う「K－1」部門はライト級53名、ヘビー級71名が参加。

同じく東京都独自の取組として基礎縫いやボタン付け等の課題をクリアーしながら素敵なソーイング作品（エプロン）の製作をする「ホームソーイングチャンピオン」部門は参加がなかった。

9. 成果と課題

今年度は、新型インフルエンザによる影響で実施が不透明になりかけた時期があった。しかし、交通のアクセスがよく、充実した施設の東京都立工芸高校での開催であり、関係の先生方の協力を得ながら開催への準備を進めることができた。

5年目を迎えた食部門については、会を重ねるごとに参加者も多くなり定着したことが感じられた。初回から御協力いただいている女子栄養大に心より感謝申し上げたい。

東京都独自のロボットコンテストは、製作も容易でコートの準備も簡便なため人気があり参加者が急増している。新しい学習指導要領の中でも十分に対応できる内容である。また、このフェアが着実に浸透し、東京都の中学生の技術・家庭科に対する関心・意欲を喚起し、関係諸機関等の本教科に対する認識を深め、教科としての発展に大きく寄与することができた。

課題としては、被服部門の参加者の減少の原因を明確にすること。より一層の工業高校との連携を模索していくことである。

東京都教育委員会をはじめ、東京都産業教育振興会、東京都中学校長会、毎日新聞社から表彰状を出していただいたことも、フェアの盛り上がりと充実に繋がっている。

東京都の農業系専門高等学校の展望

東京都立園芸高等学校長　千谷　順一郎

1. はじめに

昨年は農業の担い手育成、食料自給率の向上、生物多様性の回復、CO_2 削減といった農業教育に深く関わる話題が今までになく注目された 1 年であった。今年も引き続いて農業、食料、環境に関する様々な課題が、我々高等学校における農業教育に携わるものにとって立ち向かわねばならない教育課題として示されてくるであろう。そして、これらの課題解決に向かって各校が校長を中心として組織的に取組んでいくことが、自律的な学校改革そのものと考えている。

農業教育の特色は、生命体を教材として、それらを適切に取り扱う意欲や態度、知識や技術を身につけさせる学習を通して発揮されるものである。まず現象が先立ってそのわけを考えながら学習を進めることができる教育は、科学と論理万能と思われがちな現代にあって、生命の不思議や神秘に触れながら考える力と感性を養うことのできる教育方法である。東京都の農業系専門高等学校は一丸となって、この特色ある教育を継続・発展させていく所存である。

2. 近年の教育活動の検証

東京都公立高等学校長協会農業部会は、平成 17 年度に策定したアクティブアグリスクールプランに続く、平成 18 年の第 2 次アクティブアグリスクールプランに基づいて実施してきた各校独自の改革テーマと共通の 12 項目にわたる教育活動について、検証を行った。

各校独自の改革テーマ

都立園芸高等学校

「農業系高校間のネットワーク化の推進」

都立農芸高等学校

「農業、食料、環境に関わる地域文化の創生」

都立農産高等学校

「《食育推進研究指定校》の取組」

都立瑞穂農芸高等学校

「生命に学び、人権を尊重する心豊かな人材の育成」

都立青梅総合高等学校

「地域連携事業の推進」

都立農業高等学校

「都市から農業の担い手を育成」

(2) 共通の 12 項目

①環境・農業教育の推進
②食の安全・安心教育の徹底
③地産地消、生徒の経営能力の向上
④生徒の奉仕体験活動を積極的導入
⑤基本的な農業技術能力を身につけた人材育成推進
⑥キャリア教育の推進
⑦農業教員の質的向上と授業力の向上
⑧地域貢献、地域連携、地域共生の促進
⑨開かれた学校づくり
⑩農業教育の普及活動の幅広い展開
⑪心の教育充実と心豊かな人材の育成
⑫国際的な視野に立った人材の育成

(3) 活動の評価

各校独自の取組は、3 年間継続して行われた結果、学校の特色づくりに大きく貢献した。個々の詳しい内容は、今年度の校長実践研究報告書に報告したとおりである。

12 の具体策については、各学校の実態や校長

の学校経営方針により、達成度に差が見られたが、達成度の自己評価の値は5段階の内2～5であり、全体の平均値は3.5であった。この値は、A段階「良好」に相当する。

全校に比較的共通して達成度が高かったもののベスト3は、「4 生徒の奉仕体験活動の積極的導入」(4.3)、「9 開かれた学校づくり」(4.2)、「8 地域貢献、地域連携、地域共生の促進」(4.0) であり、地域との関わりに関する取組を重視して実践してきたことが分かる。

一方、全校に比較的共通して達成度が低かったもののワースト2は、「7 農業教員の質的向上、授業力の向上」(2.6)、「5 基本的な農業技術能力を身に付けた人材育成推進」(3.0) であり、農業教員の質的向上や授業力の向上を図ること、生徒に農業技術力を身に付けさせることが課題となった。

3. 今後の展望

(1) 各校が協同して取り組む活動の推進

昨年度農業系専門高校が協力して組織的に取組んだ活動は以下の通りであり、どの活動においても生徒は日頃の学習成果を遺憾なく発揮した。

①都議会議事堂前広場花壇の植栽（春と秋）
②三宅島緑化プロジェクト（6月と11月）
③都立中央図書館企画事業への協力（6月）
④高大連携（8月）
⑤アジアユースパラゲームズ表彰式への協力（9月）
⑥東京都農業祭への参加（11月）
⑦全国農業高校収穫祭への参加（11月）

がその主な取組である。

この中で、昨年度に開始されあるいは組織的なものとして始まり、今後発展して行くであろう2つの取組について簡単に説明する。

高大連携の取組

（ア）「アグリカレッジ東京2009」

宇都宮大学農学部と東京都の農業系高校が連携して、「アグリカレッジ東京2009」を開催した。この講座は2年前から開催しているもので、農学の概要を理解すること、大学について理解することなどを目的とするものである。

・月　日：7月31日（金）～8月2日（日）
・会　場：宇都宮大学農学部（農学共通研究棟3F会議室）、附属農場
・宿　泊：宇都宮大学農学部附属農場学生宿泊施設
・内　容：講義、実習、実験、現場見学、オープンキャンパス参加
・参加者：生徒26名（園芸9名、農芸11名、農産2名、瑞穂農芸4名）
教員5名（園芸2名、農芸2名、農産1名）

この取組に参加した生徒の中から、国公立大学志望者が多く出現した。

（イ）高大連携会議

関東信越地区農学系学部長と関東地区農業高校長とが高大連携を進めることを目的として今年度初めて開催された。

・月　日：7月2日（木）
・会　場：明治大学駿河台キャンパス
・参加校：東京大学農学部、東京海洋大学海洋科学部、東京農工大学農学部、千葉大学園芸学部、東京農業大学農学部、日本大物資源学部、日本獣医生命科学大学獣医学部・応用生命科学部、麻布大学獣医学部、明治大学農学部、信州大学農学部・繊維学部、茨城大学農学部、筑波大学生物資源学類、関東地区農業系高校15校

全国農業高校収穫祭2009

11月21日（土）、22日（日）の2日間、武蔵野市の東急百貨店吉祥寺店で、「全国農業高校収穫祭2009」が開催された。この催しは、毎日新聞社と全国農業高等学校長協会が共催し、武蔵野商工会議所が協力したもので、東北から九州まで16都府県の33農業高校が参加した。

東京都の農業系高校は地元の高校ということで、オープニングセレモニーの司会やアトラクション、遠方の学校の生産品販売、自校の生産品販売を担当した。

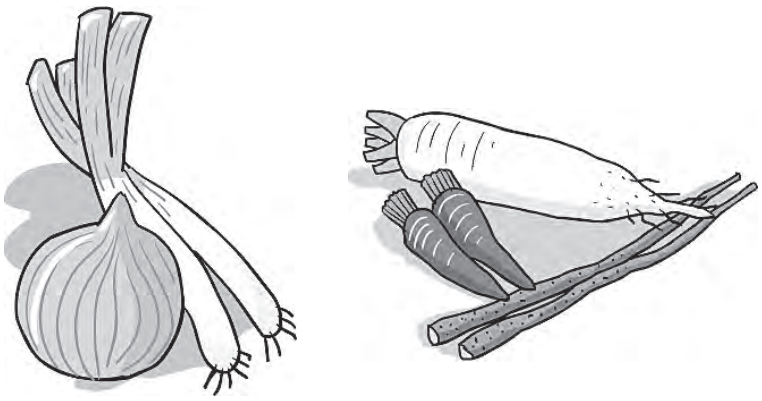
当日の様子は毎日新聞（21日夕刊､22日朝刊)、TBSラジオ（土曜ワイド）等で報道され、参加した生徒のモチベーションを大いに高めた。

農業・環境・食料への関心が高まる中、農業部会に参加・協力を要請されることも年々増加してきており、教育課程への影響も生じている。我々にとってはこれらの要請に前向きに対応しながら、教育効果を高めるよう推進することが今後の課題である。

(2) 農業教育の特色化を一層推進するために

農業教育の特色は前述したとおり、生命体を教材として、それらを適切に取り扱う意欲や態度、知識や技術を身につけさせる学習を通して発揮されるものであり、その学習の中心は実験・実習を主とした体験学習である。平成21年3月に告示された新学習指導要領においても、教育課程の編成・実施にあたって配慮すべき事項として職業に関する各教科・科目については、実験・実習に配当する授業時数を十分確保するようにと明記されているように、実験・実習を教育課程で効果的に実施することが今後の農業教育の展望を拓く道である。

各科目で実施される栽培、飼育、製造、製作、調査などの実験・実習を基礎的体験学習とするならば、これらを活用した上述の取組などは応用体験学習あるいは発展的学習とし、いわばインプットとアウトプットの繰り返しで生徒一人一人の力を養うことが大切である。これからも時代の要請に応じた新たな取組のを積極的に企画し、校長会が中心となって魅力ある農業教育を自信を持って進めていきたい。



第19回 全国産業教育フェア（さんフェア）神奈川大会

平成21年度・第19回全国産業教育フェア神奈川大会が「かなえよう仲間とともに輝く私達の夢」をキャッチコピーとして、平成21年11月14日（土）と15日（日）の両日に渡り、横浜市の「パシフィコ横浜」をメイン会場に開催されました。

まず、総合開会式の開始にあたり、オープニングアトラクションとして、神奈川県立磯子工業高等学校生徒実行委員会による寸劇、神奈川県立厚木商業高等学校音楽部によるイメージソング合唱が行われた後、神奈川県内の専門高校生らによる司会進行のもとに華やかに式典が挙行されました。

総合開会式の後には、地元神奈川県立三崎水産高等学校を卒業された海洋冒険家の白石康次郎氏が地球は丸い、大きくなったらこの海を越えてみたいという夢を持ち続け、夢に向かって進んだ生き方を会場の高校生に向けて示されました。

＜講師プロフィール＞

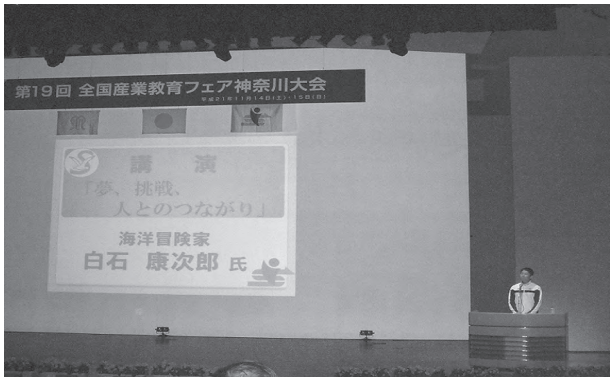
記念講演
第1日目（11/14）11：10～12：40
テーマ：「夢、挑戦、人とのつながり」
講　師：白石　康次郎

1967年東京生まれ鎌倉育ち。神奈川県立三崎水産高等学校卒業。1991年シドニ～伊豆松崎 太平洋単独縦断に成功。1997年2月世界で最も過酷なアドベンチャーレース「レイドゴロワーズ」南アフリカ大会で日本過去最高の11位でゴール。2003年5月「アラウンド・アローン」クラスⅡ4位でゴール。2006年10月22日単独世界一周ヨットレース「5OCEANS」クラスⅠに日本人初挑戦。2007年5月「5OCEANS」クラスⅠで2位でゴール。2008年「Gitana13」サンフランシスコ～横浜 世界横断記録樹立。

＜高校生に対するメッセージ＞

- 父親からは自分の人生だからおまえが決めろと言われていた。
- 第1回単独世界1週ヨットレース優勝の多田雄幸氏に弟子入り
- たった1人のヨットレースをめざして造船所に住み込み（無給）
- スタートラインにつくまでに22年かかった
- 僕は鎌倉の海を見て世界一周しようと思った。
- みんなの夢はみんなの心の中にある。夢は心からでる。頭で考えるとじゃまをする。
  夢にまっすぐに向かって行くこと。腹をすえること。
- ごまかしは、やがてわかる。苦しいこともあるが、逃げないで受け入れることで自分が主導権を握れる。
- 大きなことをしたければ、小さなことを積み重ねることだ。

講師の、高校生に対する熱いエールが伝わってくる講演でした。



この他、展示会場等で各専門高校生の作品展示、生産物展示即売会、フラワーアレンジメントコンテスト、高校生ロボット相撲全国大会等多彩なイベントが実施されました。　（事務局　野中）

第51回　全国産業教育振興大会
開催日　平成21年11月14日15：00～17：00
会　場　パシフィコ横浜　アネックスホールF205

文部科学省初等中等教育局主任視学官袖山禎之氏、神奈川県教育委員会教育長のあいさつに続き、神奈川県産業教育審議会副会長の株式会社さんこうどうの代表取締役社長川上彰久氏が「湘南・藤沢の地に根ざして124年」という演題で講演されました。

かつては、印刷会社は何もしなくても生き延びてこられたが、現在は、業態変革が必要。平成10年に社長が亡くなり、古参社員も退職して、大きな変革に取り組んできた。IT化を進めホームページを作り、地域の祭りにも参加するなど、様々な取組を行っている事をスクリーンに映して説明されました。

講演に引き続き、全国産業教育振興会連絡協議会理事長西澤宏繁氏が議長となり、次のような大会決議文が協議され、満場一致で採択されました。

＜**決議文**＞

産業教育の中核を担う専門高校は、これまで「農業・水産」、「ものづくり」、「ビジネス」、「社会生活支援」等に携わる有為な職業人の育成に努め、各産業・業種に多くの人材を輩出し、我が国の産業、経済、地域社会の発展に大きな役割を果たしてきた。

近年、企業等の産業現場では労働者の高齢化が進み、団塊世代の退職などに伴う技術・技能の後継者の育成、高齢化社会の医療・福祉等を支える人材の育成が急務となっている今日、専門高校への期待は特に、大きなものがある。

しかし、各都道府県では高等学校再編にあたり、少子化や普通科志向の進行、財政問題などから専門高校の統廃合や学科の縮小などが進められており、事態はきわめて憂慮すべき状況となっている。全国産業教育振興会連絡協議会は、全国の専門高校生等による第19回全国産業教育フェア神奈川大会にあわせ、ここに、第51回全国産業教育振興大会を開催し、教育界と産業界が連携協力を一層強化し、我が国の産業経済、地域社会の発展に資する専門高校における人材の育成に全力を傾注することを決意し、特に、次の事項の実現に向けて努力することを表明する。

同時に、国、地方公共団体に対して改正教育基本法、新学習指導要領等を踏まえ、我が国の基盤づくりとなる専門高校の充実のための格段のご理解ご支援を要望する。

一　専門高校、専門学科の積極的な拡大及び専門高校生への就学支援対策を講ずるとともに、産業技術の高度化・情報化に対応した学習指導の向上のため、産業教育実習施設・設備のなお一層の整備充実を図る。

一　社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の一環としての、産業現場等における長期インターンシップ（就業体験等）を積極的に推進するとともに、専門高校卒業生の就職枠の積極的な確保・拡大及び就職支援対策の強化を図る。

一　大学等進学希望者のための入学枠の拡充等及び専攻科（2年課程）修了者（国家資格取得等）の高等教育機関への編入学や準学士等の称号付与の制度化（弾力的運用を含む）を図る。

一　専門高校の専門性の基礎・基本を重視し、先端的、伝統的な知識、技術・技能の習得を図るとともに、職業人としての規範意識や倫理観、コミュニケーション能力の向上など、実践的な能力を身に付ける専門教育の充実を図る。

一　教育内容・方法の向上を図るため、専門高校の教職員の定数の一層の改善、研修機会の確保及び専門教育担当の教員養成の充実を図る。

一　一般社会や小・中学校等への専門高校・産業教育の幅広い理解・啓発、及び専門高校生の学習成果発表の場となる全国産業教育フェアの拡充推進を図る。

以上決議する。

平成21年11月14日

第51回全国産業教育振興大会（神奈川大会）

報　告

平成21年度　東京都産業教育振興会　総　会

平成21年度総会及び講演会が6月9日（火）にBIZ新宿（新宿区立産業会館）・多目的ホールにおいて開催されました。来賓として（財）産業教育振興中央会専務理事の中山淑廣様、東京都公立高等学校長協会副会長の木暮守雄様（都立足立工業高等学校長）、東京都中学校長会副会長の牛島正廣様（目黒区立東山中学校長）をお迎えしました。

開会にあたり、西澤会長から「教育問題は多々ありますが、職業に対するものの見方や職業観を、子供の頃から育成していくという社会風土が、今の日本では薄くなっていることが大きな根本問題と思います。

職業コースの内容を更に充実することは大事なことで、同時に高校の普通（科）ではなくて、各々の専門コース或いは職業学校へ進んでいく選択が、誇りを持って行われる教育体制・体質も日本全体で作っていかなければならないと思います。皆様のお力添えをいただきながら、都産振も微力を尽くしながら頑張っていきたいと思います。」との挨拶がありました。

続いて、常任理事の森口都立学校教育部長から「今年度、新たに『ものづくり教育推進会議』を設置し、その中でこれまでの成果などを検証し産業界との連携等を具体的に検討したいと思います。本日の総会でこれからの産業教育の振興と充実、発展といった点で御指導を賜れば幸いです。」との挨拶と来賓の方々からの御挨拶をいただきました。

議事に入り、まず報告事項として、以下の3件について報告されました。

○平成21年度　会長、副会長の選任結果
○平成21年度　理事長、常任理事、常任監事
○産業界会員功労者（永年会員）の表彰

続いて、以下の議案が提案され、審議の結果、各議案とも原案のとおり承認されました。

○第1号議案①　　平成20年度事業報告（案）
○第1号議案②　　平成20年度決算書（案）
○第1号議案③　　平成20年度監査報告
○第2号議案　　平成21年度役員選任（案）
○第3号議案①　　平成21年度事業計画（案）
○第3号議案②　　平成21年度予算（案）

報告事項のとおり、産業界会員功労者（永年会員）に対する表彰が行われました。

これは、永年にわたり、本会の会員として産業教育の振興に尽力され、かつ本会の発展に貢献されたことに対し、感謝の意を表するために行っています。表彰は、昭和63年度から実施しており、産業界（企業）会員として入会した年度から数えて10年を経過した企業を対象としています。

今回表彰された企業は次の2社で、西澤会長から感謝状と記念品が贈呈されました。

表彰企業名

1　株式会社　昭和理化（1999年8月17日入会）
2　株式会社　雄電社　（1999年12月6日入会）

産業界会員功労者の表彰

平成21年度　東京都産業教育振興会　教育功労者表彰

平成21年度（財）産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」並びに「専修学校・短期大学産業教育功労者」に対する表彰式を平成21年11月17日に都庁第二本庁舎31階の特別会議室で行いました。

表彰式では、西澤会長から功労者に表彰状と記念品が手渡されました。会長の祝辞に続いて東京都教育委員会を代表して森口純教育庁都立学校教育部長から祝辞がありました。続いて（財）産業教育振興中央会中山淑廣専務理事、閏間征憲東京都公立高等学校長協会長、菊山直幸東京都中学校長会長の3名のご来賓の方々からご祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して東京都立足立工業高等学校 木暮守雄校長から謝辞が述べられました。

表彰式の出席者は、御下賜金記念産業教育功労者11名、中学校技術・家庭科功労者4名、専修学校・短期大学産業教育功労者1名でした。受賞者は次の方々です。

Ⅰ　御下賜金記念産業教育功労者

（敬称略・順不同）

東京都立瑞穂農芸高等学校	副校長	大島敏秋
東京都立農業高等学校	校長	佐野幹男
東京都立総合工科高等学校	専修実習助手	小野直樹
東京都立中野工業高等学校	校長	萩原和夫
東京都立工芸高等学校	主任教諭	神山隆夫
東京都立蔵前工業高等学校	校長	小山実
東京都立足立工業高等学校	校長	木暮守雄
東京都立葛西工業高等学校	主任教諭	岡本裕生
東京都立田無工業高等学校	副校長	田村國雄
東京都立六郷工科高等学校	主任教諭	黒川豊治
安田学園高等学校	教諭	佐俣恵一
安田学園高等学校	教諭	福谷隆芳
東京都立産業技術高等専門学校	教授	石井好
東京都立産業技術高等専門学校	教授	芝沼弘允
東京都立産業技術高等専門学校	教授	吉田喜一
東京都立大島高等学校	主任教諭	中林利郎

Ⅱ　中学校技術・家庭科教育功労者

（敬称略・順不同）

世田谷区立千歳中学校	教諭	青木枝美子
杉並区立高井戸中学校	校長	濵上明巧
豊島区立池袋中学校	教諭	廣瀬朱美
足立区立千寿桜堤中学校	副校長	鈴木一郎
筑波大学附属中学校	教諭	佐俣純

Ⅲ　専修学校・短期大学産業教育功労者

（敬称略）

愛国学園短期大学　　客員教授　　田　中　智　子

平成 21 年度　東京都産業教育振興会後援事業

下記の事業に対し後援を行った。

	対　象　事　業	開催期間	実　施　場　所	参加者数
1	平成 21 年度東日本高等学校土木教育研究関東支部総会	6 月 21 日	都立総合工科高等学校	50
2	平成 21 年度度第 53 回全国高等学校家庭科実践研究会東京大会	7 月 27 日～ 28 日	文化服装学院・都立忍岡高等学校他 6 箇所	300
3	日本工業化学教育研究会第 57 回全国大会	7 月 29 日～ 31 日	都立工芸高等学校	100
4	ものづくりフェア in 2009	9 月 27 日	都立工業系高校　17 校 （都立総合工科高等学校のみ 9 月 26 日）	1,000
5	第 25 回葛飾区産業フェア ○工業・商業・観光展 ○農業・伝統産業展	10 月 16 日～ 18 日 10 月 23 日～ 25 日	テクノプラザかつしか 城東地域中小企業振興センター テクノプラザかつしか	延べ 83,000
6	第 7 回　創造ものづくりフェア in TOKYO	11 月 14 日	都立工芸高等学校	950
7	第 16 回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会	11 月 15 日	東京都教職員研修センター	189

平成21年度「作文コンクール」入選者

今年度の「作文コンクール」の応募者数は、中学校の部が32校・161名、高等学校の部は22校・96名、専修学校の部は4校・9名で、総数266名でした。昨年度に比べ中学校の部は10名増加しましたが、高校の部は10名減、専修学校の部は半減しました。また、高専・短大の部は昨年同様応募がありませんでした。今後は更に作文コンクールの意義等をPRしていく必要があります。

全作文について、各部の選考委員による第一次選考を経て、約25％が第2次選考にあがりました。第2次選考は、高校・専修の部が10月29日に、中学校の部は11月6日に行われました。厳正な選考の結果中学校の部は、最優秀賞：1、優秀賞：5、佳作：22の28名が、高校・専修の部からは最優秀賞：2、優秀賞：4、佳作：15、計21名、総計49名（約18％）が選考されました。

入選者に対する表彰式は12月22日に選考委員、本会役員、東京都教育庁等の出席を得て、都民ホールにおいて行われました。

入選者は以下の通りです。

中学校の部

最優秀賞	ものづくりの心	新宿区立西戸山中学校	2年	牧野紗依
優秀賞	笑顔を見て	品川区立浜川中学校	3年	草野里美
優秀賞	共生	大田区立馬込中学校	3年	内田菜摘
優秀賞	未来をつくる技術家庭	練馬区立石神井中学校	3年	日原雪恵
優秀賞	職場体験	葛飾区立立石中学校	3年	川端友梨亜
優秀賞	十三才の私に出来る子育て支援	中央区立晴海中学校	2年	荒木萌々
佳作	貴重な体験、パン屋さんでの三日間	新宿区立西戸山中学校	3年	萩原晴美
佳作	技術・家庭科の授業で学んだ事	新宿区立西戸山中学校	3年	羽角和菜
佳作	パジャマづくりを通して学んだこと	新宿区立西戸山中学校	3年	後藤裕子
佳作	物づくりから学んだこと	新宿区立西戸山中学校	3年	林礼奈
佳作	将来の夢に向って	文京区立第八中学校	2年	伊東沙都美
佳作	働く大変さと喜び	墨田区立両国中学校	3年	青木亮哉
佳作	職場体験で学び得たもの	墨田区立両国中学校	2年	増子健太朗
佳作	将来の夢に向って、今できること	品川区立浜川中学校	2年	大島琴海
佳作	働くことの楽しさ	大田区立南六郷中学校	2年	望月志保
佳作	白い箱	大田区立馬込中学校	3年	岡田稚菜
佳作	一日は一生	大田区立馬込中学校	3年	小楠由起子
佳作	自分の仕事に誇りを	大田区立馬込中学校	3年	根岸汀
佳作	一生懸命	大田区立馬込中学校	3年	山田実優
佳作	先生と園児のあいだ	大田区立馬込中学校	3年	横関美保
佳作	すみれ組の先生	大田区立馬込中学校	3年	池野遥

佳　作	「小さな小さなものづくり」という ボランティア活動を知って	大田区立大森第六中学校	3年　藤　平　理　沙
佳　作	職場体験で	世田谷区立駒留中学校	2年　北　岡　　樹
佳　作	技術を通して学んだこと	葛飾区立立石中学校	3年　青　山　健　一
佳　作	技術と日常の関わり	葛飾区立立石中学校	3年　菅　原　大　暉
佳　作	職業体験で学んだこと	江戸川区立小岩第四中学校	3年　大　賀　美　優
佳　作	私の夢と希望	愛国中学校	1年　メントネ　ソフィー　こころ
佳　作	私の将来の夢	愛国中学校	3年　鈴　木　沙耶香

高等学校の部

最優秀賞	看護とは何か	愛国高等学校	3年　神　山　未　樹
優秀賞	農業体験で学んだこと	都立園芸高等学校	3年　安　部　　巧
優秀賞	私の進むべき道	愛国高等学校	3年　飯　田　さゆり
優秀賞	悔しさを振りかえって	岩倉高等学校	3年　小　向　和　樹
佳　作	将来の夢	都立農産高等学校	1年　柏　木　亜　美
佳　作	技能習得型インターンシップとともに 挑んだ電気工事士の資格取得	都立練馬工業高等学校	2年　二　宮　早　紀
佳　作	私の在り方	都立小金井工業高等学校	3年　加　藤　将　一
佳　作	マーケティング部で学んだこと	都立江東商業高等学校	2年　山　本　華　己
佳　作	江東商業に入学して	都立江東商業高等学校	2年　横　尾　有　紗
佳　作	作る喜び、作る楽しさ	都立忍岡高等学校	3年　寺　澤　美　咲
佳　作	私を変えてくれたもの	愛国高等学校	3年　鈴　木　千　晶
佳　作	忘れてはならないこと	愛国高等学校	3年　関　谷　梨　沙
佳　作	大切なもの	愛国高等学校	3年　田　中　小　麦
佳　作	人のため、そして自分のために	愛国高等学校	3年　三　浦　　舞
佳　作	見られるということ	岩倉高等学校	3年　佐　藤　　剛
佳　作	マイ・ドリーム	岩倉高等学校	3年　中　川　拓　也
佳　作	言葉よりも大切なこと	蒲田女子高等学校	3年　滝　澤　祥　恵
佳　作	私が福祉で学んできて	蒲田女子高等学校	2年　手　塚　美　香

専修学校等の部

最優秀賞	体験で得た「ひかり」	青山製図専門学校	2年　藤　田　紘　子
優秀賞	仕事で得られるもの	ホスピタリティ ツーリズム専門学校	2年　関　根　沙　紀
佳　作	相手の立場に立つことの大切さ	東京エアトラベル・ホテル専門学校	2年　山　下　奈都美

作文コンクール最優秀作文

ものづくりの心

新宿区立西戸山中学校　2年　牧　野　紗　依

私が、中学1年の時、技術の時間に、限られた材料で一から考え設計し、自分でつくる、という授業が行われました。その時、ちょうど家にDVDが増え、DVDケースの置き場所に困っているところでした。そこで、私は、DVDケースが丸ごと入る、DVDラックをつくることにしました。

まずは、「設計図を描く」という課題が出ました。しかし、いざ描こうとすると、まずDVDケースの縦幅と横幅の長さや高さを測ったり、全部でいくつあるかを教えたりするところから、始めなければなりませんでした。すると、決められた材料では、大きさや板の枚数が足りないことがわかり、その時点で既に、様々な問題が生じました。それでも、姉にアドバイスをもらいながら、わくわくした気持ちで設計図を描きました。

次に、その設計図を基に、実際に作業をしていきました。実際の作業がとても大変だということは、以前の技術の授業で、先生が描いた一つの設計図を基に、全員同じものをつくった時に、身をもって体験していました。しかし、自分で設計したものとなると、つくる最中の楽しさも、格別だったような気がします。

作業中にも、設計図どおりにつくっているのに、計算ミスをしていて、板の長さが足りなかったり、穴を開けようとしているのに、なかなか開かなかったりと、色々な予想外の事態が発生しました。けれども、友達を頼るにも、つくっている作品そのものが違うので、同じものをつくった時のようにはいきません。そこで、友達を頼れる部分は助けてもらい、私も友達を助けられる部分は助けるといった風に、友達と助け合いながら、頑張ってつくっていきました。

自分の作品が段々出来上がっていくのは、見ていてとても楽しかったのですが、一番楽しかったのは、木材でつくってきた各部品を釘でつなぎ合わせる、接合の作業です。ほぼ設計図どおりの形になっていくので、はやく完成させたくて、作業がどんどん進みました。実際に完成した作品を家に持ち帰り、その中にDVDケースを入れた時、母は、「すごい！」ととても感動してくれました。あらかじめ大きさを測ってつくったのですから、当たり前といえば当たり前なのですが、実際にぴったりとDVDケースがおさまった光景には、確かに自分も感動しました。なにより、母だけでなく、父も、またさらには二人の姉にも喜んでもらえたことが、とても嬉しかったです。

技術の先生も母もほめてくれたのは、私が、このDVDラックを縦長につくった点についてでした。先生は、棒材を切らずに、縦に利用するという発想がユニークだという理由だ、褒めてくださいました。また母は、縦長に作れば、場所をとらなくて良いという理由で、褒めてくれました。

今、そのDVDラックは、当然のように我が家に置かれ、すっかりリビングになじんでいます。時々それを見て、つくった時の事をおもいだすと、つくづく「ものづくり」は大変で、それでいて楽しいものだということを感じます。

「ものづくりの心」で家の中を見回すと、私には全ての「もの」が、とても愛おしく感じられてくるのです。もちろん、機械で作られている「もの」も少なくありませんが、それを設計し、第一号をつくったのは人間なのだと思うと、やはり愛着がわいてくるのです。それに、その「もの」を作る機械も、元を辿れば人が作っているわけです。

たとえば、机や椅子などといった、いかにもつくられている「もの」だけでなく、扇風機やコンピューターなどにも、私は親しみがもてるようになりました。たとえそれをつくる工程が機械的だったとしても、何かを一からつくった経験があると、「もの」に愛着がわいてくるのです。こういう感情は、言葉で説明しても納得しにくいものかもしれませんが、これこそ「ものづくりの心」だと、私は思っています。こうして考えると、今までよりも何倍も「もの」が愛おしくなり、大切にしよう、と思えてくる私です。

看護とは何か

愛国高等学校　3年　神　山　未　樹

もし、「あなたにとっての看護とは何ですか？」と聞かれたら、以前の私ならきっと答えることは出来なかったことと思う。それは看護に関する知識や経験が浅いからだけではなく、看護に対してきちんと向かい合っていなかったからだと思う。

看護師になりたい、という強い思いから私は衛生看護科に入学した。看護の知識、技術が日に日に身に付いていくこと、看護師への夢へ近づいていく感じがたまらなく嬉しくて楽しかった。高校二年生の終わりには、病院実習へ行き、実際に看護の場に触れた。初めて受け持つ患者様、初めての看護、医療現場というものを実際に学んだ。この実習で私は看護の大切さ、難しさを感じた。それと同時に、継続して同じ看護ケアの効果が見られないことに対し、この看護ケアを継続して行う意味は何だろう、このケアを行って意味はあるのだろうか、と初めて「看護」に対する疑問を持った。

その疑問は高校三年生となり、成人・老人実習が始まっても続いていた。今思い返してみると、この時の私は患者様ではなく病気、つまり疾患の看護をしていたのである。患者様の個別性を尊重せずに、疾患だけを見つめていた。同じ疾患でも個人差があり、教科書通りの病態経過ばかりではないということ。そのような重大なことを当時きちんと理解できていなかった。私は何かはっきりしない感情を抱きながら、前半の病院実習を終え、夏休みを迎えた。

この夏、アメリカへ海外研修に行き、ホームステイを経験した。そこで私は貴重な体験をすることができた。私は今まで当たり前のように話をし、言葉を使ってきた。言いたいことも言ってきた。海外へ行き、日本語の通じない場所へ行って、初めて言葉の大切さ、言いたいことが言えることのすばらしさを知った。また、言葉が通じないことの大変さ、歯がゆさを感じた。

そんな時、ふと思った。患者様は、もちろん自分の思いをハッキリと伝えることが出来る人もいる。しかし、病院実習中、疾患や疾患の後遺症、障害が原因で声を出すこと、つまり話すことが出来ず、自分の思いを率直に伝えることの出来ない患者様を沢山目にしてきた。その患者様に対し、私は今思うと一方的に話をし、また接していたと思う。「何てことをしていたのだろう。」と今更になって思うが、私

は患者様の気持ちを整理し、患者様の立場に立てていなかった。話すことが出来ず、すぐに伝えることの出来ない患者様は辛いだろうな、と知識のうえだけで患者様の気持ちを理解した気でいた。患者様は私に何か訴えていたかもしれない。どんなに患者様が訴えかけても私には通じていない。患者様はどんなふうに思っていたのだろう。そう思うと、「今までの実習で自分は何をし、何を学んだのだろう。」と急に恥ずかしくなった。

私はアメリカへ行ったことで、言葉が通じず、思いが伝わらないことから、一生懸命思いを伝えること、伝えようとすることの大切さ、かけがえのなさを学んだ。病気による痛みで、話すことさえ辛いと感じる患者様もいるだろう。そんな時、看護師が寄り添い、温かい手、目、心で患者様に接することが出来たら、患者様はどんなに心強いだろうか。アメリカの家族は、私が話したいこと、私が話している下手な英語を理解しようと耳をずっと傾けてくれていた。最後に私の手を握り、目を見て深く頷いてくれた。本当のところを理解してもらえたかは分からないが、なんだか心が温かくなった。患者様が伝えようとするとき、一方的ではなく、その伝えたい思いを理解してくれる人がいたら、患者様はどんなに安心するだろう。看護師は、患者様の立場に立ち患者様の思いをくみ取りながら、患者様が訴えかける何かを理解しようとする姿勢、そして洞察力が大切である。私はこんな当たり前のことに初めて気がつかされたのだ。

また、私のホームステイしたアメリカの家族の母の妹は、耳が不自由であり、言葉を話すことが出来なかった。家族とは手話で会話をしていた。その方は、私に伝わりやすいように簡単な単語を紙に書き始めた。私はそれを辞書で訳して読んだ。そこにはこう書かれてあった。「私は日本語はもちろん、自分が生まれた国の言葉さえ話すことが出来ない。手話が通じない時、私は自分の気持ちを相手に知って貰うことが出来ない。私は話したいことがあってもどうにもならない。あなたはアメリカに来て色々大変かもしれないけれど、話す力を持っている。」

私はその言葉に「はっ」とした。ホームステイの中で、英語が苦手だからという自分のことだけを考え、話そうとしない自分を正当化していた。目の前にいる人は自分と違う人で」あり、その相手を思う気持ちが全ての出発点なのだということを、アメリカの地で改めて考えさせられた。

看護の「看」という漢字の一部に「手」が使われているのにも意味がある。手は、看護の技術を発揮する時だけではなく、相手の気持ちを理解する時にも使われる。しっかりと自分の目で患者様を見つめ、理解していくことが大切だからなのだろう。私は改めて「看護とは何か」を考える機会を与えられた。

もし今、「あなたにとって看護とは何ですか？」と聞かれたら、私はきっとこう答えるだろう。

「患者様の思いを知ること。」と。

☆☆

体験で得た「ひかり」

青山製図専門学校　2 年　藤　田　紘　子

私が建築の道を目指すようになる前、主婦として子育てをしながらカフェで働いていた。このカフェは、ランチも充実していて繁盛しており、私はやりがいを感じていた。美味しい料理を提供する・お客

様を笑顔で迎え、送り出す。心地良い空間創りとは何か、常日頃考えていた。そして、店舗改装の経過に立ち会い、空間創りの違う視点を体験し、建築に興味を持った。

私の父が建築士であった為、幼少期から憧れはあったが自分がその方向に進むのは無理なのではと思い込んでいた。しかし夫や両親に建築の勉強をしたいと相談すると、熱意が通じ賛成してもらえた。そして喜びの気持ち一杯で青山製図専門学校・商空間デザイン科に入学した。

入学してすぐの頃は慣れるのに大変だった。建築についての知識は皆無、久々の数学、ハードな課題に苦戦していたが、線一本引くにも定規の持ち方まで決まっていたり、何もかもが新鮮なことばかりで楽しんでもいた。

ようやく慣れてきた五月のある日、校外学習で【江戸東京たてもの園】を訪れた。歴史ある建物が移築されていたり、商店が再現されている。次々と見学をしていくと、ある日本家屋で担任の先生と一緒になった。そして見学をしている私達をみてこうおっしゃった。

「和室は座って生活するのだから、同じ視点になって周りを見てごらん。」

和のデザインを納めようとデジタルカメラをいじっていたのを一旦止めて、その場に正座してみた。はっとした。木のぬくもり、座った角度からの景観、実用性、座っただけでいろんなことが飛び込んできた。充実した見学ができた。

移築・再現された建物は古いながらもインテリア、構造、細かなディテールが新鮮で新しいデザインを考えるヒントがいくつもあった。障子の格子から差す光のやわらかさ、鉄格子の一本一本のひねり、欄間の彫刻、瓦の配置、日本の文化が世界で通用するだけの繊細さがあると感じられた。私が今、数奇屋建築に興味を持っているのもこの日のことが原点であるし、見学によって創作意欲が湧き、明日から頑張ろうと思ったものである。

時には思うように描けなかったり、自分のデザインの欠点を先生方から指摘されて悔しい思いをすることもあるが、仲間たちと一緒に乗り越えてきた。パソコンの操作を教えてもらったり、柔軟なデザイン力は刺激になる。年齢差を越えて切磋琢磨できることが嬉しいと思う。

充実した毎日を送る中で、私生活での心意気も変わってきた。私の住む墨田区は【ものづくりのまち】として栄え、産業が盛んである。町のいたるところに工場や工房、企業が立ち並んでいる。普段何気なく歩いていた道も、ふと見ると「ねじ」の会社、「ばね」の工場などがあり、工業には欠かせない部品や道具類をこの町で作っていることに誇りを感じる。

町内会の試みで、町工場を利用した社交場「まちこうBAR」というイベントがあった。昼はガレージで演奏会があったり、子供向けに工具を使った工作教室、夜は大人が持ち寄った食べ物をつつきながら酒を嗜む。町工場がこんな使われ方をすることは考えつかなかった。以前は自分に余裕がなく、鉄を切る音をうるさく感じることもあった。今は「どうやって切断しているんだろう」と学校での授業を思い出して興味を感じたり、「今度この工場で老若男女交流会があったら楽しいだろうな」といろんな思いで過ごしている。

学校や町での体験を通し、公私両面の充実を感じ、私は不思議な感覚にとらわれていた。幸せのような、それでいて胸が〝きゅうっ〟として、見えない空気のような何かに包み込まれているような感覚である。言い表せないこの気持ちは後に、美術館をテーマとした課題の中でこう表現してみた。

―――こころの光合成―――

「光合成」とは植物や藻類が光・水・二酸化炭素を得て反応を起こし、糖分を合成し酸素を大気に排

出する。光は主に太陽光だが人間の心にとってこの「ひかり」は、

・知識を得たとき（分からない問題がわかった、知らない情報を得た）
・きれいな情景を見たとき (夕焼けに感動)
・人とのふれあい（温かさに元気づけられた）
・美味しいものを食べたとき
・ぼーっとしているとき

様々なひかりがあると思う。

この「ひかり」を感じることで、それまで意識していなかった事が新鮮に思えたり、子供や友人と「疑問」に挑んだり、いろんなことが活性化されて、実生活に還元できている気がした。

植物が酸素を大気中に供給しているように、私が学習や体験から得たひかりは体で分解され子供や社会、そして次世代へと放出できるのではないだろうか。私は建築という分野でひかりを感じたが我が子はどんなことに「ひかり」を感じるのだろう。そして光合成は世代をこえて繰り返し、小さな野花が何気なく咲くように、皆が幸せを感じられる世の中になったらいいと思う。

平成 21 年度　「作文コンクール」応募校一覧

＜中学校の部＞

番号	区・市名	学　校　名	応募人数
1	中央区	晴海中	4
2	港区	六本木中	2
3	新宿区	西戸山中	9
4		落合中	9
5	文京区	第六中	4
6		第八中	7
7	墨田区	両国中	10
8		吾嬬第一中	3
9	品川区	小中一貫日野学園	3
10		浜川中	2
11	目黒区	第八中	7
12		第九中	4
13	大田区	大森六中	6
14		馬込中	9
15		南六郷中	1
16		蒲田中	1
17	世田谷区	用賀中	8
18		駒留中	5
19	荒川区	第五中	1
20	北区	滝野川紅葉中	2
21	板橋区	赤塚第三中	8
22		志村第四中	3
23		加賀中	1
24	練馬区	石神井中	2
25		上石神井中	6
26	葛飾区	東金町中	5
27		立石中	10
28	江戸川区	小岩第四中	7
29		鹿骨中	1
30		瑞江中	8
31	府中市	府中第九中	3
32	私立	愛国学園中	10
	32 校	計	161

男（48）　女（113）

＜高等学校・専修学校の部＞

番号	学　校　名	応募人数
1	都立忍岡高	7
2	都立野津田高	3
3	都立園芸高（定）	1
4	都立農芸高（全）	1
5	都立農産高（全）	7
6	都立瑞穂農芸高（全）	2
7	都立農業高（全）	2
8	都立蔵前工業高（全）	1
9	都立練馬工業高	1
10	都立小金井工業高（全）	8
11	都立六郷工科高	1
12	都立科学技術高	6
13	都立赤羽商業高	6
14	都立江東商業高	4
15	都立四谷商業高（定）	1
16	都立青梅総合高（定）	2
17	都立橘高	7
18	私立蒲田女子高	9
19	私立岩倉高	7
20	私立村田女子高	2
21	私立愛国高	10
22	国際理容美容専門学校	8
23	国際観光専門学校	1
24	ホスピタリティツーリズム専門学校	4
25	青山製図専門学校	2
26	東京エアトラベル・ホテル専門学校	2
高校等 22 校　専修 4 校	計	105

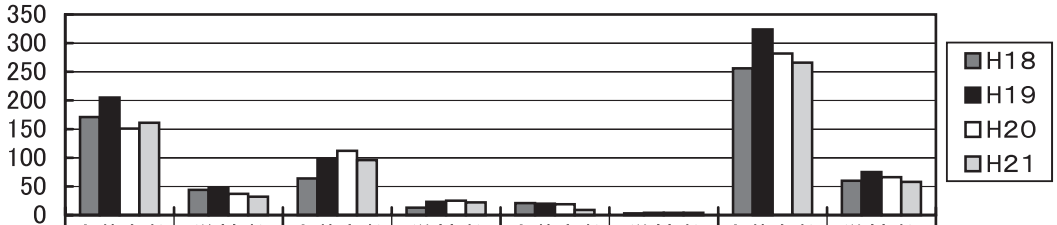
男（24）　女（81）

中学校	161	公：31 校（151） 私：1 校（10）
高等学校	96	公：17 校（60） 私：5 校（36）
専修学校	9	
総計	266	

男（72）　女（194）

≪参考≫

図 1　過去 4 年間の応募状況



	中学校		高等学校		専修学校		合計	
	応募者数	学校数	応募者数	学校数	応募者数	学校数	応募者数	学校数
H18	171	44	64	13	21	3	256	60
H19	205	48	99	23	20	4	324	75
H20	151	37	112	25	19	4	282	66
H21	161	32	96	22	9	4	266	58

図 2　応募者の男女比（本年度）

		男	女	計
中学校	人数	48	113	161
	%	29.8	70.2	100
高校・専修	人数	24	81	105
	%	22.9	77.1	100
全体	人数	72	194	266
	%	27.1	72.9	100

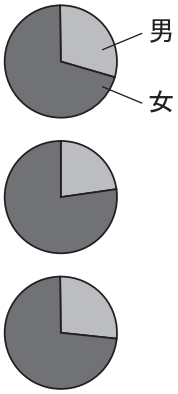
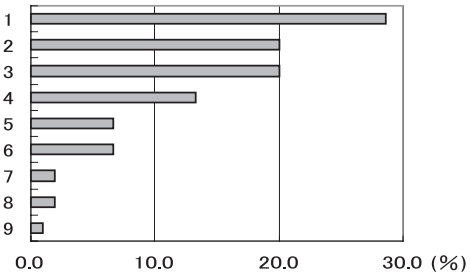


図 3

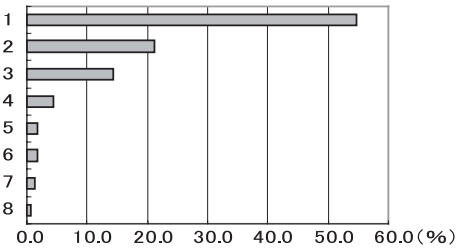
分野別応募数　　高校・専修の部（本年度）

	数	%	
1. 就業体験や現場実習で学びえたこと	30	28.6	1
2. 専門教科の学習で学びえたこと	21	20.0	2
3. 私の進路・将来の夢	21	20.0	3
4. 学習に対する心構え	14	13.3	4
5. つくることの喜び・ものづくりの喜び	7	6.7	5
6. 私の職業観・その他	7	6.7	6
7. ボランティア活動等によって学びえたこと	2	1.9	7
8. 働くことの喜び	2	1.9	8
9. 私の生きがい	1	1.0	9
	105	100	



分野別応募数　　中学校の部（本年度）

	数	%	
1. 職場体験やボランティア活動等によって学びえたこと	88	54.7	1
2. 私の進路・将来の夢	34	21.1	2
3.技術・家庭科の授業を通して学びえたこと	23	14.3	3
4. つくることの喜び・ものづくりの喜び	7	4.3	4
5. 学習に対する心構え	3	1.9	5
6. 私の職業観・その他	3	1.9	6
7. 私の生きがい	2	1.2	7
8. 働くことの喜び	1	0.6	8
	161	100.0	



本会の概要

平成21年度　事業経過報告

（2月22日現在）

1　理事会

5月22日（金）午後2時から、都庁第一本庁舎33階　特別会議室S1で開催

2　総会・講演会

6月9日（火）午後2時30分から、BIZ新宿（新宿区立産業会館）多目的ホールで開催

○　講　演　　演題　「リーダーシップの入り口」

講師　株式会社ニチレイ　代表取締役会長　浦野 光人 氏

※ 総会報告は会報136号に、講演要旨は137号に掲載

3　委員会

(1) 企画推進委員会　6月23日（火）都庁第二本庁舎31階　特別会議室25で開催

(2) 中学校技・家教育功労者選考委員会

9月18日（金）都庁第二本庁舎29階　第二会議室で開催

(3) 作文選考委員会　6月18日（木）全体会 都庁第二本庁舎28階 第三会議室で開催

10月29日（木）分科会（高校・専修）都庁第二本庁舎28階第三会議室で開催

11月　6日（金）分科会（中学校）　都庁第二本庁舎29階 第二会議室で開催

(4) 企画推進委員会　3月16日（火）都庁第二本庁舎31階　特別会議室25で開催予定

4　振興奨励事業

(1) 中学校技術・家庭科教育功労者（5名）及び御下賜金記念産業教育功労者（16名）並びに専修学校・短期大学産業教育功労者（1名）の表彰式を11月17日（火）都庁第二本庁舎特別会議室21において挙行した。本会より表彰状の授与と記念品贈呈を行い、記念撮影をした。

(2) 産業教育関係の研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。

(3) 中学生、高校生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は266点であった。その中から最優秀賞3名（中学校1名、高校1名、専修学校1名）、優秀賞9名（中学校5名、高校3名、専修学校1名）、佳作37名（中学22名、高校14名、専修学校1名）の入賞者を決定し、12月22日（火）に都民ホールにおいて表彰式を行い、賞状と賞品を授与した。また、入賞されなかった応募者全員に記念品を贈呈した。

(4) 優良卒業生に対し、各学校の校長を通じ、本会会長並びに産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○本会会長の表彰

中学校	838名	高等学校	240名	
専修学校	36名	高専・短大	17名	計　1,131名

○産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校　　計　125名

(5) 産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援の名義使用を承認している。本年度は7団体、7事業に対して後援名義の使用を承認した。

5　産学交流事業

(1) 見学・研修会

8月21日（金）株式会社日本化薬東京において実施した。

会社概要説明の後、2班に別れ用意されたヘルメットと上着を着用し工場内の塗料・インクの製造設備を見学した。さらに、バクテリアを活用した排水設備による環境への配慮についても見学した。また研修では、①「色素合成について」②「インク・染料について」二部に分けて専門的な内容と色素合成実験や、光による反応など興味深いものであった。参加者　35名

(2) 産学懇談会

11月26日（木）会場を専門学校中央工学校において実施した。

中央工学校より学校概要及び専門学校と他の高校との教育連携についての説明後、授業・実習見学と施設見学をした。その後、専修学校教育についての意見交換をおこなった。

意見交換では、専修学校における産業技術教育の現状と期待・工業高校をはじめとしての連携教育についてと今後の産学連携のあり方等について話し合った。参加者25名

6　情報連絡事業

(1) 会報「東京の産業と教育」を21年度年2回発行、第136号を7月15日、第137号を11月30日に発行し、会員及び関係諸機関に配布する。

(2) 会誌「東京の産業教育」第47号を2月末に発行し、会員及び関係諸機関に配布する。

(3) 生徒作文集「明日に生きる」第20号は入選作品49編を掲載して、2月末に発行し、会員及び関係諸機関に配布する。

(4) 産業教育振興中央会主催の「産業実地研修会」は、毎年、夏季休業期間に関係機関、研究所及び企業等において実施されているが、本会よりの参加者はなかった。

(5) 産業教育振興中央会の実施する「産業教育改善に関する特別研究助成」には、今年度本会から工業系1名の採択があった。

(6) 産業教育振興中央会における平成21年度海外産業教育事情視察には、本会から家庭系1名が参加した。

(7) 文部科学省･産業教育振興中央会ほか主催の第51回全国産業教育振興大会・第19回全国産業教育フェア神奈川大会が11月14日～11月15日、パシフィコ横浜他7会場で開催され、本会から会長、副会長、事務局長、事務局員の6名が出席した。

(8) 全国産業教育振興連絡会議・全国産業教育振興会連絡協議会役員総会は、5月28日（木）東京で開催された。本会より会長、副会長、事務局長が出席、その他多数の会員が出席した。

(9) 関東地区産業教育振興連絡協議会は、平成21年度以降は、しばらく休止することになった。

(10) 東京都産業教育振興会のホームページを月一回更新した。

7　会員の増加運動の推進

学校会員2校（都立高校1校、専修学校1校）、企業会員6社が新規に加入した。

平成20年度　決　算

総収入額¥　3,415,652　総支　出額¥　2,798,824　　残額　¥616,828（次

［収入の部］　（単位 円

科　　目	予算額	決算額		
会	2,573,000	2,635,000	62,000	1　学校会員　1,575,000 ①　公私立中学校　417校　834,000 ②　都立高校　324,000 123,000 ③　私立・国立高校　全　2　150,000 定　1校（前年度納入済み）　0 ④　高専・短大　36,000 ⑤　専修学校　17　108,000 2　産業界会員　1,060,000 ①　会社69社 ＊1社1口21年度分含む　103口　1,030,000 ②　個人 6名　3口　30,0
積立金	0	0	0	
利子収入	592	1,034	442	預金利息　1,727
雑収入	185,000	195,210	10,210	会誌広告料ほか
繰越金	584,408	584,408	0	前年度繰越
合　計	3,343,000	3,415,652	72,652	

［支出の部］　（単位 円）

科		予算額	決算額	差額	摘　　要
事務費		490,000	435,933	54,067	
項目	需用費	75,000	69,660	5,340	総会資料印刷、消耗品費等
	役務費	375,000	339,513	35,487	郵券、郵便振込手数料負担、発送費等
	旅費	40,000	26,760	13,240	サンフェア沖縄
会議費		147,000	85,971	61,029	総会、理事会、各種委員会
事業費		2,425,000	2,196,920	228,080	
項目	振興奨励費	780,000	704,985	75,015	(1)教育功労者表彰　139,818 (2)研究奨励助成　150,000 (3)作文表彰　219,039 (4)永年会員表彰　50,243 (5)表彰状印刷　114,975 (6)表彰状筆耕料　30,910
	情報連絡費	1,635,000	1,483,000	152,000	(1)会報発行×3回分　320,000 (2)会誌(46号)発行　561,150 (3)作文集(19号)発行　462,900 (4)HP更新費　131,450 (5)関産協参加費　1,500 (6)全産協参加費　6,000
	産学交流費	10,000	8,935	1,065	産学懇談会(2回)
分担金		80,000	80,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会
予備費		201,000	0	201,000	緊急対応
合　計		3,343,000	2,798,824	544,176	

平成21年度　予　算

総収入額　¥3,349,000
総支出額　¥3,349,000
差 引 額　0

［収入の部］　（単位：円）

科　目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増△減(A-B)	摘　　要
会　費	2,566,000	2,573,000	△ 7,000	1　学校関係　1,546,000 ① 公私立中学校　413 校　826,000 ② 都立高校　全 52 校　312,000 定 37 校　111,000 ③ 私立・国立高校　全 25 校　150,000 定 1 校　3,000 ④ 高専・短大　6 校　36,000 ⑤ 専修学校　17校　18 口　108,000 2　産業界関係　1,020,000 ① 企　業 67社　99 口　990,000 *68社100口の内1社1口納入済み ② 個　人 6名　6 口　30,000
利子収入	1,172	592	580	預金利息
雑収入	165,000	185,000	△ 20,000	広告料ほか
繰越金	616,828	584,408	32,420	前年度繰越
合　計	3,349,000	3,343,000	6,000	

［支出の部］　（単位：円）

科　目		本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増△減(A-B)	摘　　要
事務費		555,000	490,000	65,000	
項目	需用費	106,000	75,000	31,000	総会資料印刷、消耗品費等
	役務費	449,000	375,000	74,000	配送費、郵便振込手数料、郵券等
	旅　費	0	40,000	△ 40,000	全国産業教育フェア（神奈川大会）
会議費		112,000	147,000	△ 35,000	理事会、総会、各種委員会
事業費		2,429,000	2,425,000	4,000	
項目	振興奨励費	803,000	780,000	23,000	①教育功労者表彰　160,000 ②研究奨励助成　155,000 ③作文表彰　346,000 ④永年会員表彰　35,000 ⑤表彰状印刷　72,000 ⑥表彰状筆耕料　35,000
	情報連絡費	1,616,000	1,635,000	△ 19,000	①会報発行（２回分）　280,000 ②会誌47号発行　605,000 ③作文集20号発行　533,000 ④ＨＰ更新費　190,000 ⑤全産協参加費　6,000 ⑥中央会図書費　2,000
	産学交流費	10,000	10,000	0	見学研修会謝礼、産学懇談会
分担金		80,000	80,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会
予備費		173,000	201,000	△ 28,000	緊急対応
合　計		3,349,000	3,343,000	6,000	

（注）科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成 21 年度　東京都産業教育振興会役員（敬称略・順不同）

会長	㈱企業再生支援機構代表取締役社長	西澤宏繁
副会長	TDO グラフィックス㈱ CEO	久保村昭衞
	㈱カナック企画相談役	金子昌男
	東京都立芝商業高等学校長	本多吉則
理事長	東京都教育委員会教育長	大原正行
常任理事	東京都教育庁都立学校教育部長	森口純
	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長	加藤裕之
理事	経済同友会・専務理事	小島邦夫
	東京商工会議所常務理事・広報部長	関口史彦
	東京経営者協会事務局長	和栗安広
	信川化学工業㈱取締役社長	信川仁道
	浅地事務所代表	浅地正一
	㈱日刊工業新聞社代表取締役社長	千野俊猛
	墨田区教育委員会教育長	久保孝之
	足立区教育委員会教育長	齋藤幸枝
	武蔵野市教育委員会教育長	山上美弘
	渋谷区教育委員会学務課長	菅原幸信
	江戸川区教育委員会学務課長	土屋典昭
	東京誠心調理師専門学校理事長	廣瀬喜久子
	大森学園高等学校長	井上皓司
	岩倉高等学校長	山田茂英
	安部学院高等学校長	安部元彦
	京北学園白山高等学校副校長	杉原米和
	東京都立農芸高等学校長	花野耕一
	東京都立足立工業高等学校長	木暮守雄
	東京都立荒川工業高等学校長	豊田善敬
	東京都立赤羽商業高等学校長	戸田勝昭
	東京都立忍岡高等学校長	清水ゆかり
	東京都立東久留米総合高等学校長	青木伸道
	府中市立府中第二中学校長	三浦登
	中央区立銀座中学校長	太田達郎
	東京都教育庁指導部長	高野敬三
	東京都教育庁指導部高等学校教育指導課長	宮本久也
	東京都教育庁指導部主任指導主事（産業教育担当）	仙田直人
	東京都教育庁都立学校教育部副参事（ものづくり教育推進担当）	山川富也
理事・事務局長	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課計画担当係長	加野哲朗
常任監事	東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長	鈴木信孝
監事	㈲飯吉製作所代表取締役	飯吉修一呂
監事	足立区立六月中学校長	池田敦彦

東京都産業教育振興会各委員会委員（敬称略・順不同）

企画推進委員会

東京都立園芸高等学校長	千谷　順一郎
東京都立葛西工業高等学校長	平林　博
東京都立大田桜台高等学校長	長船　孝明
東京都立豊島高等学校長	島田　悦郎
東京都立葛飾総合高等学校長	國分　達夫
昭和第一学園高等学校長	高水　攻
安部学院高等学校長	安部　元彦
東京誠心調理師専門学校長	廣瀬　道
東京都立産業技術高等専門学校長	荒金　善裕
目黒区立第九中学校長	情野　政彦
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	守屋　文俊
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	松永　かおり

作文選考委員会

東京都立瑞穂農芸高等学校長	岡本　利隆
東京都立府中工業高等学校長	石井　末勝
東京都立橘高等学校長	中村　謙一
東京都立葛飾商業高等学校長	小山　公央
東京都立江東商業高等学校長	金城　和貞
東京都立城東高等学校長	小峯　健治
東京都立杉並総合高等学校長	丹藤　浩
安田学園高等学校長	鈴木　行二
京北学園白山高等学校副校長	杉原　米和
国際理容美容専門学校長	鈴木　政信
練馬区立上石神井中学校長	小野　雅保
江東区立第二大島中学校長	倉持　眞由美
清瀬市立清瀬第五中学校長	千野　和子
練馬区立豊玉第二中学校長	長南　良子
大田区立大森第六中学校長	税所　要章
板橋区立志村第一中学校長	松本　洋人
北区立十条富士見中学校副校長	佐々木　健一
渋谷区立本町中学校副校長	白倉　昌裕
荒川区立諏訪台中学校主幹教諭	出井　玲子
練馬区立石神井中学校主幹教諭	深井　明美
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	平柳　伸幸
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	山田　和人
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	木田　貴子
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	和田　栄治
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	山村　智宏

産　業　界　会　員　名　簿

50 音順

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績（○印）	企業の概要・特色
1	浅地事務所	港区	—	経営相談、コンサルティング、社外役員の紹介及び仲介他
2	㈲東新幸社	葛飾区	—	多年に渡る（創業 56 期）玩具製造の技術を用い、照明器具・空気銃玩具雑貨品を製造している。
3	㈲飯吉製作所	葛飾区	—	金属プレス加工業を昭和 24 年創業、昭和 37 年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャスターを開発、製造販売を始め、現在に至る。
4	㈱イツエ・エレクトロニクス	北区	—	電子部品の販売及びヨーロッパからの機械輸入販売。
5	㈱エイエスケイ	千代田区	—	—
6	㈱エイコー	葛飾区	(○) 高校卒	昭和 35 年にビルメンテナンス業を創業。 平成 13 年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。
7	㈱大崎コンピュータエンヂニアリング	品川区	(○) 高専卒（○) 四大卒 (○) 大学院	「信頼とサービス」をモットーに、営業・システム・施工保守・技術部門が一体となって、システム開発から通信ネットワーク構築、アウトソーシングサービスまで、トータルな IT 環境を提供する総合インテグレータ。富士通・富士電機・NTT グループのディーラー業務等。
8	㈱オーム社	千代田区	(○) 高専卒（○) 四大卒 (○) 大学院	科学技術関係の書籍及び月刊誌を発行。情報科学、情報通信、電気電子、応用物理、機械制御、土木建築、空調衛生設備、化学環境、生命科学、医用電子など理工学全分野に及ぶ。定期雑誌は『OHM』『新電気』『電気と工事』『設備と管理』『Medical Bio』『ロボコンマガジン』の月刊・隔月刊 6 誌。
9	㈱オリタニ	葛飾区	(○) 高校卒（○) 四大卒	クリーニング用資材の製造販売を行っています。
10	㈱カナック企画	葛飾区	—	当社は、カーオーディオやカーナビゲーションなどカー AV（Audio Visual）機器の取付キットビジネスの最前線を常に開拓するリーディングメーカーです。ISO9001・14001 を取得して品質を重視し、環境に配慮した商品の開発を行っております。
11	亀有信用金庫	葛飾区	(○) 高校卒（○) 短大卒 (○) 四大卒	信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心に 24 店舗（1 出張所を含む）を構え、お客様との信用・信頼を第一に地域のコミュニティバンクとして活躍しています。
12	㈱川邑研究所	目黒区	(○) 専修卒（○) 四大卒	固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売
13	機械研究㈱	台東区	(○) 短大卒（○) 四大卒	教育・研究用実験試験装置設計製造。大学、高専、工業高校、職業能力開発校、民間企業等に多数の納入実績があります。
14	㈱キクチ	品川区	(○) 専修卒（○) 高専卒 (○) 四大卒	ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス。設備管理サービス。電気計装工事。
15	㈱キトウ	千代田区	(○) 四大卒	中学校技術・家庭科および美術科・工芸科用教材・教具および機械・工具の専門店。工作機械、工作台等のメンテナンスサービスも充実させています。
16	㈲グローバル・コミッション	大田区	(○) 四大卒	製造業を中心とした中小企業へのコンサルティング。東京都立産業技術高等専門学校様との産学連携で大変お世話になっています。
17	恵雅堂出版㈱	新宿区	(○) 高校卒（○) 短大卒 (○) 四大卒	卒業アルバム及び一般書籍の出版。
18	㈱建築資料研究社	豊島区	—	建築資料研究社は、日建学院をはじめとして書籍やハード・ソフト、関連用品、スクール等建築・建築に関する様々なニーズにお応え致します。（あなたの「夢」応援します。）
19	㈱小薬印刷所	中央区	—	創業 80 年の印刷会社。学術学会誌、書籍の編集・印刷に強み。近年、エディトリアルデザインやデータ加工分野に力を入れている。
20	㈱コヤマ服装	府中市	—	学生服他、製造販売。
21	三和電気計器㈱	千代田区	(○) 専修卒（○) 短大卒 (○) 四大卒	従業員 70 名の中小企業ですが、2009 年に創業 68 周年を迎える現場用電子計測器の専門メーカーです。高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界 74 ヶ国以上に輸出し、SANWA ブランド製品として高い信頼を得ています。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績（○印）	企業の概要・特色
22	㈱ JTB 法人東京	新宿区	(○) 四大卒	個人旅行から修学旅行、遠足、クラブ合宿、職員旅行、謝恩会、海外語学研修、ホームステイプログラムといった団体旅行まで、様々な分野のご旅行のお手伝いをさせて頂いております。また、大きく変革する学校教育の課題解決にお応えするために「旅行業から教育コンサルタント業」へと変化し続けています。
23	実教出版㈱	千代田区	(○) 四大卒	高等学校用教科書・補助教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941 年創業、従業員 150 名。
24	㈱昭和理化	豊島区	(○) 高校卒	消防用設備（自動火災報知設備、消火設備、避難設備）、弱電設備（インターホン、ナースコール、テレビ共聴、放送、映像、監視用テレビカメラ、防犯）の施工、保守。多様化社会の昨今、需要多く多岐にわたる技術及び法対応に自信を持って対応致しております。
25	㈱鈴木塗装工務店	足立区	(○) 高校卒（○）専修卒 (○) 短大卒	全国主要都市に支店･営業所を有し、ビル･マンション･工場等のリニューアル工事を多岐に亘り施工しております。また、安全・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、ISO9001：2008 認証取得により品質管理を徹底しております。
26	青和信用組合	葛飾区	(○) 短大卒（○）四大卒	「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の 8 町、江戸川区の 2 町、足立区の 5 町に居住される約 98,360 世帯（人口 208,780 人）と、地域内で事業を営まれる中小企業､そこに勤務される方々を対象に活動しており、現在、約 44,330 世帯（63,615 人）の個人の皆様と、2,452 先の法人等の方々にお取引をいただいております。
27	㈱セレモニーユニオン	葛飾区	—	当社の事業内容：葬祭業・仏壇仏具の製造販売・墓石の建立のうち特に仏壇は当社の代表者自身が東京都認定の「東京仏壇」の伝統工芸士に認定されている。東京仏壇は､業界の中では超高級品として扱われている。
28	千住金属工業㈱	足立区	(○) 高校卒（○）専修卒 (○) 高専卒（○）短大卒 (○) 四大卒（○）大学院卒	携帯電話、コンピュータ等には欠かせないはんだでは世界のトップメーカーです。インテル社より 2007 年度最優良納入業者として表彰（世界で 13 社）を受けました。海外拠点も 26 ヶ所になります。
29	㈱第一科学	文京区	(○) 高校卒	高校、大学、官公庁（都内）への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売
30	太平観光㈱	練馬区	(○) 専修卒（○）四大卒	昭和 38 年創業。学校関係主体の旅行業者。資本金 8,000 万円、従業員 25 名（常勤役員 4、正社員 20、パート 1)。年商 10 億。学校関係 70%、海外旅行 10%、国内募集旅行 10%、個人一般旅行 10%。
31	大洋塩ビ㈱	港区	—	—
32	㈱高橋運動具店	府中市	(○) 高校卒	各種運道具の販売。ベースボールショップ併設。体育施設工事の請負
33	㈱竹尾	千代田区	(○) 高校卒（○）短大卒 (○) 四大卒	1899 年の創業以来、一般印刷用紙、特殊印刷用紙（ファインペーパー）の開発、販売を通して「情報の伝達」「環境の保護」「文化の向上」等の社会貢献に寄与しています。「ファインペーパーの竹尾」と全国に知れ渡り、約 400 銘柄、9,000 種の紙を取り扱い、市場ニーズにあった製品の提供を続けています。
34	谷口インキ製造㈱	荒川区	(○) 高校卒（○）四大卒	印刷インキの製造・販売と共に、コンピューターカラーマッチング技術のハード、ソフトをコア技術として、お客様のニーズに細かく対応して印刷業界に貢献しています。
35	TDO グラフィックス㈱	千代田区	(○) 高校卒（○）短大卒	当社は専門商社の名にふさわしく、取扱商品は実に多彩。その種類は 2 万を超えています。主なものは各種抵抗器､コンデンサー､水晶振動子等､ケーブルコネクター、ニッケル電池、組立加工、DVD、リードリレー、IC、液晶素子､プラズマディスプレー､情報機器の開発設計､光ハイパー応用品等。
36	㈱チバダイス	葛飾区	(○) 専修卒（○）四大卒	プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの 3 割は海外との取引です。
37	鉄道機器㈱	中央区	(○) 高校卒（○）四大卒	大正 3 年創業。昭和 62 年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後は JR 各社をはじめ私鉄各社、各都市交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に低騒音化、低振動化、地震対策等、時代のニーズに対応した分岐器の開発・改良に注力しています。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績（○印）	企業の概要・特色
38	東京ガス㈱	港区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	当社は、1885年の創立以来、120年余りの長きにわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客様の豊かな暮らしや産業の発展を支えてまいりました。現在では、日本最大かつ世界でも有数の都市ガス会社として、1000万件をこえるお客さまにご利用いただいています。
39	東京書籍㈱	北区	(○) 短大卒 (○) 四大卒	1909（明治42）年の創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小中高等学校の教科書を中心に、ワークブック・問題集・辞典などの教材、ビデオ、パソコンソフト、教科書、辞典、エッセイなどを幅広く発行。
40	東京スマイル農業協同組合	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	概要：指導・信用・共済・経済事業等を行っている。 特色：地域に密着した取組をしている。
41	東京電力㈱	千代田区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	「エネルギーの最適サービスを通じて豊かな生活と快適な環境の実現に貢献していくこと」を経営理念に掲げ、電気を安定してお客さまにお届けするとともに、関連新規事業を展開しています。また、エネルギー教室（出前授業）・発電所見学会などを通して、学校教育への支援をさせていただいています。
42	東京都農業会館	立川市	—	—
43	㈱東京都民銀行	港区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	昭和26年の創立以来、金融サービスを通じ、地元東京と中小企業の発展、個人の豊かなライフステージの実現のために、東京の頑張る人を応援している地方銀行です。お客様のニーズに合わせ各種預金商品、融資商品の提供、近隣地銀の横浜銀行、千葉銀行やセブン銀行等と提携し、首都圏約7,000ヶ所のATMで平日日中に手数料無料でお引き出しできるネットワークの充実を図っています。給料日前に働いた範囲内で給料を受け取れるサービス「前給」（特許取得済）の取扱、事業承継やＭ＆Ａのご相談、中国ビジネス支援等、様々な金融ビジネス展開を行っています。
44	㈲東京プリンテック	世田谷区	—	“信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。
45	㈱トスロン	台東区	—	プラスチックの密閉容器の製造販売で有名。
46	㈱トンボ鉛筆	北区	(○) 四大卒	文具の製造販売。「書く」「消す」「貼る」の三つの分野を中心に商品を開発、販売しています。
47	㈱日刊工業新聞社	中央区	(○) 四大卒	わが国唯一のモノづくり総合紙。
48	㈱日本化薬東京	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	当社はインクジェットプリンター用色素、繊維・紙パルプ用染料を製造しております。会社運営のキーワードとして「安全」「コンプライアンス」「健全」および「スピード」を掲げ、高機能都市型工場をめざしております。
49	日本自動ドア㈱	中野区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。
50	信川化学工業㈱	葛飾区	—	超大型射出成形機を多数設備し、プラスチック製品を製造する。中型・大型・超大型のプラスチック射出成形品には、JA機器・建築・土木・工業品・自動車・家電・日用品雑貨等幅広い分野の製品がある。射出成形機2,700t、2,200t、1,600t × 2、1,200t、850t × 4、650t × 2他計21台。クレーン20t、10t他。
51	日野自動車㈱	日野市	(○) 中学卒 (○) 高校卒	日野自動車株式会社は、トラック、バスの製造・販売において、日本最大級の規模を誇っています。特に、世界初のハイブリッドバスを量産するなど、ハイブリッド商用車の実用化をリードしてきました。「全ての人々が、私たちのお客様です」という精神を忘れず、物流や交通の健全な発展に貢献しています。
52	㈱平沢塗装	江戸川区	(○) 高校卒	リフリート工法に依る外壁改修工事を多数施工実績が有ります。又ISO9001：2000認証取得しております。
53	丸工化学㈱	葛飾区	—	プラスチック製品製造業。従業員17名。主に容器の製造。中空成形機14台。小はスポイト位の物から大は灯油缶位の物迄できる。
54	丸善㈱	中央区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	明治2年に西洋の文物を国内に紹介すべく創業し、以来、日本の学術・文化の発展に尽くしております。また、新刊書店を全国に展開しております。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績（○印）	企業の概要・特色
55	㈱三井住友銀行	千代田区	(○)専修卒（○)短大卒 (○)四大卒	経営目標である「お客様、株主や市場、社会から最高の信頼を得られ世界に通じるトップバンクの実現」に向けて、強みである個人向けコンサルティング、中小企業向け融資、投資銀行ビジネスなどに注力しながら、他業態とのアライアンスなど新たなビジネスに積極的に展開していく。
56	㈱三築ツヅキシステム	港区	(○)専修卒（○)四大卒	電子機器卸売のシステム技術商社です。富士電機グループ特約店。特定建設業（電気工事）国土交通大臣許可。地球環境保全と省エネルギー関係の設備及び機器を得意とします。
57	㈱ムトーエンジニアリング	品川区	(○)高校卒（○)専修卒 (○)高専卒（○)四大卒	業務用大型プリンタ、プロッタの販売・保守メンテナンス、設計製図機器、光学式計測器の開発・製造・販売、リサイクルトナー販売、LED関連製品の製造・販売、オゾン関連商品の販売。
58	㈱明輝	渋谷区	(○)高校卒（○)専修卒 (○)高専卒（○)短大卒	プラスチック成型用金型製造。国内の工場は厚木、一関。海外は英、マレーシア、メキシコ、タイ。
59	森山精機㈱	文京区	(○)高校卒	流体実験装置の製造販売並びに教育機器の販売を50年継続。
60	山崎教育システム㈱	東村山市	(○)専修卒（○)四大卒	全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウエア企画、開発、販売（全国代理店500社）
61	山崎製パン㈱	千代田区	(○)高校卒（○)専修卒 (○)高専卒（○)短大卒 (○)四大卒	パン・和洋菓子等の製造及び販売。
62	ヤマ産業㈱	文京区	(○)高校卒（○)四大卒	教育備品を販売して50年。学校よりの信用を得て、安定している。
63	㈱雄電社	品川区	(○)高校卒（○)専修卒 (○)短大卒（○)四大卒	昭和5年創業以来一貫して、電気設備工事の設計・施工を行う。全国展開し、支店など8拠点。民間を中心に年間190億円の工事高。
64	㈱ルネサステクノロジ	千代田区	(○)高校卒（○)高専卒 (○)短大卒（○)四大卒	日立製作所と三菱電機の半導体部門の事業統合により2003年に設立。半導体を設計・製造するだけでなく、ソフトウエア技術、セキュリティ技術、ネットワーク技術などを持った、世界をリードする真の“インテリジェントチップソリューションプロバイダ”を目指し、ユビキタス社会に対応しています。

個　人　会　員

1. 堀居英治　2. 齋藤武捷　3. 倉持俊義　4. 渡邊征博　5. 梶谷正義

学　校　会　員　名　簿

50 音順

私立高校

	学校名	所在地	課程	平成 22 年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
1	愛国高等学校	江戸川区	全	普通科（240） 商業科（120） 家政科（80） 衛生看護科（40） 衛生看護専攻科（40）	平成 19 年春に新体育館落成。普通科は A（一般教養）・B（進学）の 2 コースが、商業科は「会計」・「情報処理」の 2 コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科（上級 2 年コース）は看護師受験資格を取得する。 上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に、大学（人間文化学部）・短期大学（家政科）・保育専門学校（幼児教育科・介護福祉士専攻科）がある。
2	安部学院 高等学校	北区	全	商業科（200）	1940 年（昭和 15 年）に創立して以来、一貫して「商業教育のみの女子高校」と歩み続け、現在で満 69 年を迎えました。 在校生には、「5 つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。 2 年次よりコース制になり、簿記 1 級の取得を目指す「会計コース」とパソコンなどの実務的な授業を多く履修する「ビジネスコース」の 2 コースに分かれて授業を行っています。 卒業後の進路は、以前は就職する生徒が 9 割近くを占めましたが、現在は就職希望者だけでなく、進学希望者も増えています。
3	岩倉高等学校	台東区	全	機械科（90） 運輸科（120） 商業科（90） 普通科（105）	我国最初の鉄道学校として明治 30 年に創立。卒業生の多くは鉄道・運輸業界で活躍している。機械科・運輸科・商業科・普通科を持つ総合制高校として、就職のみならず進学面でも成果が顕著である。なお、平成 21 年 4 月に新校舎が完成し、充実した環境の中で、特色ある各科の内容の充実や新コースの設置等、生徒の夢をより具現化する新カリキュラムで学力の向上をはかっている。
4	大森学園 高等学校	大田区	全	普通科（80） 工業系（280）： 機械科 電気科 情報技術科 総合技術科	【創立】昭和 14 年大森地区の中小機械工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。 【学校改革】創立 70 周年（平成 21）にむけて「学校改革」始まる。平成 16 年、新校舎建築に着手。平成 17 年、学校名を「大森工業高校」から「大森学園高校」に変更。同時に普通科を新設し、第 1 期生をむかえる。平成 19 年校舎建築完了、普通科を共学化する。
5	科学技術学園 高等学校	世田谷区	通	普通科（2,750） 電気科（900） 機械科（600）	昭和 39 年に広域の通信制工業高等学校として創立し、すでに 11 万人超の卒業生を輩出している。昭和 52 年普通科設置とともに現校名に変更する。一般生を中心とした単位制のコースと集団生対象の技能連携のコースを持つ。平成 18 年 4 月より単位制に週 4 日通学コースを設置し、様々な生徒のニーズに対応できるようにしている。 単位制は登校コースおよび e－ラーニングコースがあり、生徒個々の充実した学校生活をサポートしている。
6	蒲田女子 高等学校	大田区	全	普通科： デザインクラス（30） 医療福祉クラス（40） 幼児教育クラス（80） スポーツクラス（40） 生活文化クラス（60）	昭和 16 年に漢学者・簡野道明の遺志により設立。「子供の教育に最も大切なのは母親であり、その母親となる教育こそ教育の根本である」とし、道徳しつけ教育に重点をおき、自立する女性の育成を行っている。5 つのクラス制を導入し、同じ目的、希望を持ったクラス仲間と高校生活を送りながら、特に医療福祉クラスでは、ホームヘルパー 2 級、障害者ヘルパー、介護福祉士の国家試験受験資格を取得できる。看護系進学者に対する指導にも力を入れている。2 年次より特進クラスを設ける。
7	関東第一 高等学校	江戸川区	全	特別進学コース（男女 30） 進学選抜コース（男女 70） 進学 A コース（男女 120） 進学 G コース（男女 160） スポーツコース（男 80） 機械科（男 80） 建築ビジュアル科（男女 40）	平成 18 年度に建築とアートの融合を切り口として、建築科を建築ビジュアル科に科名変更した。同時に共学とし、女子生徒のデザイン教育にも重点を置く。
8	京華商業 高等学校	文京区	全	商業科（150）	生徒一人ひとりの個性を伸ばすオンリーワン教育を推進。資格検定試験合格にむけたきめこまかい指導を行っている。また、はやくからインターンシップをとり入れるなど、キャリア教育にも力を入れている。
9	京北学園 白山高等学校	文京区	全	商業科（180）	人間力を①自己学習能力②コミュニケーション能力③プレゼンテーション能力の 3 つの力と定義し、その育成に努力する。 現役大学進学率 7 割の新しいスタイルの商業科進学校。
10	昭和第一 高等学校	文京区	全	普通科（280） 商業科（0）	昭和 4 年設立、平成 17 年度男女共学開始。 校訓「明るく、強く、正しく」のもとに生徒一人ひとりがしっかりとした目標を持ち、円満な人格と高い教育を身につけ、国際社会にも通用する心身ともに調和のとれた人間を育成する。きめ細かな教科指導はもとより、生活指導にも力を入れている。
11	昭和第一学園 高等学校	立川市	全	普通科（331） 工学科（240） 機械コース 電子情報コース 建築デザインコース	普通科：特進コース、総合進学コース（2 年次より文・理選抜）。 工学科：1 年次共通の科目を学ぶ。2 年次から 4 つのコースに分かれる。総合工学コース、（進学向けのコース）、機械コース、電子情報コース、建築デザインコースで専門科目を学ぶ。
12	昭和鉄道 高等学校	豊島区	全	鉄道科（215）	鉄道専門科目を通し、サービス業務など実践的な教育に取組んでいる。
13	大成高等学校	三鷹市	全	普通科： 特別進学コース（70） 文理進学コース（280） 情報進学コース（40）	平成 22 年度より 3 つの改革を実施。①総合学習に「心の教育」として「7 つの習慣 J ○」を導入、② 17 年ぶりに制服を一新、③これまでのコースの特徴を十分に発揮できるよう特別進学・文理進学・情報進学の 3 コースを制定。2 年次には、更に特進選抜コースを編成する。

	学校名	所在地	課程	平成 22 年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
14	中央学院大学 中央高等学校	江東区	全	普通科（35） 商業科（65）	少人数クラスをベースにしながら、生徒一人ひとりの将来を考えた教育を展開しています。中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導に特色があります。
			通	普通科（300）	
15	東京学園 高等学校	目黒区	全	普通科： 普通コース（245） 選抜コース（35）	「文化に産業に、社会の要請に順応できる有為の人材を育成する」という建学の精神の基、「知・徳・体」の 3 拍子揃った生徒の育成に努めている。また平成 18 年には目黒区と協定を結び、本校の敷地内を一部区に提供し、災害時に於ける目黒区の備蓄倉庫を設置し、本校の生徒だけでなく地域の方々にも貢献できる体制を整えている。
16	東京実業 高等学校	大田区	全	機械科（135） 電気科： 電機コース（45） ゲーム IT コース（45） 普通科： ビジネスコース（180） 文理コース（90）	全科男女共学。週 5 日制。総合学園高校として各科、各コースの生徒は目的を持って学校生活を送ります。自立できる人間を育成するために、3 年間で各種の資格取得に力を注ぎ、進路の決定に役立てます。また、転科試験で学校生活を見直す機会を持ち、国際交流としてアメリカ・コロラド州への留学があります。 平成 22 年度より電気科ゲーム IT コースを新設する。
17	東洋高等学校	千代田区	全	普通科： 特進選抜コース（30） 特進コース（200） 総合進学コース（120）	平成 13 年、「独歩・共生」を校訓に掲げ、共学化を図り、21 世紀にふさわしい新校舎を竣工。100 年を超える歴史と伝統を礎に、「やさしく教え、きびしく育てる」をモットーとして、自主自立の精神と思いやりを大切にする人間づくりを実践しています。
18	豊島学院 高等学校	豊島区	全	普通科（375）	昨年、創立 80 周年を迎えた。近年、社会や生徒のニーズに応えるため様々な学校改革に取り組んでいる。平成 20 年度より特進・選抜・普通・文理の 4 つの進学類型をもつ完全普通高校として生まれ変わる。「人間教育」を重視した、進路指導の中で大学進学実績は年々伸び続けておりさらなる飛躍を目指している。
19	日本工業大学 駒場高等学校	目黒区	全	普通科： 特進コース（30） 理数特進コース（30） 総合進学コース（80） 工業科： 理数工学科（80） 国際工学科（40） 機械科（80） 建築科（40） 電子情報システム科(40)	100 年間培ってきた工業技術教育を大切にし、その有用性を生かした新しい時代の新しい普通科を設置。校名を日本工業大学駒場高等学校に変更し、生徒の卒業後進路の多様化に具体的な支援をする。
20	日本女子体育大学 附属 二階堂高等学校	世田谷区	全	普通科： 総合進学コース（80） 体育コース（80） 保健福祉コース（40）	本校は普通科の高校であり、総合進学・体育・保健福祉の 3 つのコースを設けています。旧来の福祉コースは介護福祉士の資格が取れる専門に重点を置いた教育に取組んできましたが、平成 21 年度より保健福祉コースに改組しました。保健福祉は「福祉」という分野を保育・看護医療も含めた広い“保健福祉”という視野でとらえ、本気で生徒一人ひとりの可能性を引き出すコースとして再出発します。
21	八王子実践 高等学校	八王子市	全	普通科： 特進コース（80） 文理コース（160） 普通コース（240） 調理科（80）	八王子の高台に位置し、優れた環境の中で、実践的な教育に取組んでいる。 平成 20 年度よりカリキュラムを一新し、普通科では特進コース・文理コース・普通コースの編成となる。 調理科については優秀な教授陣を要し、施設設備等最高のものを設置している。
22	豊南高等学校	豊島区	全	商業科募集停止 普通科（400）	長年、培ってきた“商業教育”の実績を活かし、普通科においても、社会で活躍できる人材育成を目指します。また、教科情報（パソコン等）では、より実践的な指導を行い、産業教育の一翼を担うことを学校の使命としています。
23	朋優学院 高等学校	品川区	全	調理科・ 調理コース（45） デザイン科・ デザインコース（45） 普通科・ 特進コース（60） 進学コース（185） 美術コース（45） 国公立コース（15）	調理コース：食の幅広い知識として調理専門科目を学習。卒業時に調理師免許取得。 デザインコース：コミュニケーションツールとしてのデザイン、コンピュータや手作業による造形を体験学習・共同作業などで学習。 全コース（3 学科 6 コース）とも男女共学。
24	村田女子 高等学校	文京区	全	普通科（80） 商業科（82）	夢を叶え素敵な未来を拓くために、目的を持って現役進学を目指す普通科と現代社会に即した知識と技術を磨き、社会で活躍するステキな女性を目指す商業科。 村田は二科四コースで生徒一人ひとりのキャリアデザインを支援しています。 その柱になるのが「資格取得」教育。中学までは気がつかなかった自分の可能性を、「検定試験」への挑戦で引き出し、自信につなげていきます。
25	安田学園 高等学校	墨田区	全	普通科（190） ビジネス情報科（80） システム情報科（40）	本学園は、創立者安田善次郎翁の建学の精神のもと、実践的能力に秀でた人材の育成を目指し、一人ひとりの個性の重視と可能性を伸張させる教育に重点をおいています。普通科に関するコース（特別進学・進学選抜・総合進学・中高一貫）と商業に関する学科にビジネス情報科・工業に関する学科にシステム情報科とし、社会に即応した教育を実践しております。
26	日野工業 高等学園	日野市	通	(40)	日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダの育成を目指す企業内高校です。 授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があります。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。

学　校　会　員　名　簿

都立高校

	学校名	所在地	課程	平成22年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
	▽農業に関する学科				
1	都立園芸高等学校	世田谷区	全	園芸科（70） 食品科（35） 動物科（35）	平成20年度に100周年を迎えたが、平成18年度に重点支援校の指定を受け、地域やNPO等との連携のもと「園芸高校リバイバルプラン」を推進している。園芸科、食品科、動物科では、2年次から、生徒の特性等に応じたコースを設け、食品科では、専門学校との連携により在学中に調理師の資格取得が可能である。 定時制では家庭的な雰囲気で学習が進められ、園芸技術専修生制度もある。
			定	園芸科（30）	
2	都立農業高等学校	府中市	全	都市園芸科（35） 緑地計画科（35） 食品科学科（35） 服飾科（35） 食物科（35）	全日制では、農業・家庭の両科の専門学習とその教育資材を生かし、環境教育に取り組んでいる。学校設定科目「地域貢献」を通じて、生徒が専門教科の学習の目的を理解し、自信を持って学べるように取組んでいる。平成19年より、都市からの農業の担い手育成事業である「東京アグリカレッジ」を東京農工大学をはじめとする地域の諸機関と連携・協力して開催している。さらに、食育、環境教育に重点を置き全校をあげて教材開発及び授業実践を行っている。 定時制では、「食育」、「環境」、「奉仕」を三本柱として地産地消と循環型農業の学習に取り組んでいる。また、平成21年度入学生より三修制を実施する。
			定	食品化学科（30）	
3	都立農芸高等学校	杉並区	全	園芸科学科（35） 食品科学科（70） 緑地環境科（35）	食料、農業、環境に関する地域のセンター校として、地域貢献活動を推進し、行動力豊かな生徒の育成に努めている。平成18年10月に環境省エコアクション21を取得し、環境マネジメントシステムを導入し、全校あげて環境負荷を軽減した学校運営に取組んでいる。 都立高校唯一の馬術部を有し、過去5年間連続して全国大会に進出している。
			定	農芸科（30）	
4	都立農産高等学校	葛飾区	全	園芸デザイン科（70） 食品科（70）	東京東部にある唯一の農業高校で、「食と緑の学園」をモットーに教育活動が行われている。 全日制では、2学科4類型を設置している。園芸デザイン科では栽培からバイオ、フラワーデザインまで、食品科では加工から食品デザインまで広く体験を通して学べる。 定時制は、午後3時から授業を開講しており、3年間の卒業認定制度により人気が高い。
			定	農産科（30）	
5	都立瑞穂農芸高等学校	西多摩郡瑞穂町	全	畜産科学科（35） 園芸科学科（35） 食品科（35） 生活デザイン科（70）	都内唯一の畜産科学科があり、大動物の飼育・管理が学習出来る。豊かな自然環境、恵まれた施設・設備の下、充実した専門科目の学習に取り組める。キャリア教育の一環として地域と連携した教育活動を推進し、望ましい職業観や豊かな社会性を育んでいる。 定時制も規模が小さく、きめ細かな指導が行われ、大変落ち着いた学習環境である。
			定	併合科（普通・農業）（30）	
	▽工業に関する学科				
6	都立足立工業高等学校	足立区	全	総合技術科（175）	機械・電気系の総合技術科。1年は機械、電気の基礎を共通履修、2年から機械系か電気系を選択、選択科目で得意分野を伸ばす。 第二種電気工事士を中心に資格取得に力を入れている。地域密着の工業高校として、小中学校や地域連携を積極的に推進している。 施設・設備拠点校に指定され、施設・設備が充実している。
7	都立荒川工業高等学校	荒川区	全	電気科（70） 電子科（35） 情報技術科（70）	全日制では「ものづくり」に関する技術・技能を身につけさせる。電気系専門技術者に必要な基礎的な学力をつけさせる。社会で役立つ資格（第2種電気工事士等）を取得させ生徒に自信をつけさせる。とくに、第2種電気工事士の合格者は、5年連続30名以上の実績を誇る。 定時制では基礎・基本の徹底を図り、分かる授業を行い、分かるまで教える。良いことを誉め、悪いことは正す。資格取得や検定合格で自信と意欲を育てる。
			定	電気・電子科（30）	
8	都立葛西工業高等学校	江戸川区	全	機械科（70） 電子科（35） 建築科（70）	都教委指定のマイスター型（職人育成・職業観育成）リーディング・テクニカル・ハイスクール。 施設・設備拠点校で最新設備が設置。 地域産業界、小中学校と連携し、ものづくりを担う人材を育成。 区役所や地域と協力し、地域に貢献する教育活動。
9	都立北豊島工業高等学校	板橋区	全	総合技術科（175）	○全日制 機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を幅広く学び、社会に貢献できる人材を育成している。危険物取扱者、電気工事士、工事担任者など社会で役立つ資格取得にも力を入れている。また、平成21年7月にエコアクション21の認証を取得し、環境教育にも積極的に取り組んでいる。都教育委員会より施設・設備の拠点校として指定され施設・設備が整っている。 ○定時制 機械科単科1クラス落ち着いた雰囲気の中で、工業技術者として幅広い知識と人間性を涵養している。中学校の先生方から「中学校で不登校だった生徒が何故、高校には通えるのですか」と高い評価を頂いている。 就職希望者の内定率100%を維持している。
			定	機械科（30）	

	学校名	所在地	課程	平成 22 年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
10	都立蔵前工業高等学校	台東区	全	機械科（70） 建築科（35） 電気科（35） 設備工業科（35）	○全日制 東京都教育委員会からものづくり人材育成教育プログラムに関わる「特定分野推進校」及び「ものづくり高大連携教育推進校」の指定を受け、3 年生から進学コース、専門コースに分かれ、スペシャリストの育成を目指した教育を実践している。 ○定時制 都内の定時制課程で唯一「建築と設備工業」の専門を学べる。 学修方法によっては、3 年間で卒業も可能。 社会人に教育課程の一部を公開する聴講生制度を実施している。 学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。
			定	建築工学科（30）	
11	都立工芸高等学校	文京区	全	マシンクラフト科（35） アートクラフト科（35） インテリア科（35） デザイン科（35） グラフィックアーツ科（35）	本校は、100 年を越える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。ものづくりを通して個性と創造力を伸長し、一人一人の感性と美的センスを磨き、心豊かな人間性をはぐくみます。ものをつくる技術は、心を伝える手段です。開校以来 2 万人を越える卒業生の中には、人間国宝や文化勲章受章者も輩出しており、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアをはじめとして、広く社会で活躍しています。また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や韓国・台湾等を含む大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種のコンテストで常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の感性・実力及び教育実績は全国のトップクラスにあり、内外から高く評価されています。 卒業後の進路は進学が最も多く、有名国公私立大の美術系を中心に幅広い分野への進学を果たしています。
			定	マシンクラフト科（30） アートクラフト科（30） インテリア科（30） グラフィックアーツ科（30）	
12	都立小金井工業高等学校	小金井市	全	平成 22 年 3 月閉課程	昭和 14 年に開校し、平成 21 年には 70 周年を迎える。地域に根ざした教育で、多摩地域を中心に、東京都の産業を支える人材を多く輩出している。卒業生数は 2 万人を超える。 全日制は平成 22 年度より多摩科学技術高校に変わり科学技術科を設置する。 全日制は 20 年度入試より募集停止、定時制は現状を継続する。
			定	機械科（60） 電気科・電子科（30）	
13	都立杉並工業高等学校	杉並区	全	機械科（70） 電子科（70） 理工環境科（35）	都立工業高校で唯一（都立高校全体で 2 校）、環境マネジメントシステム ISO14001 を取得し、全教科で環境保全に関する学習を進めている。風力発電及びビオトープがある。平成 20 年度に高反射率塗装（屋上）及び窓遮熱フィルム貼付、太陽光発電設備拡大。平成 17 年度の資格取得者数が都立高校 No.1。部活動が活発で、柔道部及び陸上競技部の関東大会出場など、どの部も輝かしい実績を残している。 平成 19 年度、「キャリア教育優良取組団体」として文部科大臣表彰、「環境学習及び地域温暖化防止取り組み等」において環境大臣表彰及び東京都教育委員会表彰を受けた。
14	都立墨田工業高等学校	江東区	全	機械科（35） 自動車科（35） 電気科（70） 建築科（35）	全日制は、4 学科を持つ工業の専門高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や検定合格など実践的な教育に取り組み、進路希望達成率 100％を常に維持している。100 年を越える歴史と伝統を持ち、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍している。 定時制においても全日制と同じく進路希望達成率 100％を実現しており、生徒主体の実践的教育に取組んでいる。
			定	総合技術科（30）	
15	都立総合工科高等学校	世田谷区	全	機械・自動車科（70） 電気・情報デザイン科（70） 建築・都市工学科（70）	平成 18 年 4 月に世田谷工業高校と小石川工業高校を発展的に統合して開校。全日制では、大学進学に対応した教育課程を編成するとともに、学科の枠を越えた魅力ある学校設定科目を多く設定することで、充実した専門教育を行なう。海外修学旅行も含めた国際理解教育の推進と、部活動推進指定校として、部活動の振興を図る。 定時制では、資格取得を中心に、2 年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの 3 コースが選択できる教育課程を編成している。また、高等学校卒業程度認定試験、技能審査及び都立砂川高校通信制課程併修等の学校外における学修により、3 年間での卒業が可能な三修制を実施する。
			定	総合技術科（60）	
16	都立田無工業高等学校	西東京市	全	機械科（70） 建築科（70） 都市工学科（35）	本校は、機械科、建築科、都市工学科の三科からなる工業高校である。都市工学科は全国でも数少ない学科であり、建築科は多摩地区の工業高校では唯一本校に設置されている。「地域との連携」や「資格取得」に重点を置いた教育を推進しており、どの科も地域に根ざした技術者の育成を目標としている。
17	都立多摩工業高等学校	福生市	全	機械科（70） 電気科（70） 環境化学科（35）	・昭和 38 年、西多摩地域に唯一の工業高校として開校、平成 21 年度で 47 年目を迎えた。平成 13 年度、時代とともに進展する生徒の多様化、産業社会のニーズ等に対応するため、工業化学科を都立高校で唯一の環境化学科に学科改変した。 さらに、地域産業を担う人材の育成、生徒個々の進路希望に応えるために、学科ごとに類型コース制を導入し、合わせて教育課程の改変を行った。 ・全校を上げての環境教育、環境活動が環境省が提唱する「エコアクション 21 環境経営システム・環境活動ガイドライン」の要求事項に適合するということで平成 19 年 3 月「エコアクション 21」に認証・登録された。 ・平成 21 年度文科省「人権教育研究指定校」。 ・平成 21 年度東京都教育委員会「スポーツ教育推進校」。

	学校名	所在地	課程	平成22年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
18	都立中野工業高等学校	中野区	全	総合技術科（175）	大正2年に設立され、幾多の変遷を経て昭和21年に創立されたものづくりを通して専門技術を育成する工業高校です。 平成5年「総合技術科」に学科改編、全日制課程は、機械類型・食品工業類型・工業化学類型を設置し、2年次より、設計製図系、電子機械系、食品工業生産系、食品生物化学系、生活環境化学系の5コースで専門性を高め、生徒一人ひとりの進路希望の実現を確実に果たしている学校です。 定時制課程は、機械類型・食品工業類型を設置し、ものづくりを通して専門技術を学び、課題研究の実践や地域社会との連携で成果を上げています。
			定	総合技術科（30）	
19	都立練馬工業高等学校	練馬区	全	キャリア技術科（175）	平成18年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートしました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3年生では6系列（機械加工技術、オートメカニック技術、設備技術、コンピュータ技術、デザイン・DTP技術、インテリア技術）から選択して、より専門的な学習を行います。
20	都立八王子工業高等学校	八王子市	定	募集停止	平成21年度、第4学年のみ。平成22年3月閉課程・閉校。
21	都立府中工業高等学校	府中市	全	機械科（35） 電気科（70） 情報技術科（35） 工業技術科（35）	都教委より「高度資格取得型リーディングテクニカルハイスクール」の指定を受け、各種資格取得に向けた指導に積極的に取組んでいる。 部活動推進指定校の指定も受け、野球部を中心にバスケット部、卓球部、陸上部、自動車部など活発に活動し実績をあげている。
22	都立本所工業高等学校	葛飾区	定	総合技術科（30）	・少人数指導の特色を生かし、きめの細かい・わかりやすい指導を推進している。 ・生涯にわたるキャリア設計に基づいた進路実現が図れるよう支援する。そのための技能・資格取得の指導が充実している。 ・平成18年に新校舎が落成。平成19年度にグラウンド、人工芝テニスコートも含め、全面改修工事完了。
23	都立町田工業高等学校	町田市	全	総合情報科（175）	総合情報科は、情報デザイン、アプリケーション、情報システム、電気システム、機械システムの5つの系列からなり、1年生では系列に関わりなく同じ学習内容を行います。2年生から自らの興味関心、進路希望等により各系列にわかれ勉強します。選択科目も多く、充実した施設・設備を活用し、自分にあった教育課程が選択できます。
24	都立向島工業高等学校	墨田区	定	募集停止	平成21年度第4学年のみ。平成22年3月閉課程・閉校。
	▽工業に関する学科（単位制）				
25	都立六郷工科高等学校	大田区	全	プロダクト工学科（70） オートモビル工学科（35） システム工学科（35） デザイン工学科（35）	平成16年4月に開校した、都立高校で初めての単位制・二期制の工業系高校である。東京都初の東京版デュアルシステムを持ち、夜間定時制課程も設置されている。全日制課程には、機械系のプロダクト科、自動車3級整備士資格取得可能なオートモビル科、電気電子情報系のシステム科、コンピューターグラフィックスとプロダクトデザインが学べるデザイン科の4科がある。各科ともに、一年次から「工業技術基礎」を中心に工業分野の基礎・基本を学べる。普通科目も1学年と2学年の英語・数学を習熟度別クラス編成にしたり、進学に必要な自由選択科目を用意している。 デュアルシステム科は、将来のものつくりを担う人材育成のために設置された全国で唯一のデュアルシステム専門の科である。地域の企業と学校で連携して生徒に技術指導する。企業での長期就業体験を最大29単位卒業の単位として認めている。 夜間定時制には、単位制と3修制を取り入れた生産工学科と普通科の2科がある。
			定	普通科（30） デュアルシステム科（30） 生産工科（30）	
	▽科学技術科				
26	都立科学技術高等学校	江東区	全	科学技術科（210） 専攻科（40）	都立高校改革推進計画に基づき設置された新しいタイプの進学型の専門高校です。平成19年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定され「科学技術と人間」などの特色ある学校設定科目の設置、分野選択制、理系進学に対応した豊富な学習量と少人数指導などを特徴として、大学や研究機関と連携を図りながら、理論、実験（実習）、研究の3ステップ学習による科学技術教育を行っています。
	▽商業に関する学科				
27	都立赤羽商業高等学校	北区	全	商業科（210）	社会を構成し運営するとともに自立した一人の人間として生きていくための総合的な力である【人間力】を培いつつ、生徒の目的意識を育成・高揚させ、その特性を伸長させる取り組みを重視した教育活動を展開している。その上で、【資格の赤商】【部活の赤商】【ボランティアの赤商】の3つの柱を中心に、多彩な学びや体験活動を通して、就職や進学など生徒の多様な進路実現を支援する学校を目指している。
28	都立足立高等学校	足立区	定	普通科（90） 商業科（30）	学級数16、在籍生徒数約300名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は4学級ある。英語科で習熟度別授業を実施するとともに、芸術科では2名の専任教諭により豊かな情操を育てている。定時制のコンピュータ教室は18年度最新機種に更新された。学校規模を生かし文化祭やスポーツ大会など数多くの学校行事が行われる一方、部活動もさかんである。

	学校名	所在地	課程	平成 22 年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
29	都立荒川商業高等学校	足立区	全	総合ビジネス科（210）	平成 18 年度より文部科学省「目指せスペシャリスト」スーパー専門高校に指定（3 年間）され、特色ある教育活動を展開している。地元商店会の PR フラッグのデザインを考案（年 4 回更新）したり、生徒のデザインによるラッピング都電（外装塗装）を、平成 18 年 10 月 1 日より現在まで通常運行させるなど地域に根ざした教育活動が高く評価されている。生徒商業研究発表大会・全国産業教育フェアにも参加。「本年度創立 50 周年」
			定	商業科（90）	
31	都立五日市高等学校	あきる野市	全	普通科：「ことばと情報」のコース（80） 商業科（70）	本校は四季折々に変化する武州の山なみに囲まれた静かな五日市にあります。普通科は平成 17 年度より「ことばと情報」のコースに改編しました。このコースではコミュニケーション能力の修得を柱とし 3 年間で「ことばの力」を身につけます。商業科では二年次に「簿記コース」と「情報コース」に別れ、これからの社会に対応した知識・能力・資格の修得を目指します。22 年度入学者選抜では、普通科及び商業科ともにバスケットボール女子 1 名ずつの文化・スポーツ特別推薦を実施します。 定時制は面倒見が良い指導で定評があります。進路実現 100%を目指しています。
			定	併合科（普通・商業）（30）	
32	都立葛飾商業高等学校	葛飾区	全	商業科（140） 情報処理科（70）	全日制、定時制ともに葛飾区に根ざした地域の専門高校として、キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の進路実現を確実に果たしている学校です。全日制は 18・19 年度部活動推進指定校で文武両道を目指しています。 定時制は、マーケティング部はもとより、バスケット、バレー、芸術部門で生徒の活躍が学校全体の活力になってきています。
			定	普通科（30） 商業科（30）	
33	都立江東商業高等学校	江東区	全	総合ビジネス科（175）	ビジネス三言語（IT、会計、英語）に力点を置き、実践的な商業教育を核として教育活動に取り組んでいる。同時に、社会人としての必須のマナーを身につけた生徒の指導を行っている。さらに、クラブ活動の振興を積極的に図り、学んで楽しい学校作りを目指している。
34	都立芝商業高等学校	港区	全	商業科（210）	平成 17 年度より 5 年連続日本商工会議所簿記検定 1 級合格者（大学卒業レベル）を出しています。公認会計士や税理士の道が開かれています。このような高度資格取得を基に、就職と進学にも力をいれています。「天下の芝商」として、商業（ビジネス）教育の先導的役割を果たしている学校です。
35	都立第一商業高等学校	渋谷区	全	商業科（210）	東京都の商業高校のリーダーとして、生徒に愛され、地域に愛され、都民の皆様に信頼される学校として、教職員が一丸となって教育活動をすすめている。 高度な資格取得、大学進学・企業就職の両方に対応した教育課程と進路指導を充実させており、半数以上の生徒が四年生大学進学で、指定校や公募推薦等で現役合格している。平成 18 年度には、卒業生が公認会計士試験に全国最年少（20 歳）で合格した。ソフトボール部及び簿記部など部活動も活発であり、地域との連携では、各種の学校開放事業、地域の行事への参加、出前授業等「地域に学び、地域に貢献する学校」として高い評価を得ている。
42	都立第三商業高等学校	江東区	全	商業科（210）	全日制・定時制ともにこれからの日本の経済社会を担う人材を育成する学校として常に商業教育の充実を図っています。良き伝統を継承し、商業教育を幅広く「ビジネス教育」として捉え、生徒の希望する進路を 100%保証できる新たな三商（SUN 商）として、リスタートしました。 今後も大学進学や就職に十分対応できる教育課程の点検・改善に鋭意取組んでいきます。
			定	商業科（30）	
43	都立第四商業高等学校	練馬区	全	商業科（140） 情報処理科（70）	平成 21 年度 70 周年を迎える。伝統と歴史を受け継ぎ、資格取得を基本にビジネス社会での自立を目指す。就職は、100%の実績を継続している。 ポスター制作、web ページ制作等、地域連携も始まった。全日制過程は部活動が盛んであり、今年度女子バスケットボール部は都大会ベスト 8 を達成した。公式野球アーチェリー部の活躍もめざましく、珠算部は昨年に続き今年度も全国大会に出場する。定時制課程は今年度閉課程となる。
			定	募集停止	
44	都立第五商業高等学校	国立市	全	商業科（210）	全日制課程は、「資格の五商」「部活の五商」といわれる伝統校です。生涯にわたる学ぶ土台となる基礎基本を幅広く身につけ、社会人としてふさわしい感性やマナーを磨く学校です。 定時制課程は、①基礎基本の学習を大切にします。②生活指導に力を入れて指導します。③資格取得と進路実現に力を入れます。④一人ひとりの夢を実現するために計画的に指導します。
			定	商業科（60）	
45	都立向島商業高等学校	墨田区	定	募集停止	平成 21 年度、第 4 学年のみとなります。（平成 22 年 3 月閉課程・閉校）
46	都立四谷商業高等学校	中野区	定	募集停止	平成 21 年度、第 4 学年のみとなります。（平成 22 年 3 月閉課程・閉校）
	▽ビジネスコミュニケーション科				
47	都立千早高等学校	豊島区	全	ビジネスコミュニケーション科（210）	・英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。 ・「使える英語」を目指して「多読と発表」を授業に取り入れ、会話もイングリッシュキャンプ（1 年）、海外修学旅行（2 年）と行事で実践。 ・新しいビジネス教育分野に NPO/NGO を学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学を特色とする。

	学校名	所在地	課程	平成22年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
30	都立大田桜台高等学校	港区	全	ビジネスコミュニケーション科（140）	平成21年度に開校した都内で2校目となるビジネスコミュニケーション科の進学型専門高校です。「本当に英語を使える人」を育てるために約7,000冊の英書を活用した「英語多読」の授業や「アメリカン・キャンプ（1年生）」「キャリア・アップ修学旅行in九州APU（2年生）」などの学校行事を行います。また、「キャリア・デザイン」「東京の経済」「ファイナンス」「ビジネスモデル研究」など多様な学校設定科目により充実したビジネス教育を行います。 平成23年度より大田区に全面改築をし、移転します。
	▽家庭に関する学科				
48	都立忍岡高等学校	台東区	全	普通科（160） 生活科学科（70）	平成18年4月1日、全日制・単位制、普通科と生活科学科の併置校として開校した。学科の目標は、普通科「大学進学希望の実現」、生活科学科「将来のプロフェッショナルとして必要な資質・能力の育成、大学進学希望の実現」である。 単位制を活用して様々な選択科目を設置するとともに、習熟度別授業、少人数授業により基礎的・基本的な学力の定着に努めている。また、大学・専門学校と連携した専門性の高い授業も実施している。茶道、華道、将棋などの「日本の伝統文化」を自由選択科目として第7限に設置している。
49	都立町田高等学校	町田市	全	普通科（320） 家政科H22年度から募集停止	戦前からの長い伝統を誇る本校家政科は、一般教養を高めるとともに、被服・食物・保育等の生活に関する理論と実習、またフードデザイン・ファッションデザイン・被服製作・発達と保育・家庭情報処理・家庭看護福祉などのユニークな専門科目を通して、高度な専門的技術・知識の習得、並びに豊かな人間性を育てることを目標に取組んでいる。
	▽福祉に関する学科				
50	都立野津田高等学校	町田市	全	福祉科（35）	平成8年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成18年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。介護福祉士の国家試験の受験資格が得られる唯一の都立高校である。
	▽国際関係に関する学科				
51	都立大島海洋国際高等学校	大島町	全	海洋国際科（80）	「海を通して世界を知る」というコンセプトに基づき、体験重視の国際教育を行い、21世紀の国際社会の課題を考え、大きな夢と志を形成します。生徒の進路希望を高いレベルで実現させるための学力向上を目指した教育活動を実践しています。 1年生では英語の基礎力を身につけさせ、海外語学研修を行います。2年生からは「国際社会系」と「国際海洋系」に分かれ、本校の国際航海船大島丸による国際航海学習を行います。前者は文系4年制大学を目指し、また後者は理系・海洋系4年制大学、海洋系公務員、海洋系上級学校を目指して取組んでいます。
	▽併合科				
52	都立大島高等学校	大島町	全	普通科（80） 併合科（農林・家政）（35）	農林科・家政科で構成されている。約17万㎡という都立高校の中で、もっとも広い校地を所有し、その半分を農林科が実験及び実習地として管理している。平成18年3月には、パーソナルコンピューターを20台更新し、実業意欲向上プログラムやふれあいロードプログラムに積極的に取組んでいる。 家政科は、大島町の生活産業や社会福祉施設と幅広く連携し、職業人、地域人としての自覚を促す授業を展開をしている。
53	都立八丈高等学校	八丈町	全	普通科（120） 併合科（園芸・家政）（35）	八丈島唯一の高等学校として、地域のニーズから左記の各科を設置している。 敷地面積は約7万平米（東京ドームの1.5倍）を有する。全日制は習熟度別学習や少人数制を導入し、生徒の学力に応じた授業を展開している（昨年度進路実績100%）。部活動が大変盛んで、生徒の約85%が所属している。 定時制は三修制を取り入れるなど、生徒の要望に柔軟に対応している。島のほぼ中央に位置し、学校内外、花と緑に囲まれた素晴らしい環境にあり、東京空港（羽田）から空路約50分、1日3便就航。大変至便な学校である。
			定	普通科（30）	
54	都立三宅高等学校	三宅村	全	普通科（40） 併合科（農業・家政）（35）	併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。
	▽産業科				
55	都立橘高等学校	墨田区	全	産業科（210）	本校は、キャリア教育を重視し、「ものつくりから流通、販売まで」を総合的に学習して、産業界で活躍する人材や起業家を育成することを目標予定されていることから、「ものづくり・ビジネス・IT」を専門教育の柱に、勤労観・職業観を身に付ける教育を実践します。
			定	産業科（60）	
56	都立八王子桑志高等学校	八王子市	全	産業科： デザイン分野（70） クラフト分野（35） システム情報分野（35） ビジネス情報分野（70）	本校はIT特区＆学園都市八王子に開校、産業界や地域社会との連携を発展させます。国家試験をはじめ高度な資格取得や検定合格で自信をつけ将来を切り開き、複眼的に考える力と専門性を身につけ各界において活躍する人材を育て、広く社会から信頼される学校を目指します。特色は、桑高ブランド指導計画「千の夢計画」をもって時代の要請に応える人材育成です。

	学校名	所在地	課程	平成 22 年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
	▽情報科（単位制）				
57	都立新宿山吹高等学校	新宿区	定	普通科（150） 情報科（65）	都立高校で最初に「単位制・無学年制」の昼夜間開講の普通科と情報科を設置した学校で、定時制・通信制（通信制は毎週土曜日にスクーリングを実施している）を併設している。また、生涯学習講座も開講しており、生徒も生涯学習講座を受講でき単位認定している 19 年目を迎えた特色ある学校である。生徒は自分の生活スタイルや学習ペースに合わせて学習に取組んでおり、毎年、国立大学、難関私立大学や専門学校への進学をはじめ公務員、就職などにも力を入れている学校である。通信制課程では、添削・スクーリング・定期考査の 3 点セットをクリアーしないと単位認定できない全国でも先進的な学校である。
			通	普通科（110）	
	▽総合学科（単位制、チャレンジスクール）				
58	都立青梅総合高等学校	青梅市	全	総合学科（240）	平成 18 年 4 月、東京都で初の全・定併置の総合学科高校として開校した。都立高校随一の広大な校地、大規模改修を行った新校舎、充実した施設・設備を有している。全日制課程は文科・理科、生命・自然、食品・健康、環境・資源、生活・福祉の 5 系列を設けている。 定時制課程は生命・自然、生活・福祉の 2 系列を設けている。
			定	総合学科（90）	
59	都立葛飾総合高等学校	葛飾区	全	総合学科（240）	平成 19 年 4 月に開校した東京東部地区初の全日制総合学科高校。 国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、環境サイエンス、情報メディア、メカトロニクスの 6 系列を設置し、生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目と大胆な選択制を採用して、生徒一人ひとりに明確な目的意識を育てつつ、進路実現を図る。
60	都立杉並総合高等学校	杉並区	全	総合学科（240）	都立桜水商業高校と都立永福高校とを前身として、平成 16 年度に都立で 3 番目の総合学科高校として開校。国際理解教育やキャリア教育を重視、部活動の推進や学校行事の充実などと合わせて、生徒の意欲を高め「生きる力」を育て、個性や能力の伸長をめざす。
61	都立世田谷総合高等学校	世田谷区	全	総合学科（240）	○平成 20 年 4 月開校 ○幅広い 6 系列（社会・教養、環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり）に 100 科目以上を配置し、大幅な科目選択制で、一人ひとりにきめ細かく対応した時間割を作成。 ○生活マナー（身だしなみ、頭髪等）を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャイム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視
62	都立つばさ総合高等学校	大田区	全	総合学科（240）	平成 14 年に新規開校した都立 2 校目の総合学科高校である。国際・コミュニケーション、美術・デザイン、スポーツ・福祉、情報・サイエンス、生産・テクノロジーの幅広い 5 系列を持ち、生徒の能力、興味・関心に基づいた個人別カリキュラムで勉強ができ、大学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001（国際環境認証）を取得し、環境教育にも力を入れている。 平成 19 年度「環境大臣賞」を受賞し、地域との連携を深めている。
63	都立晴海総合高等学校	中央区	全	総合学科（240）	東京都の総合学科高校のパイオニア校として平成 8 年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」の工夫やキャリア教育の充実をベースに、情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会経済の 6 系列に多様な選択科目を設置し、大学進学を視野に入れた生徒の進路実現を図れる学校である。
64	都立東久留米総合高等学校	東久留米市	全	総合学科（240）	本校は、平成 19 年 4 月に開校した全日制、定時制併置の総合学科高校。 全日制では、学ぶ意欲を育てるための魅力授業や先進的な進路指導により大学などへの希望進路の実現を図る。自然科学、人文科学、情報・ファイナンス、スポーツ科学、看護・福祉、美術・デザインの 6 系列を設置。 定時制では、教養、情報・ファイナンスの 2 系列を設置するとともに、三修制を実施。
			定	総合学科（60）	
65	都立若葉総合高等学校	稲城市	全	総合学科（240）	平成 17 年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。 人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の 4 系列を持つ。 教育目標のコンセプト **“TO BE AMBITIOUS, ACTIVE, AND ATTRACTIVE”** ※大志を抱き（AMBITIOUS）、生き生きと活動し（ACTIVE）、魅力あふれた（ATTRACTIVE）若者を育てる学校
66	都立大江戸高等学校	江東区	定	総合学科（150）	平成 16 年 4 月開校の三部制総合学科（単位制、定時制）高校。「伝統・文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行います。体験学習や実習を重視し、少人数の授業で一人一人が分かるまで指導します。「一人一人の学びを実現する学校」「一人一人のチャレンジを支援する学校」「地域に支えられ育てられる学校」
67	都立桐ヶ丘高等学校	北区	定	総合学科（150）	平成 12 年度に開校した、最初のチャレンジスクールで、創立 10 周年を迎えました。 『夢・挑戦・感動』を校訓に①昼夜間開講 3 部制②多様な教科・科目を設置した総合学科③生徒一人一人が自分の時間割を作る単位制④体験学習の重視⑤充実した相談体制など、特色ある教育活動を展開しています。 情報・ビジネス系列を中心に、資格取得に向けて補習等にも取組んでいます。

	学校名	所在地	課程	平成22年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
68	都立世田谷泉高等学校	世田谷区	定	総合学科（180）	「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「制作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。
69	都立稔ヶ丘高等学校	中野区	定	総合学科（210）	平成19年4月に昼夜間開講の定時制、単位制、総合学科のチャレンジスクールとして、都立四谷商業高校の敷地に開校した。安心してチャレンジするための「学校環境」、チャレンジの成果を確実にあげる「科目の積み重ね」、チャレンジを飛躍につなげる「キャリア教育」を行う。系列では、情報・デザイン、ビジネス・コミュニケーション、人間・環境の3つの系列を置く。
70	都立六本木高等学校	港区	定	総合学科（150）	平成17年に開校し五年目を迎えたチャレンジスクール。小・中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒及び、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしている。教育目標は“見つけて磨いて未来を拓く”である。演劇・美容・和太鼓・陶芸等、市民講師による特色ある授業も実施している。三修制により平成21年度末には第3回目の卒業生が出ます。
	▽普通教育を主とする学科（単位制）				
1	都立浅草高等学校	台東区	定	普通科（240）	平成18年4月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9階建て全館冷暖房完備のオフィスビルディングタイプの校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと保育体験や介護体験のできる「体験学習」などを特色とする。

国立高校

1	東京工業大学附属科学技術高等学校	港区	全	科学・技術科（推薦60、一般140）	科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2年次から、応用化学、情報システム、機械システム、電気電子、建築デザイン5分野に分かれる。

高等専門学校

1	都立工業高等専門学校	品川区	全	募集停止	平成18年4月に工業高専と航空高専が統合し、「産業技術高専」として開校し、工業高専としては募集停止となっている。現在、5学年は工業高専の学生として在学しており、実践的技術教育を通して、工学的知識・技術の習得の向上と「ものづくりスペシャリスト」の育成を目指している。
2	都立航空工業高等専門学校	荒川区	全	募集停止	昭和37年に創立され、現在は航空工学科（40名）、機械工学科（80名）および電子工学科（80名）から構成されている。平成18年4月に都立工業高等専門学校と本校が統合し、あらたに東京都立産業技術高等専門学校となった。同時に航空高専の募集は停止されたが、現在の在学生が卒業する、平成22年度3月までは存続する。
3	都立産業技術高等専門学校	品川区 荒川区	全	ものづくり工学科（320） 創造工学専攻（32）	工業高専と航空高専が一つになり、本科の“ものづくり工学科”内に新たな教育8コースを設置するとともに、2年間の高度な専門知識及び技術を学べる専攻科を加え平成18年4月に都立産業技術高等専門学校として開校しました。本校では首都東京の産業振興や課題解決に技術的観点から貢献できる“ものづくりスペシャリスト”の育成を目指しています。また、平成20年4月には公立大学法人首都大学東京に移管し、産業技術大学院大学との連携による9年間一貫のものづくり教育を推進していきます。科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる創造的で実践的な技術者を育成することを目指し、平成18年4月に、専攻科が設置されました。現在、産業技術大学院大学接続コースを含む6つのコースがあります。

専修学校

1	愛国学園保育専門学校	江戸川区	昼	幼児教育科（50） 介護福祉士専攻科（40）	本校は、昭和44年に設立された伝統のある専門学校である。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭2種免許状が取得でき、介護福祉士専攻科は、卒業と同時に介護福祉士資格が取得できる。学生は、完備された学園において、斯界の権威ある教授に囲まれ、楽しく熱心に勉強している。 就職についてみると、幼児教育科は毎年ほぼ100％の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職している。介護福祉士専攻科は、毎年100％の就職率となっており、介護老人福祉施設などに就職している。 卒業生は勤務先から、専門に精通しており、明るく元気で、礼儀正しく、真面目で就職後もよく成長するという評価を得ている。
2	青山製図専門学校	渋谷区	昼	建築工学科（35） 建築設計デザイン科（80） 建築インテリア工学科（35） 商空間デザイン科（30） 建築インテリアデザイン科（65） 建築設計研究科（60）	昭和52年に設立以来、設計・製図・デザイン・CADの技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の8学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。
			夜	建築科（60） インテリア工学科（30）	

	学校名	所在地	課程	平成 22 年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
3	国際デュアルビジネス専門学校（新校名） 国際観光専門学校（旧校名）	台東区	昼	国際観光学科 4 月生（40）10 月生（40） 国際ホテル学科 4 月生(40) 国際ホテルデュアル学科 4 月生（40） 航空貿易学科 4 月生(40) 医薬デュアル学科4月生(40)	実践的な観光、医療及び薬業従事者の育成を目指し、座学と企業実習を組み合わせた教育を行っている。 現場力のある職業人を養成していく。 平成 22 年 4 月より国際デュアルビジネス専門学校と校名を変更します。
4	国際理容美容専門学校	荒川区	昼	専門課程⇒理容科（80） 美容科（120） ビジネス美容科（120） 【修業年限 2 年】 高等課程⇒美容高等科 （40）【修業年限 3 年】	理容師・美容師の育成、ホスピタリティマインド豊かなエステティシャンの養成等で、本校が半世紀に渡る教育を育んできた、技術教育を超えた「技術者教育」と、心と技術が織りなす感動を未来へ伝承することができる「美の創造者」を育成することを目標としています。
			夜	専門課程⇒美容科Ⅱ部 （80）【修業年限 2 年】	
			通	理容科（40）、美容科（160） 【修業年限 3 年】	
5	中央工学校	北区	昼	建築学科、建築工学科、 建築設計科、女子建築設計科、 木造建築科、建築設備設計科、 建築室内設計科、 インテリアクリエイト学科、 インテリアデザイン科、 インテリア科、 工芸デザイン科（140） エンターテインメント設営科(20) 都市環境学科、土木設計科、 造園デザイン科、測量科、 地理空間情報科（130） 機械学科、 メカニカルデザイン科、 3D － CAD 科（50） スポーツ健康学科（40）	中央工学校は 1909 年（明治 42 年）に創設し 10 月 21 日に創立 100 周年を向かえた伝統と歴史を誇る専門学校で、社会に送り出した卒業生は 10 万人を超え、日本の国づくりをリードしています。 教育理念を『厳しい実務教育』『人間涵養教育』『楽しい学校生活』『誇りの持てる学校』とし、時代の変化やニーズに対応した教育内容と実習施設・設備を完備し、本格派の技術者を育成しています。学習面においては、クラス担任制で決め細やかな指導を行い、教師人も技術革新の時代にふさわしい内容で備えています。学生寮なども充実しており、地方からの進学者にも安心して学べる環境となっています。 資格についても建築系の全ての学科で卒業と同時に 2 級建築士の受験資格、土木測量系学科では国家資格の測量士補が卒業と同時に無試験取得できるなどプロフェッショナルになるためのカリキュラムを整えており、また、資格取得のバックアップ体制も整えています。 就職指導においては、全国に広がった卒業生とのネットワークを活かしてクラス担任と就職指導の担当職員が連携を取り、学生の希望職種に就職できるようにしっかりとサポートしています。昨年度もほとんどの学生が自分の目指す職業に内定を決めています。 「中央工学校＝就職に強い学校」の評判は広く社会に認められています。
			夜	建築科（80） 土木科・測量科（30）	
6	東京エアトラベル・ホテル専門学校	小金井市	昼	エアライン科（100） ホテル科（80） 観光旅行科（40） 鉄道交通科（40） ブライダル科（40） 国際英語科（80）	昭和 48 年の設立と同時にスイス航空日本人スチュワーデス第一期生の採用と教育を実施。以来、エアライン、ホテル、観光、ブライダル、英語の各分野に優秀な人材を送り出している。仕事に直結した豊富な実習や海外研修、インターンシップ実習で企業の現場を体験したり、ことば遣いや礼儀作法などのホスピタリティ教育にも力を入れている。こうした教育内容が企業から厚い信頼を得て、高い就職率につながっている。
7	東京工学院専門学校	小金井市	昼	研究科（40）情報処理科（40） 電機電子学科(40)航空学科(40) 建築学科（40） インテリアデザイン科（30） 情報システム科（40） 経営情報科（40） 法律情報科（30） 大学併修学科（40） コンサート・イベント科（40） 放送芸術科(30)音響芸術科(20) CG クリエーター科（40） Web クリエーター科（40） マンガ科(40)演劇・声優科(40) スポーツビジネス科（40） ミュージック科（30） ゲームクリエーター科（40） アニメーション科（30） グラフィックデザイン科（40） メディア文学科（20） 教育専攻科（40） こども学科(40)公務員科(40)	昭和 34 年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学附属東京テレビ高等技術学校」として創立。オックスフォード大学をはじめとする海外大学との提携や一流企業の現場でのインターンシップ体験、各業界で活躍している講師陣による徹底指導など、時代のニーズに応える高度な専門性や広い視野を持つ人材を５０年にわたり社会に送りだしている。 26 学科 44 コースもの多彩の専門分野から構成される総合学院であり、各専門分野の知識や技術を習得するのみならず、他の専門分野との学科間、コース間を越えた学びも可能。それぞれの専門分野が協力して成り立っている社会という形を学校内に再現することで、学生たちにとっては貴重な経験となっている。一つのキャンパスで様々な専門分野を学ぶ学生同士が交流できることで、新たな価値観に触れ視野を広げ、コミニュケーション能力を養えるのも特長の一つ。 また、4 年制大学通信教育課程と連携した W スクールシステムにより、「専門士」と「学士」の両方の学位の取得も可能。 ビジネスの最先端で求められる力を身につけたスペシャリストの育成を目指している。

	学校名	所在地	課程	平成22年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
8	専門学校東京工科自動車大学校 (新校名) 東京工科専門学校 (旧校名)	中野区	昼	1級自動車整備学科 (4年・40名) 自動車整備学科 (2年・160名) エンジンメンテナンス科 (2年・80名)	昭和44年設立。40周年を迎える本学園は自動車業界の様々な職種に対応した学科を設置するクルマとバイクの総合学園です。1級・2級自動車整備士（国家試験実技免除）をはじめとする各種資格取得や、レース参戦などの実践的な力を養うカリキュラムが豊富で、最新の整備技術の習得を目指します。 平成22年4月より、専門学校東京工科自動車大学校と校名を変更します。
9	東京誠心調理師専門学校	大田区	専門	調理師科2年制（120） 調理師科1年制（120） ［調理技術・洋菓子製パン 介護福祉調理・食養生］ フードコーディネイト専攻科 (40)	1970年創立。外食の歩みとともに変わりゆく「食」を見据えて取組んでいます。ビジネスとしての「食」をトータルにクリエイトできる人材を養成しています。 2007年8月京急蒲田駅前に新校舎完成。優れた教育環境の中で実践的な教育を展開。質の高い講師と教育環境で「ホスピタリティ・マインド＝おもてなしの心」を学びます。
			高等	調理師科夜間部 1.5年制（80）	
10	東京テクノロジーコミュニケーション専門学校	新宿区	昼	スーパーIT科（80） IT・デザイン科（80） ブリッジIT翻訳・通訳科 (80)	本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。 学科は、ITを核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取組んでいます。
11	東京美容専門学校	新宿区	昼	美容総合科（専門課程） (160) エステティック総合科 （一般課程）(20)	本校は1947年の創立以来、「堅実な学風、先進の技術」という建学の精神を大切に60年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約80店舗のヘア＆ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。 また、ヘアではウエラジャパン社、エステではソティスジャパン社といった、世界においてプロ達に信頼されるメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。
			通	美容通信科（通信）(120) エステティック通信講座 (16)	
12	東京ホテルビジネス専門学校	豊島区	昼	ホテル科（160名） マネジメントコース 料飲サービスコース ブライダル＆ ビューティーコース	接客＆ホテル業界に的を絞った専門教育を展開。客室、ドア・ベルパーソン、フロントを中心に全般的ホテルビジネスを学ぶマネジメントコース、料飲部門（料理・飲料）のサービススタッフを育成する料飲サービスコース、ホテルの宴会・婚礼ビジネスを総合的に学び、ブライダルのコーディネーターの仕事とビューティーに関する知識・技術の学べるブライダル＆ビューティコースがある。
13	日本電子専門学校	新宿区	昼	コンピュータグラフィックス科（160）、高度コンピュータグラフィックス科（40）、CG映像科（40）、ゲーム制作科（160）、ゲーム制作研究科（120）、ゲームCGデザイン科（80）、ゲーム企画科（80）、アニメーション科（80）、アニメーション研究科（40）、Webデザイン科（80）、グラフィックデザイン科（80）、コンピュータミュージック科（40）、Web総合技術科（40）、オープンソースシステム科（40）、組込みシステム科（80）、コンピュータネットワーク科（80）ネットワークセキュリティ科（80）情報セキュリティ科（80）情報処理科（120）情報システム開発科（80）高度情報処理科（80）ITスペシャリスト科（40）電子応用工学科（40）電気工学科（50）電気工事技術科（50）ケータイ・アプリケーション科（40）	「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する」という建学の精神により、現在は「最先端の技術をいち早く実学として取り込み、個性を生かせる教育環境の中で、国際社会に貢献することのできる感性豊かなスペシャリストを育成する」を教育理念として掲げ、独自の教育システムを構築している。 電気工学科、電気工事技術科および情報分野の学科では、経済産業省、国土交通省、総務省などから設定を受け、各種資格取得に有利な免除制度が充実している。 東京ゲームショウや米国におけるシーグラフなどの世界的な展示会・イベントに学生作品を出展、産業界から高い評価を受けている。また、技能五輪全国大会や各種ロボット競技会などへの参加を奨励し、多くの入賞実績がある。教育活動の一環として、こうした学外の活動にも積極的に取組んでいる。 平成19年、専門学校の取組としては初となる特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構による「第三者評価」を受け、47に渡る全ての評価項目に合格の評価を受けた。 1951年創立、これまでに9万名を超える技術者を輩出、産業界との強いつながりを持つ。
			夜	コンピュータグラフィックス科（40）、ゲーム制作科（40）、ネットワークセキュリティ科（40）、組込みシステム科（40）、情報処理科（40）、電気工学科（50）、電気工事士科（50）キャラクターデザイン科（40）	

	学校名	所在地	課程	平成 22 年度募集学科及び募集人数	学校の概要・特色
14	二葉栄養専門学校	武蔵野市	昼	管理栄養士学科（40） 栄養士科（120） 調理師科（300）	二葉栄養専門学校は開校以来数多くの調理師、栄養士の養成をしてまいりました。 平成 14 年より管理栄養士学科を東日本地区にて第一番目に設置し、平成 20 年には第 3 期生の 87.8％を合格者として輩出いたしました。栄養士科においては 2 つのコースを 2 年次に選択し、希望の就職先に合わせた教育により就職希望者に対する就職率 100％を実現しています。又、調理師科においては基礎衛生知識と食の安全を中心に学習、調理技術実習は 420 時間設定し、知識と技術をバランスよく学び即戦力に対応できる人材を育成しています。
15	ホスピタリティツーリズム専門学校	中野区	昼	旅行学科（80） 観光イベント研究学科（20） ホスピタリティサービス学科（150） 航空・運輸学科（130）	当校は旅行･観光業界から「プロを養成してほしい」という要請を受けて設立された「観光業界立」の学校です。観光・サービス産業で最も大切な「ホスピタリティマインド」＝「おもてなしの心・相手を思いやる心」を持った業界人を育成するため、「Smile for you」を合言葉に、学生・先生すべてが笑顔の絶えない学校を目指しています。 各学科とも企業実習を取り入れ、実践で役立つ資格取得や多くの体験型授業（イベント）にも取り組んでいます。また､2010 年度から導入する短期留学制度や 1 年間のサンドイッチ留学など国際感覚を養う独自の制度も特徴です。
			夜	旅行学科（70） ホスピタリティサービス学科（100） 航空・運輸学科（110）	
16	マリールイズ美容専門学校	新宿区	昼	美容本科（40） ・ブライダルアーティストコース ・国際スタイリストコース	本校は、前身であるマリールイズ美容講習所の開設が 1913 年と美容界でも有数の歴史を誇る美容師養成施設であり、創立者マリールイズ女史の言葉である「一に人格、二に技術」をモットーに人材育成に努めております。また､関連企業で明治神宮･明治記念館･目黒雅叙園にある美容室を運営する㈱美容マリールイズの協力のもとに、平成 22 年度より新たにブライダルアーティストコースと国際スタイリストコースを設置し、実践的なカリキュラムをくんでおります。
17	武蔵野東技能高等専修学校	武蔵野市	昼	総合キャリア学科（75）	「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間的成長を図る。 また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、臨海学習、学園祭などの体験学習を重視している。

短期大学

1	愛国学園短期大学	江戸川区	全	家政科： 家政専攻（50） 食物栄養専攻（50）	家政専攻では、衣食住の生活環境全般に取組む人材育成を、食物栄養専攻では、健康維持増進の元になる食生活指導のための人材育成を行っている。 栄養士及び教員免許（中 2 家庭）も取得できる。 平成 19 年 4 月に、実習室増設をはじめ施設設備が充実された。
2	嘉悦大学短期大学部	小平市	全	ビジネスコミュニケーション学科（150）	本学では、社会で即戦力として活躍するための実践的なビジネス知識・技能を 2 年間で習得します。 「医療・福祉」「会計・FP」「販売・営業」「観光・ホテル」「広報・企画」「編入学・留学」など多様な進路に直結した 6 つの育成モデルを用意しています。
3	東京家政大学短期大学部	板橋区	全	保育科（200） 栄養科（180） 服飾美術科（70）	本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。

平成21年度　会　員　中　学　校

公立中学校

	学校数		学校数		学校数		学校数		学校数
千代田区	3	墨田区	12	中野区	12	練馬区	34	調布市	8
中央区	4	品川区	16	杉並区	23	足立区	37	狛江市	4
港区	10	目黒区	10	豊島区	8	葛飾区	24	東大和市	5
新宿区	11	大田区	28	北区	12	江戸川区	33	羽村市	3
文京区	10	世田谷区	31	荒川区	10	武蔵野市	6	三宅村	1
台東区	7	渋谷区	8	板橋区	23	府中市	11		

都立中学校
都立白鷗高等学校附属中学校
都立両国高等学校附属中学校
都立武蔵高等学校附属中学校
都立小石川中等教育学校
都立桜修館中等教育学校
都立立川国際中等教育学校

私立中学校
愛国中学校
武蔵野東中学校

国立大学法人
筑波大学附属中学校

東京都産業教育振興会会則

第1章　総　　則

第1条　この会は、東京都産業教育振興会といい、事務所を東京都教育庁内におく。

第2条　この会は、産業界、教育界及び行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学及び専修学校などの産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第3条　この会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1) 産業教育振興運動の推進に関すること。

(2) 産業教育の調査研究に関すること。

(3) 産業教育の普及理解に関すること。

(4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研修会などの開催並びに、これらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。

(5) 産業教育振興に関し、関係機関への建議に関すること。

(6) 関係行政機関の施策に協力すること。

(7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。

(8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。

(9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

第2章　会　　員

第4条　本会は次の会員をもって組織する。

(1) 団体会員　会社、工場、本都内における学校及びこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの

(2) 個人会員　本会の趣旨に賛同したもの

(3) 名誉会員　産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの

第3章　役員及び職員

第5条　この会に会長1名、副会長3名、理事25名以上35名以内及び監事3名をおく。

第6条　会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2.　副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第7条　理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2.　理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。

3.　理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。

4.　理事は理事会を組織する。

5.　理事会は理事長が招集し、重要なる会務を処理する。

第8条　監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある者のほか、総会で選出する。

2.　監事のうち1名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある監事をもって充てる。

3.　監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条　この会の役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条　この会に顧問参与をおくことができる。

2.　顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条　この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2.　事務局の職員は理事長が任免する。

3.　事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4.　職員は有給とすることができる。

第4章　総　　会

第12条　総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2.　総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要なる会務を審議する。

第13条　総会の決議は出席者の過半数によって定める。

第5章　部会分会

第14条　この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

第6章　会　　計

第15条　この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条　会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア　産業界会員	1口　年額1万円
イ　学 校 会 員	
○高等学校全日制 ○高等専門学校 ○短期大学 ○専修学校	1口　年額6千円
○高等学校定時制・通信制	1口　年額3千円
○中　学　校	1口　年額2千円
(2) 個人会員	1口　年額5千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条　本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章　支　　部

第18条　この会に支部をおくことができる。

第8章　会則の変更及び解散

第19条　この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

第9章　付　　則

第20条　本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度

平成18年度：副会長2名を3名に変更

平成20年度：教育庁の組織改正により“学務部”を“都立学校教育部”に変更

本会への入会のご案内

本会は、「産業界、教育界及び行政当局が一体となって相互に連絡協調し、東京都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学及び専修学校などの産業教育の改善・進歩を図り、もって産業経済の自立・発展に寄与する」ことを目的としています。

産業に教育に関心のある方、ご入会いただける方、新会員をご紹介いただける方は、本会事務局までご連絡ください。

（問合せ先）　〒163-8001　東京都新宿区西新宿２－８－１
東京都新宿区教育庁都立学校教育部高等学校教育課内
東京都産業教育振興会　事務局
TEL　03-5320-6729　FAX　03-5388-1727

編集後記

- 本年度も、会誌の特集テーマとして「企業や地域と連携した学校の取組」と題して各学校の実践教育活動を昨年度に引き続き執筆をお願いしました。
- 産業界及び教育界が一体となり産業を支える人材を育成していくことは今後、ますます重要なものとなっていくと考えますが、その意味でも企業と地域と連携した各学校の取り組んでいる実践活動と企業の方からの経営理念の報告を今後に活用していただき、産業教育の改善に役立てていただければ幸いです。
- お忙しい中、本誌への執筆協力をしていただきました皆様に感謝し、御礼を申し上げます。
- 今後とも、本会へのご支援、ご協力を賜りますようお願いします。

ホームページアドレス　http://www.tosanshin.org/

東京の産業教育　第47号

発　行　平成22年（2010年）2月26日　発行
東京都産業教育振興会
〒163-8001
東京都新宿区西新宿2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内
TEL　03（5320）6729　FAX　03（5388）1727

印　刷　株式会社小薬印刷所

再生紙を使用しています

本会への入会のご案内

本会は、「産業界、教育界及び行政当局が一体となって相互に連絡協調し、東京都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学及び専修学校などの産業教育の改善・進歩を図り、もって産業経済の自立・発展に寄与する」ことを目的としています。

産業に教育に関心のある方、ご入会いただける方、新会員をご紹介いただける方は、本会事務局までご連絡ください。

（問合せ先）　〒163-8001　東京都新宿区西新宿２－８－１
東京都新宿区教育庁都立学校教育部高等学校教育課内
東京都産業教育振興会　事務局
TEL　03-5320-6729　FAX　03-5388-1727

編集後記

- 本年度も、会誌の特集テーマとして「企業や地域と連携した学校の取組」と題して各学校の実践教育活動を昨年度に引き続き執筆をお願いしました。
- 産業界及び教育界が一体となり産業を支える人材を育成していくことは今後、ますます重要なものとなっていくと考えますが、その意味でも企業と地域と連携した各学校の取り組んでいる実践活動と企業の方からの経営理念の報告を今後に活用していただき、産業教育の改善に役立てていただければ幸いです。
- お忙しい中、本誌への執筆協力をしていただきました皆様に感謝し、御礼を申し上げます。
- 今後とも、本会へのご支援、ご協力を賜りますようお願いします。

ホームページアドレス　http://www.tosanshin.org/

東京の産業教育　第47号

発　行　平成22年（2010年）2月26日　発行
東京都産業教育振興会
〒163-8001
東京都新宿区西新宿2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内
TEL　03（5320）6729　FAX　03（5388）1727

印　刷　株式会社小薬印刷所

再生紙を使用しています

印刷とともに80年

自費出版（教科書,教材,自伝など）、学会誌、
研究会・講演会録、句会録・歌集

長年にわたり培ってきた信用が当社の
財産です。安心してお問合せ下さい。

K.PRINTING 株式會社 小藥印刷所

〒104-0042　東京都中央区入船２－７－４
TEL (03) 3551－1222　FAX (03) 3551－3447
E-Mail kogusuri@blue.ocn.ne.jp

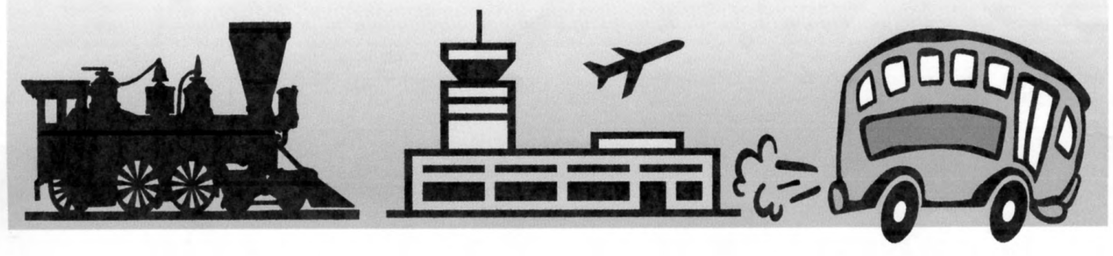
観光庁長官登録旅行業第1385号
ＪＡＴＡ会員
ＪＲ・航空券取り扱い

海外・国内旅行

太平観光株式会社

貸切バス・修学旅行・クラブ合宿・遠足
国内・海外旅行　お問い合わせ下さい

本社営業所　〒178-0063　東京都練馬区東大泉7-38-9
TEL　03-3924-1911　Fax　03-3978-1451
埼玉営業所　〒352-0025　埼玉県新座市片山2-9-10
TEL　048-481-1421　Fax　048-481-1772
Homepage　http://www.tabi.co.jp
E-mail　taihei@tabi.co.jp

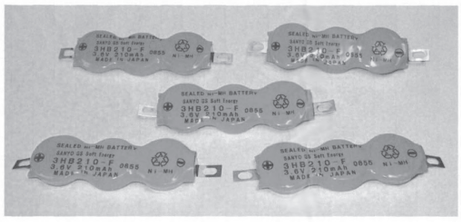


新しい世界を目指して

お客さまは私たちに何を期待しているか
お客さまの立場で、常に考え行動します

TDH VISIONと事業展開

Battery



VISION

1．顧客の付加価値を高める商社活動
2．新しい価値観を生む新商品・新市場開発

事業展開

＊電子部品の販売
- 沖電線の各種電線
- 沖電気のIC、リードリレー
- 日立製作所のIC、電源
- DDK各種コネクター
- 抵抗（ホーロー、セメント、金皮酸金等）、コンデンサー、LED等
- 日本スペリヤ社の鉛フリー半田(SN100C)

＊各種電池の製造、販売
- GSユアサ、組電池、ニッケル水素及びニッカド等
その他の電池（マクセル、サンヨー等）

＊沖データのオフィスプリンタ
- ビジネスの効率をアップさせるオフィスプリンタ

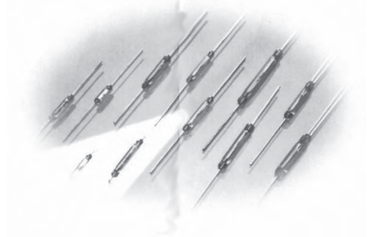
＊システム装置開発（ラボラトリー開発支援装置や量産製品性能検査機等の設計製作）

＊電子機器開発(試作品開発から製品完成までの各工程別受注)

＊マシニング加工(ステンレス製品からアルミニウム製品加工)

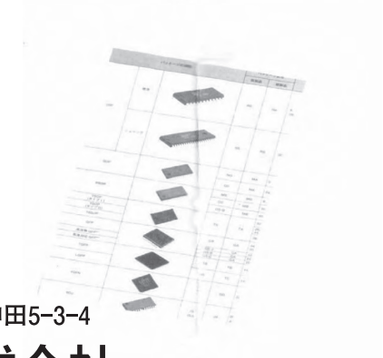
＊新商品開発(金属＋UDDメッキ液開発と応用商品)

OKI Reed Switch



低電圧のシグナルラインから高電圧のパワーラインまで、
お客さまの用途や目的に応じてお選びいただける
多彩なラインナップをご用意しております。

OKI IC



「ネットワークソリューションの沖電気」のビジョンのもと、
特徴ある製品をお届け致します

〒101-0021　東京都千代田区外神田5-3-4

TDH 東京デンハン株式会社
Tokyo DenHan Co.,Ltd

役立つ進路教材

高校生の新・就職面接の攻略

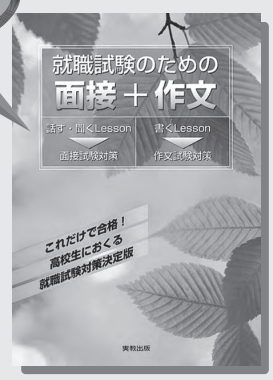
パーソナル・プレゼンテーション能力を身につける

就職面接のしくみ・ねらいを理解するために！
面接時のマナー・言葉づかい・態度を身につけるために！
十分な準備をして、自信を持って面接に臨むために！
実践的な面接対策ビデオ教材（約25分）

VHS版／DVD版　定価各18,900円（税込）

制作：（株）映学社

書込式ノート教材



就職試験のための面接＋作文

面接試験・作文試験に必要な基礎力養成のために！
企業採用担当者が何を見ているか、という立場に立った
面接ノウハウを解説！
書き込み式で、自分の考え方を整理できる進路教材

B5判／64頁　定価400円（税込）

キャリア教育用DVD教材
新・高校生のキャリアプラン

自分に合ったキャリアプランとは？
高校生必見のキャリア教育映像教材！

第1巻 自己分析と適性　自分を知ろう
第2巻 インターンシップ　自分を再発見しよう
第3巻 キャリアプランの立案　自分の将来設計を考えよう

DVD全3巻（各約20分）　定価各18,900円（税込）

制作：（株）映学社

実教出版株式会社
〒102-8377　東京都千代田区五番町5
TEL：03-3238-7777　FAX：03-3238-7755
http：//www.jikkyo.co.jp/

学校法人
専門学校

中央工学校

創立1909年　100年を超える伝統と実績！
“理論より実際”育てたいのは実践力です。

1.伝統校ならではの驚きの求人数！

2.資格取得を目指す！ ※測量士補・測量士 無試験取得学科あり

3.クラス担任制で細かいサポート！

創立100周年記念館「RISE」

建築設計・木造住宅・建築設備・店舗設計・施工管理
インテリア・デザイン・家具・舞台美術・ステージ設営
土木・測量・造園・機械設計・ＣＡＤ・スポーツ

学校見学・入学相談は随時受付！
体験入学・学校説明会も開催中！

日程など詳しいお問い合わせはこちらまで…

0120-79-1511

PC&mobile http://chuoko.ac.jp

〒114-8543
東京都北区王子本町1丁目26番17号
e-mail info@chuoko.ac.jp

2010年、マリールイズ美容専門学校は新しく生まれ変わります。

The Marie Louise beauty special school is newly reborn in 2010.

初代校長マリールイズが創設した美容講習所は、
96年の歴史を経て現在のマリールイズ美容専門学校に至っています。
「一に人格、二に技術」という理念のもと、美と幸せをプロデュースする人材を育成。
伝統を受け継ぎながらも、時代の最先端をゆく美容を取り入れ、
オリジナリティを大切にした教育方針で、「プロフェッショナル」を送り出していきます。

■国際スタイリストコース

海外経験豊かな教員の指導のもと、語学、技術ともに将来グローバルに活躍する美容師育成に力を入れています。

■ブライダルアーティストコース

マリールイズグループで婚礼美容業務に携わっている教員の指導のもと、着付けはもとより、ヘアーセット、アップ、メイクまで丁寧に教育しています。

●一学年40名の少人数体制 ●美容師免許取得可能 ●充実したサロン実習

「学校見学＆体験入学」随時受付中！ ※詳しくはお電話又はホームページにてお問い合わせください。

学校法人 マリールイズ学園 厚生労働大臣指定
マリールイズ美容専門学校

<お問い合わせ> TEL：03-3357-8015
www.marie-louise.ac.jp

東京栄養食糧専門学校

「食と栄養と健康」のスペシャリストの養成

- 管理栄養士科 【4年制】
- 栄養士科 【2年制】
- 製菓・カフェ経営科 【2年制】

POINT 国家試験に向け全力サポート

管理栄養士、栄養士、栄養教諭、３級レストランサービス技能士、フードアナリストなどの職業に必要な専門知識を習得できます。

東京調理師専門学校

「食と美と技」のスペシャリストの養成

- 調理高度技術経営科 【2年制】
- 調理師本科 【1年制】
- 調理師科 【1.5年制】

POINT はじめは、誰もが初心者

専門調理師、調理師、パティシエ、製菓衛生師、料理研究家などのプロをめざすあなたを基礎からしっかりとサポートします。

東京ホテルビジネス専門学校

「感動と美と歓びを創出する」スペシャリストの養成

- ホテル科 マネジメントコース 【2年制】
- ホテル科 料飲サービスコース 【2年制】
- ホテル科 ブライダル＆ビューティーコース 【2年制】

POINT 合言葉は『習うより慣れよう』

ホテリエ、ブライダル、ネイル、色彩プランナー、サービス技能士など、あなたの目標に向かって全力でバックアップします。

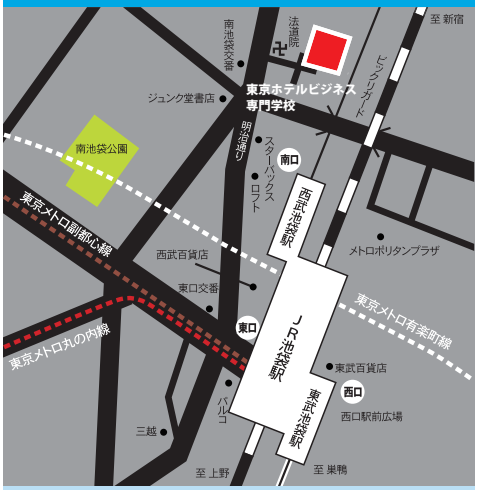
東京栄養食糧専門学校

〒154-8544
東京都世田谷区池尻 2-23-11
TEL： **03-3424-9113**
http://www.shokuryo.ac.jp/dietitian

東京調理師専門学校

〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-11-11
TEL： **03-3363-9181**
http://www.tokyocook.ac.jp

東京ホテルビジネス専門学校



〒171-0022
東京都豊島区南池袋 1-13-13
TEL： **03-5911-4111**
http://www.hotel.ac.jp

海外の提携ホテル

Château de Montvillargenne
シャトー・デュ・モンヴィラルジェンヌ

WALT DISNEY WORLD SWAN & DOLPIN
シャトー・デュ・モンヴィラルジェンヌ

海外の提携学校

ECOLE DE HOTELIERE INTERNATIONALE DE GRENOBLE
グルノーブル国際ホテル学校

TAFE Regency International Center
リージェンシー インターナショナルセンター

Hotelová Škola Mariánské Lázně
ホテルスクール マリアーンスケ・ラーズニエ